

令和三年十一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一三四号

日川協加盟

川柳塔



令和三年度 六賞発表

No.1134

十一月号

年賀広告募集

本誌一月号に掲載する年賀広告を募集いたします。

同人・誌友ならびに各句会（川柳会）のアピール及び誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申し上げます。

★個人 一口 1/9頁 二、〇〇〇円
1/6頁 三、〇〇〇円

（巻末の台紙に原稿を貼付または記入してお申込み下さい。）

★団体 次の四種といたします。

① 1/3頁 六、〇〇〇円

② 1/2頁 九、〇〇〇円

③ 2/3頁 一二、〇〇〇円

④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 十二月二十日（土）

川柳塔社

★同人参加★

「私の一句」

■今年中に発表された句に限ります。

■締切 11月20日（本社事務所宛）

同人の皆様へお知らせ

本年十月に予定しておりました「同人総会」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催できませんでした。

報告案件につきましては書面にて十二月号に同封いたします。

各位ご確認くださいますようお願い申し上げます。

川柳塔社

第15回岡山県川柳大会

小島 蘭 幸

新型コロナウイルス感染拡大、第5波により開催を心配していました第15回岡山県川柳大会。9月中旬から感染者が減少し、全国一斉に緊急事態宣言が解除され、10月10日に無事開催されました。

検温、手指の消毒をして受付を済ますと、私は来賓ということで選者室に席が用意されていました。千人近く収容出来る笠岡市民会館・大ホール。出席者は約百名でしたので、ディスタンスもバッチリでした。

アトラクションは、わいわいスターズの皆さま。「瀬戸の花嫁」「岸壁の母」「故里」美しい演奏、歌声に涙する人もいたようです。

高木勇三岡山県川柳協会会長の力強い挨拶で開会、来賓の小林笠岡市長は、自作の川柳二句をいれてユーモアたっぷりに笠岡市を紹介されました。私は第15回岡山県川柳大会が開催されるのは、岡山の

多くの先輩の努力、情熱があったからだと、半世紀以上前に書いていただいた短冊の作品、作者を紹介させていただきました。

春を着て女も夢を果すとき

好啓児

こひびととあまのじやくなるわかれする

操

どう嘘をついても母のまるい膝

風来子

披露のトップは、ジュニア（事前投句）北川拓治選です。三才賞受賞の三名が披露後、表彰されました。ジュニア川柳、これからもずっと続けて欲しいものです。

川柳塔社からは、永見心咲さんと、新家完司理事長が選者の大役を果たされました。

三才賞は、殺菌、消毒液ハンドソープでした。主催者の心遣いが嬉しかったです。

この大会で嬉しい情報がありました。それは、川柳塔社同人の藤井智史氏が、第65回笠岡川柳大会誌上大会「葉」で句碑を獲得されたことです。句碑は、古城川柳公園に令和4年5月に建立されます。記念大会も開催されますので是非出席して喜びを分かち合いたいと思います。

一日も早くコロナが収束しますように。



座右の句

逝く前に逢いたい人が一人いる

(修平)

私の句

困った時だけ夫の手を握る

山田厚江

川柳塔 十一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「斑鳩竜田川」

■巻頭言 第15回岡山県川柳大会……………小島 蘭 幸 ……(1)

初代「中島生々庵」主幹……………西 出 楓 楽 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌[㊦]……………木 津 川 計 ……(38)

西尾葉句集「水鶏笛」……………(39)

自選集……………(40)

句集の森……………西 出 一 栄 ……(43)

温故知新……………(43)

水煙抄……………川 上 大 輪 選 ……(44)

英語 de Senryu[㊦]……………吉 村 侑 久 代 ……(61)

誹風柳多留二三篇研究 15……………(62)

令和二年度……………(64)

路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞
檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

初代「中島生々庵」主幹

西 出 楓 楽

路郎師が「自分亡き後は『川柳雑誌』は廃刊にせよ」との遺言を残して、永眠されたのは昭和40年7月。その後不朽洞会員(同人)有志を中心に「川柳塔」と改称、生々庵先生を主幹に推し10月号から再スタートしました。それから昭和57年まで「川柳塔」を牽引されました。

路郎門下で昭和14年から川柳を始められた生々庵先生は、日本川柳協会創立委員のち理事長、数多くの大会選者などの活躍をされ、今日の川柳の発展は先生抜きでは語れません。

先生の本業は大阪で有名な小児科医。「門前市をなす」繁盛(?)振りと言っても過言ではありませんでした。私の長男も生まれた時から義母・一栄の川柳の関わりで、心齋橋の近くの「中島小児科」でお世話になることになりました。

待合室は親子連れでびっしり。ほとんどは病気ではなく、指導を受けるための母子です。裏の空き地の遊び場には「すべりんこ親は涼しいとこで待ち」(路郎)

■追悼文（遠山唯教さんに捧ぐ また逢う日まで）……………澤井敏治……………（73）

愛染帖……………新家完司選……………（74）

檸檬抄「構える」……………栗原道夫・久保田千代共選……………（78）

一路集「パズル」……………永井松柏選……………（82）

「誤算」……………伊塚美枝子選……………（83）

初歩教室「絵本」……………高瀬霜石……………（84）

川柳塔鑑賞……………石橋芳山……………（86）

水煙抄鑑賞……………前田楓花……………（88）

せんりゅう飛行船⑩……………新家完司……………（89）

インスピレーション・ナビ 印象吟……………大西泰世……………（90）

九月本社誌上句会……………（92）

各地柳壇（佳句地十選／江島谷勝弘・柳田かおる）……………（101）

十一月各地句会案内……………（114）

柳界展望……………（116）

■編集後記（ひとこと／森田旅人）……………朱夏・眞澄……………（118）

座右の句

小さなグー大きなパーが受け止める（紀の治）

私の句

添え書きの絵ハガキ送る旅の宿 本庄 汪



の木碑があり、ほっこりしたものです。

1 回到診察室へ5組が入ります。先生は童顔、優しそうで小児科医にピッタリ。ところが豈はからんやとっても怖いのです。遠慮なく叱りつけられ、中には泣き出すお母さんもある始末。先生は母乳第一主義、ミルクに甘えず健やかに育つように、との思い遣りだったのでしょうか。成長ぶりを診察の上、月齢に合わせた離乳食も指導下さいました。お陰で大人と同じ硬さのご飯と、消化のいい副食が十ヶ月で食べられるようになりました。

二男三男の時は育児で多忙な上、大混雑で時間をとられることから、近所の小児科に掛かり、足が遠のいてしまいました。

亡くなる数年前川柳は引退しておられたので、柳論をお聞きしたり選をしてもらった記憶がないのは、とても残念です。小石夫人と共に数多くの趣味を持たれ、いずれも玄人はだしの域。三人の子息を医師として育てられた先生の89年は、人生を2倍生きられたと言えましょう。

生々流転昼寝する日もある暮らし

（生々庵）

虫しぐれきぎつつ眠る今日も無事

（小石）



小島蘭幸選

倉吉市 牧野芳光

曇のちくもりコロナで自粛中
救急車呼び老人の仲間入り
神の木に神の宿った痕がある
万物の涙が海の塩になる
椎の実と一緒に母が降ってくる
友達はどこへ行ったか 秋の空

岡山市 永見心咲

全否定するのも愛の深さです
投げ出してみなさいゼロに戻りなさい
チャペルを覆う蔦もすっかり老いてきた
曼珠沙華わたしの朱はオリジナル
稜線を染め抜くほどの思慕である
振り向いてくれたらきつと手を合わす

今治市 永井松柏

惚れっぽいDNAを持つ血筋
受け狙いしているのではないバンダ
ピリオネアの記憶の底に飢えの日日

漆黒の闇から薄日差してくる
煉獄に咲いて夾竹桃の白
オフの日は家庭の味で癒される

堺市 楽原道夫

ソフトボールよりも可愛い夏みかん
帰り際にも駅前地図を見る
責任感だけで電柱立っている
あらぬ方を眺めて待っている電車
微笑だけ浮かぶ夜空を見ていたい
ボールペンようやく秋になりました

大阪市 谷口義

戦争で始まりコロナで終る世代
友だちからメール午前三時受信
逆立ちをしても何にも変わらない
耳が遠いと言うとセールスマン帰る
あらたまる程ではないがご飯です
一度見てみたい還暦の土俵入り

松江市 石橋芳山

誕生日行き場が分からないままに
破れてる空をつくろうホッチキス
鼻歌がこぼれる桃缶が開いた
交差点じつと見つめているカラス
鳥群れてヒッチコックが振るタクト
真四角な私も煮崩れてきたか

西予市 西田美恵子

古里の訛りで母のメール来る
初恋も星になったと言う便り
まだ母を越えれぬおはぎ丸めても
脇道に咲く可憐な花を見ましたか
直球で勝負どこからでもどうぞ
あきらめないでこんな良い日もあるじゃない

米子市 竹村紀の治

新米も嬉しがつてる塩むすび
残さずに食べて体形ラ・フランス
一日中観ても楽しいネコ歩き
言い訳を考えながら今日も飲む
ゆっくりと時計が回る平らな日
お楽にと言われた膝が礼を言う

藤井寺市 太田扶美代

八月の楽器は魂を揺する
精一杯幅を持たせてある返事
一足す一は二で退屈なハナシ

レクイエム妹と見た茜雲

入道雲いっぱい惜しい人が逝く
ネクタイの歪んだ人にある魅力

岸和田市 岩佐ダン吉

コース外れやつと私の道になる
廃線と駅舎も朽ちる里になる
汚染海水の意見もぜひ聞こう
マスクして急に強気じゃないですか
勇気など口にはしない母でした
弁舌がさわやかどうも馴染めない

鳥取市 福西茶子

まあいつか焦げても旨い煮転がし
脳年齢思ったよりも若かった
真子さまの一途な愛と皇室と
加齢臭消えたが目眩するシヤネル
百万回言っても飽きぬアリガトウ
ライバルは百点くれぬカラオケ機

三田市 上田ひとみ

結果など気にしていいはずはない
性格は隠しようないそのお顔
なだめたりすかしたりして今日ひと日
眠れない夜がだんだん増えていく
甘いものぐらいで疲れ取れません
簡単に限界突破なんて言う

枚方市 栃尾奏子

どんぐりがひとつ思い出連れて秋
ぜんざいが兄弟喧嘩終わらせる
正解を知るばあちゃんの膝の上
会えぬから想う月命日の梨
愛されて愛して子沢山の居間
子の寢息夢の世界へ誘われ

松山市 大内せつ子

誰にも言わない黒塗りにしました
そっとそっと両手で受ける処方箋
スケルトンのわたしなのいつでもどうぞ
ひめごとは西日に焼けた四畳半
平行線すこしずらしてから眠る
風よ吹けわたしの欠片抱いてゆけ

熊本市 杉野羅天

前線停滞今日は八月十五日
釈迦岳へ釈迦の顔した雲が立ち
夏の舌踊る真桑瓜のザラリ
五円葉書来る永久保存版
ワクチンよ届けと平和への折り
栗御飯秋の元氣となりにつけり

堺市 澤井敏治

秋風にすうつと扉開いたよう
前衛派一本立てたネギ坊主
半熟のたまごが抱いている自由

賑わいが贅沢と知る自粛の日
拜んでも無駄とポストは素っ気ない
旅人の度肝を抜いた鯨起こし

箕面市 中山春代

コロナ猶虫干しをするおでかけ着
カフエオーレ大正琴の息をつぐ
積ん読の山にかくれる借りた本
六甲が遠くになった登山靴
草の露一直線に曼珠沙華
この二年体重計に乗ってない

豊中市 松尾美智代

つゆ草の青が笑ってくれた朝
朝ご飯抜いた事ないお味噌汁
毎日が私の歴史ペダル踏む
夏草に挑む私の薬帽子
スイッチを切るととろけていく私
最後まで自分の足で歩く地図

三田市 稲角優子

八月忌語り継ぐべきこと多く
ながれ雲戦禍の子らをみてきたか
妻が逝き悲しみの海荒れたまま
残像は陽炎のごと はかなげで
柿紅葉母のこころの闇ほどく
再会の雪ふる街はむらさきで

朝霞市 前田 洋子

浜風も酷暑もはね返す球児
八月の便座ひんやり長い雨
入会は即退会は焦らされる
ノーマスク昔のようで二年前
初冠雪富士のお顔はべールごし

越谷市 久保田 千代

命ある限り求める遥かなるもの
延命の是非問うている昨日今日
子も育ち勝手気ままな椅子の向き
百日紅燃えて太陽独り占め
趣味の灯がわたしを照らすよい余生

東京都 川本 真理子

目測の誤ることの増えて秋
台所からいつも幸せそうな音
老犬とすっかり合ってくる歩調
老犬のどうしてもにまた付き合う
河口には達した あとは月を待つ

東京都 まえで とよこ

選手出場ひとりひとりに胸うたれ
競泳女子車いすから水中へ
笑顔の会場また会いましょう つぎはバリ
つえ買ったがどこにも行かずくれる日日
ながい戦争おわったらしい秋の空

八王子市 川名 洋子

捨てたのに昨日が今日もついて来る
目に見えぬコロナと共に夕陽みる
ワクチン済んでもアクセル踏めぬまま
今日も笑って人間を取り戻す
あなたは若いまま老いて行く私

横浜市 川島 良子

老骨の血でも旨いか秋の蚊よ
忠告を素直に聴く日聴けない日
長生きはイヤダイヤダと飲む薬
スケジュール埋めて淋しさから脱皮
バッグにも車にも置く予備マスク

横浜市 菊地 政勝

店仕舞いすべて特価と信じ込む
居酒屋にボトルを預けそれつきり
居酒屋をちよつと覗いてみたくなる
わたしだけ絶対ならぬ認知症
まあいいか丸く疊んで寝るとする

富山市 島 ひかる

オリ・パラも終り秋風心地良い
一句お願い白の色紙が送られる
出来ぬとも言えず八十路の文字で書く
色紙から元氣貰うと言う便り
同人の最後のページみな佳句

可児市 板山 まみ子

コロナ禍に食べられぬ子もいる日本

長雨に泣き猛暑にはへこたれる

老いた眼は少しの汚れ気がつかぬ

ヨロヨロ ヘロヘロすぐに来る現実

五体満足で努力が苦手でず

名古屋山 本 三樹夫

コロナ禍に右往左往の救急車

巣籠りに財布のひもが引き締まる

病んだ後の歩けることがすばらしい

かち氷ないが燃えてる甲子園

政治家と国民の間に秋の風

犬山市 金子 美千代

酷暑にコロナ誰のためのオリパラ

限界はどこまでアスリートの汗

長雨の我慢トマトも破裂する

ゴミ置き場みんな断捨離してるよう

ガンは助かり転んで逝くなんて義弟

犬山市 関本 かつ子

長雨に耐えた稲穂が揺れている

「長崎の鐘」菅さんはご存知か

暑くても食事の後は熱いお茶

時々気付かぬ振るもするマस्क

地元でも藤井君とはもう呼べぬ

愛知県 早川 遡行

隙間風埋めるケーキを買ってくる

コロナ禍を卓球クラブで汗流す

反論にあつて歩幅を変えて見る

試食した儘では去れぬ気の弱さ

真夏日に激辛ラーメン食べている

和歌山市 上田 紀子

ひと彩を足して女の秋多彩

川柳の深い森へと七十路坂

経木より薄い人情知る世間

マンネリの絵から消えてた紅の色

手始めに地球の温暖化止める

和歌山市 柏原 夕胡

咲いた咲いた月下美人が咲きました

寝る前に亡姉の写真と対話する

果ごもりの作句に燃えているのです

元氣になれたら一万歩歩きたい

お料理を感謝してくれる相棒

和歌山市 古久保 和子

深爪のその後は口に出せません

活字という睡眠薬が効きすぎる

オール電化サンマ煙も味のうち

日常へ茶碗二つに皿二枚

あれそれこれ総て納得して帰る

和歌山市 松原寿子

日に何度わかっていても蹴躡く
亡母の歳思い階段踏みしめる
催促へ二度目の涙赦そうか
ステイホーム備蓄もすぐに底を突く
大丈夫いずれは返す免許証

海南市 小谷小雪

身につまされるあお向けになった蟬
気配り不足充電をせがまれる
水切りに萎れた花の上げた顔
朝メール溜まるストレス飛ばす風
穏やかな低空飛行許される

橋本市 石田隆彦

印不用気軽にサイン出来ないぞ
閉じこもり発酵してる反抗期
表情に出さぬがことば胸を刺す
盆なのに草ぼうぼうに先祖墓
三世代居ててにぎやか一軒屋

京都市 清水英旺

亡き父の年齢超えてまだ生きる
弟の遺作の湯呑みあたたかい
置き去りにされる不安がつきまとう
不思議なり嘘が書けない問診表
対コロナ敵前逃亡するなんて

京都市 藤井文代

咲くよりも散るを考えてる傘寿
街の消灯病院よりも早すぎる
自粛宣言危機感なくす怖い慣れ
繁華街道の広さに今気付く
果籠もりを言い訳にして主婦のスト

長岡京市 山田葉子

炎天下ススキが秋を呼んでいる
抽出しの奥にはベアの腕時計
前置きが長いピントがずれてゆく
たわい無い話が続くティータイム
立ち止まっても影どこまでもついてくる

大阪市 石田孝純

向日葵は枯れた昨日は振り向かず
咲ききったひまわりの歌ハ長調
どしゃ降りにビニール傘の腕まくり
パラソルは気取り屋ツンと天を向く
野仏は甘党おはぎ置いてある

大阪市 磯島福貴子

眼鏡補聴器入れ歯杖無しはつらつと
すれ違うバツが悪いな同じ服
清清し洗濯日和秋日和
五輪後の公園増えたスケボーが
案山子立つ青田彩る彼岸花

大阪市 岩崎公誠

泣く時も笑う時にも刻む時
お婆さんウイッグ脱ぐと痩せている
慣れたペン文字が弾んですらすと
寄り道を選んだことに悔いはない
接種二回熱など出ない枯れた腕

大阪市 岩崎玲子

我身ひとつコントロールがままならず
断捨離の思い切りに力いる
思考さえ自粛しすぎて衰える
老いふたり見て見ぬふりも大事です
ビンの蓋いよいよ力足りません

大阪市 内田志津子

プチマトあまた今年の夏終わる
定刻に新聞届く日の平和
なぜナニの連呼三歳のはばたき
訳もなく涙が出ますご来光
収穫を終えた田畑が光りだす

大阪市 宇都満知子

孫が来てぱっと弾けた元氣玉
長袖のシャツにアイロン久し振り
背中をさするしか出来なくてごめん
スタックカートの朝レガートの夕べ
ドウダンツツジ散歩の足を止める赫

大阪市 江島谷勝弘

おかしいぞおとなしくなった文春
一年半もう許してよコロナ様
あと十年年金暮らしするつもり
自粛中どなたさまにも義理を欠き
歳かしらなんでも拝む癖がつき

大阪市 榎本舞夢

二〇二〇オリンピックも無事に済み
アスリート生き方学ぶ活気付く
米寿祝絆の深さびっくりす
コロナ禍の互いの安否うれしがり
また元氣お逢いする日を約束す

大阪市 大川桃花

あれ以来まだ行けてない繁昌亭
優しそうな人を選んで道を訊く
意識して咀嚼しいやと孫が言う
お早うと言っただけです突破口
好奇心強い老婆に要注意

大阪市 大治重信

暑かった机の上に夏残る
夏草を抜いて楽しむ入日かな
水を撒く明日の暑さを予期しつつ
小学校青田真っ直ぐ一里程
遠き人電車音なく離れゆく

大阪市 奥村 五月

酒飲まぬ子供がコロナ知事に聞く
居候コロナなかなかでいかぬ
何時するの教えてほしい衣更え
左遷され家族の愛がよく分かる
各国がわしの鳥だとわめいてる

大阪市 小野 雅美

悩むのはやめよう朝が来てしまう
見ないふり聞こえぬふりで増える罰
自分探しを唱え平和から令和
吐く息が近頃ブルーばかりです
星ひとつ生まれ序列をつけられる

大阪市 川端 一步

コロナ終ればあれもこれもと指を折る
『大空のこころ』挑戦秋夜長
柔らかい本で頭をもみほぐす
じゃーネと曾孫に言われ笑っちゃう
総裁選にテレビジャックをされている

大阪市 古今堂 蕉子

二十五段登る関所のある我家
正直すぎる人の少し冷たい目
ノクターン聞きつつ足のストレッツ
「また逢う日まで」歌い自粛の憂さ晴らす
最悪の空気なごますピアタイム

大阪市 坂 裕之

会えないが思いはちゃんと伝えねば
会議室使えないのがもう二年
カンパイの後は黙って食べるだけ
ワクチンは二度済ませたがまだ自粛
決めるのは自己責任で遣ってます

大阪市 高杉 力

Tシャツの背中に毒と書いてある
淋しいとポツリ九月がつぶやいた
等身大の自分を里の秋に置く
ふるさとを箱庭にして胸に抱く
メル友でよければ百人くらいいる

大阪市 高杉 千歩

介護士さん七十過ぎでいらっしゃる
手も足も頭までスト九十五
施設よいとこ三食昼寝車椅子
車椅子百歳目指す茜雲
明日また会えるだなんて思わない

大阪市 田中 廣子

鉢植の萩を見つけて秋を知る
美しい夕日に夫の無事祈る
総裁選日本見事に変える人
米同時テロ20年経ってもいえぬキズ
米アフガン撤退どうなるの

大阪市 田 中 ゆみ子

詠めば輝くありふれた日常も
コスモスも雲も私も風まかせ
忘れたわ悲しいこともあったけど
淋しいと言わず絶好調と父
さあ句会だらだらしてたのは昨日

大阪市 津 村 志華子

再びと拝めぬ今日の陽が沈む
余生幾ばく言うてあれから二十年
老人の診察フンフンで終り
鬱の字の画数数えてウツになる
命の果てよ静かに枯葉舞う如し

大阪市 寺 井 弘 子

わだかまり解けて時計の回りだす
昔話いつか昭和に迷い込む
貧乏だと言われたくない赤い爪
人生のどこどこにあった華
寝耳に水不意打ちかける菅首相

大阪市 寺 本 実

猛暑にも元気はつらつデルタ株
読みとばす心にもないメッセージ
浮雲に接種すんだと語りかけ
ためいきの数だけシワがふえていく
もてもせず港々に残るツケ

大阪市 中 井 萌

ありがとう今日は何回言ったかな
冷やかなタッチパネルに後退り
兄逝きてボツンと一人残された
兄ちゃんにまとわりついた幼き日
三世代愛想笑いも織り交せて

大阪市 原 田 すみ子

竿二本すべて干し切る暮らし向き
特効薬孫が笑顔でやってくる
ペディキュアをしないサンダル華が無い
オリバラへ熱い声援テレビ漬け
シャインマスカットいい事有れば買う

大阪市 平 井 美智子

萩桔梗なにも変わらぬままで秋
まだ君の声が住んでる秋の耳朶
言い訳を黙って聞いている煙雨
ほのほのの御裾分けです夕の虹
青みかんだわわ もうすぐ会えるよね

大阪市 平 賀 国 和

五輪終わるコロナ第五波招きつつ
ワクチンを打っても不安変異株
医療崩壊感染したらほっとかれ
コロナ禍で静かに暮らす良さを知る
武力では解決できぬテロ事件

大阪市 降幡弘美

あるのにまた買ってしまった整理下手
青春を深夜ラジオと過ごした日
座ったらラストオーダー告げられる
五輪から国旗を学ぶ一年生
イライラも一晚寝たら皆忘れ

大阪市 山本加お里

親の歳過ぎてめざすは茶寿までも
ゆつくりと歩けば見える他所の花
指輪どこ隠したという呆けはじめ
物忘れノート鉛筆はなせない
ふる里のコロナ人数気にかかる

大阪市 横山里子

素顔見てタイプではない黒マスク
その話続きがあると長電話
コンビニも嫌う現金セルフレジ
羊水に浮かぶ極楽しまい風呂
生き切った今日という日が愛しくて

大阪市 若本安代

未だお洒落出かける夢は持っている
あれこれと描いた夢が重すぎた
念入りに友に会う日の洒落マスク
巣籠りのひとりぼっちが怖くなる
マスク付け眉をきりりとさあ始動

堺市 今井万紗子

秋の味覚今年も焼くか鯛だが
新天地ここが最後と生きてゆく
嬉しい日マスクの中も笑ってる
素直になれた窓いっぱい風入れる
近場でも化粧はしますマスクして

堺市 奥時雄

ゴミ出し日基準に曜日確かめる
一割は探し物での万歩計
懐メロも名画も貰い手などない
断捨離つてする必要があるのかな
へりくつをこねて断捨離やめにする

堺市 柿花和夫

自粛続く修行気分のわが余生
天国も賑やかならしい流れ星
爽やかな見出しを探す朝刊紙
バラリンピックに勇氣もらった万歩計
だんまりの妻に黙って茶を注ぐ

堺市 源田八千代

醍醐の自然からすと大蛇戴けぬ
菓子つけて義妹に送るエピソード
七回忌法要は馴染みの御寺
コロナ禍で身内だけの供養とする
ワクチン接種有効期限迫り来る

堺市 齋藤 さくら

じわじわと地球の未来見え隠れ
わたくしのうっかり誰も気に止めず
友達に私が座ってる
お代わりの声聞きたくてブランド米
お宝は無いが水瓶ひとつある

堺市 坂上 淳司

おふくろを超えてしまった八十路中
戦死した父に抱かれている写真
アルバムにおもちゃのラッパ吹く私
爆弾が父の位牌も奪い去り
ギラギラと照り付けていた敗戦日

堺市 内藤 憲彦

来世でも再び君をゲットする
百歳に備えしつかり四股を踏む
覚悟するウイズコロナという流れ
家飲みで妻が支払い僕貯金
明日をみる悔し涙の銀メダル

池田市 太田 省三

運がいい宣言中に痔の手術
盆経へ和尚が被るヘルメット
コオロギは隣の庭がお気に入り
デパ地下に今は見慣れた鮮魚店
特選にいつも届かぬ美術展

貝塚市 石田 ひろ子

前向きが好きで失敗ばかりする
お守りがどの鞆にも付いている
うぬぼれか自負かわたしを拒む杖
母の齢越えて悔いてる親不孝
夕焼けにボエムを拾う散歩道

河内長野市 大島 ともこ

いつもならそろそろ何処か行きたいね
いつもなら意地の張り合い譲らない
いつもならアホかと頭撫でられる
いつもなら朝食作る背中見る
いつもなら車磨いていざゴルフ

河内長野市 梶原 弘光

寄せ書きにメジャー一本道とある
喜寿過ぎて左党変じて両党に
富士山で法螺貝吹いて来たような
構想に惚れて先鋒買って出る
差し出した指に戸惑うアキアカネ

河内長野市 木見谷 孝代

米を研ぐ泣いて笑って季は巡る
亡夫かな我が肩先に来るとんぼ
独りで決め独りで生きて強くなる
ひよっこりと幼馴染が文くれる
お返しの絵手紙距離を近くする

河内長野市 黒岩靖博

コロナ禍を知らずに逝った友人

コロナ禍の土産話を黄泉の国

空は青黄金たなびき赤トンボ

長いこと赤字の株が黒に化け

三食の後の薬が命綱

河内長野市 辻村ヒロ

断捨離と思いついても捨ててく

真夜中にできた一句朝消える

リハビリと言ってしつかり喋って

好奇心無くさないよう種探す

老いの秋しつとり我を振り返る

河内長野市 中島一彌

悩み有りや文字の乱れに痛む胸

判読に苦しみ探る老母の意

面会の扉コロナが掛けた鍵

大声を出せば届くか200キロ

会えぬなら会えるまで待つコロナ

河内長野市 藤塚克三

自己評価二割引いてもまだ甘い

短気と呑気お互い譲り五十年

気が付けば私の居場所子供部屋

家族写真孫に負けぬと背伸びする

便座ではロダンのポーズ長くなる

河内長野市 村上直樹

「異例づくめ」と枕詞のつく五輪

ごろごろドカン！骨身に染みる妻の喝

あの頃の我が家さながらツバメの巣

一の字をしつかり書けた日の自信

償いも兼ねね老老介護ご奮闘

河内長野市 森田旅人

子の背なの大きく見えるテレワーク

ひとり居が好きで居心地よい自粛

人の居ぬ方へと選ぶ散歩道

行く道をかえてステッブ軽くなる

足腰を鍛え傘寿の旅を練る

河内長野市 山岡富美子

限界に挑むアスリートも老いも

何もかも胸に収めて顔の皺

前を向く少しよろめいてはいるが

パラリンピック最敬礼をしてしまう

仕舞い風呂汗が明日を予約する

岸和田市 宮野みつ江

オリパラに元気とやる気少し出る

オリパラが終りだんじり出番だと

ゝにほんごであそぶに日本語を習う

独り居の不安が呼ばす救急車

猫の餌をまずは確かめ119

岸和田市 雪 本 珠子

転んだら色んな風が吹き抜ける
何故かしら貴方に会うとほっとする
明け透けに物を言うけど憎めない
文句言う人にかぎって動かない
頑張れは私にとってプレッシャー

高槻市 片 山 かずお

昨日はできた片足立ちを今日もする
空いている間にと買い物午後の二時
熱い言葉で飾る中味のない話
義母さんの皮肉核心突いている
今はもう凜には遠い立ち姿

高槻市 島 田 千鶴子

俯いて濡れて帰る子鍵っ子か
偶然のスクープ待っているスマホ
連絡はLINEばかりの味気なさ
九月の雨悲しい事が多すぎる
あなたかとふと耳澄ます夜半の風

高槻市 初 代 正 彦

おめでとう誕生日ネと娘のメール
コロナ禍のテニスに弾むよく弾む
食材宅配のチラシ目に留まる
パソコンを開けば今朝も翔タイム
縫れたらそっとほぐしてくれるひと

高槻市 富 田 保 子

ああ年金じつくり老後練り直す
チラシから今日の献立考える
出しゃばりが仕切り会議が終らない
あの国を頼る国旗が揺れている
あと10年生きて同じ私かな

高槻市 原 洋 志

その泳ぎ街で通用しないかも
スマホさえあれば闇夜は歩けます
蝉しぐれタクト振るのはカラヤンか
謝りに行って忘れてきた帽子
忍び足で来る幸福に気がつかず

高槻市 松 岡 篤

商品は列の後ろを取りたがる
一万歩決めているから雨の日も
雑草はコロナの有無に無頓着
五〇年癖も似通う夫婦仲
コロナ禍で横綱デビューお気の毒

高槻市 安 田 忠 子

待合せ来ると分かれば何時迄も
風呂上がりペランダの風浴びる幸
目覚めたら日々と曜日言ってみる
高校野球終って秋の気配する
永い人生ラッキーだった悔いは無い

豊中市 池田 純子

じつとする足もしびれてくるコロナ

ペイペイで支払い気持ち若くなる

老猫も夏バテ太い注射打つ

秋風が吹いた朝から読書する

日常にもれなくコロナ付いてくる

豊中市 上 出 修

名ではなくマイナンバーで見張られる

ウブな僕なみだ武器とは知らなんだ

年老いたのに口だけは元気です

甘い蜜嗅いでぞろぞろ族議員

デジタル化やつと目覚めた日本国

豊中市 きとう こみつ

髪型を変えてびっくりする鏡

65歳以上ネット予約に焦らされ

そしてだーれも信頼しなくなる政府

確実に地震はやつてくるリアル

オリパラが終り世間に秋の風

豊中市 藤井 則彦

独り居に寂聴語録身に沁みる

好きな人と居るとマスクは駄駄をこね

ワクチンのあとはゆったり大軒

下手な字も私なりの宝です

人の役に立てば絆も強くなり

豊中市 水野 黒兎

モノクロの思い出となる昭和の世

ワクチンが未だだと義理を欠く暮し

定年で公園デビュー白髪たち

リセットのできぬこの世の負の記憶

自由に跳ね子らは風の子光の子

富田林市 片岡 智恵子

夢砂漠あきらめ切れぬ事ばかり

鈴の鳴る方へ頭を切り替える

バラ選手からもうパワーは起爆剤

戦時下の死コロナの死つくづく想う

長所見えれば短所隠れる不思議ごと

富田林市 中村 恵

手の届く位置も全力でアタック

ポイントをずらして攻めるのは余裕

損をする顔だと自他ともに承知

美しい言葉伝えるのも嫉

目の前に不埒な老いが躊り寄る

富田林市 山野 寿之

オリンピック静かに熱く万国旗

コロナ禍の機知が生み出すメダル授与

詩一二三兄妹愛の金メダル

スケボーが五輪種目と知らなんだ

一本のバトン渡せず刻止まる

寝屋川市 川 本 信 子

おもてなし絶賛の声ボランティア
卒寿祝に市から真っ赤な置時計
笑う口と諦めぬ目を持っている
防災リュックに黄色のホイッスル
母さんが居たから大好きな昭和

寝屋川市 伊 達 郁 夫

逢いたくてひとつ覚えの鶴を折る
良く耐えた夫婦茶碗が欠けている
叱らずに黙り通した罪がある
内緒だが別の私を飼っている
蟬の殻お前も何か忘れもの

寝屋川市 富 山 ルイ子

デルタ株勢い強く子供にも
デルタ株猛威でまたも老人に
ミュー株とあらたな株が出て来てる
ラムダ株と猛威をふるい知るテレビ
心配の種が毎日会社行く

寝屋川市 平 松 かすみ

マスクして無事に迎えたバースデー
奥さんに逝かれ日に日に腰曲がり
時々煮物差入れして上げる
二人共入所雑草背伸びする
お隣の犬が番するうちの庭

寝屋川市 廣 田 和 織

哀しみの言葉は海の底の底
ありがとうごめんの言葉花束に
ひらがなで薄めて使う京言葉
行間にあった楷書の父の意図
聞き役のコーヒースでに冷めている

羽曳野市 磯 本 洋 一

道の駅あるものばかりまた買います
子が育ち妻と二人のデイスタンス
コップ酒年金日だけでも一杯
卸付け妻より速い定年後
ヨッコラシヨ椅子に挨拶して座る

羽曳野市 宇 都 宮 ちづる

巣ごもりでできた預金が旅を待つ
総裁選派閥気にしたマニフェスト
無観客でも報われたアスリート
誕生日娘からの饅待ってはる
撮る人が孫なら夫はいい笑顔

羽曳野市 徳 山 みつこ

オリパラにどつと感動ありがとう
収束したらまた日本へお越しを
霊気が満ちる森の小径の一時間
遠く国の子へ元氣元氣とソプラノで
アフガンに血の降りやまぬもどかしさ

羽曳野市 藤原 大子

若返る子のお下がりの部屋着て

喜怒哀楽大事に詰めた宝箱

聞き出してどうにかできるわけでなし

老い二人家事分担ができ上がる

ラストラン足の向くまま気のままに

羽曳野市 三好 専平

政治家はときどき認知症になるらしい

観客を切った五輪に価値はない

百万円の部屋でパッチは寿司を食い

タコヤキを食べに浴衣の勢ぞろい

五輪書の武蔵を慕うアスリート

羽曳野市 吉村 久仁雄

廃校の廊下で過去が語りかけ

カワセミの住む川と知り居を移す

ニアミスがとても楽しい老夫婦

ゲリラ豪雨準備不足の隙をつく

「必死のパッチ」枕言葉にトラが吼え

東大阪市 北村 賢子

永らえて遭ってしまった新コロナ

咳一つ即座に席を変わられる

とりあえず毎日使う鍋磨く

高齢でコロナ禍生きてゆく至難

明日こそはきつと収束するコロナ

東大阪市 佐々木 満作

質実剛健の父という重み

母という名の絶大の母性愛

六人の子育て両親の苦闘

初月給父にネクタイプレゼント

父を越え母に近づく歳となり

東大阪市 西村 哲夫

諷誦のよう時事吟今日も味読する

アンドウトロア君が落ち葉を掃くリズム

掃き出した鬱憤風に舞い上がり

歓喜よりあなたの傍が心地よく

安堵した笑顔が光る遺影なり

枚方市 谷 英也

接種証明スマホ使えと御上言う

市長さんメダルの味は苦かった

一服の清涼剤です同窓会

出席の返事したのにまた忘れ

友達と電話する妻別の顔

枚方市 丹後屋 肇

三密ノ一きつい長女の火打石

行先を詰問される勝手口

住所電話縫い付けられる薄い胸

我が手指届く限りの自己主張

夢に出る昔いなせな我が羽振り

枚方市 藤田 武人

単身の鍋は湯ポチャで使うだけ
録画したドラマで過ごす定年後
ハイハイがいつもと違うアクセント
人肌が恋しい初単身の夜
妻のこと決してママと呼びません

枚方市 藤村 亜成

これからの思い出づくりを妻とする
行方不明の迷路を探す都会の夜
ケースを抜けた人形を抱く生気
蛇行しながら方向は失わず
やがて視点定まってくる祈り

枚方市 山口 弘委智

ポストコロナ食べて話して笑いたい
嘘っぱいものに噂と一行詩
貼り紙に休業無念にじみでる
試し刷り出来ぬ人生悔いのこる
寄り道と回り道にはわけがある

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

暖かな手だね希望があるんだね
冒険のできる若さがまぶしくて
笑い飛ばすことに決めた鳳仙花
貴方となら逢います予報雨だけど
深深と主治医にお辞儀して初秋

藤井寺市 鈴木 いさお

もう少し長生きしたい理由がある
衰えを笑うな君だって可成り
呆けた振りではなくボケているのです
巢作りの上手なオスがよくモテる
二人の時は呼び捨てにして欲しい

藤井寺市 吉田 喜代子

寂しい家に多産系だな雨蛙
何かしら植えたつもの無い野菜
数独にはまっています声出せず
盆飾り来客も無く夏終る
スクワット休んだ罰か筋肉痛

箕面市 大浦 初音

マスクの中きつと口角下がってる
杖をつく歩幅に合わず二人づれ
お互いに傘傾けて通る路地
遺産なし争いの種つくらない
仏像の顔になつてるおじいさん

箕面市 酒井 紀華

コロナ禍もはるか昔になればいい
弱点を隠しへらへらす私
入歯する頬れい線が少し消え
しあわせを形にしたら二重丸
灯籠に苔が生き生きいのち継ぐ

箕面市 出口 セツ子

大阪府 米澤 俣子

心からの笑い忘れる自粛中
悲喜愛憎脳へスパイスくれている
騙すより騙され笑っている気楽
口角を上げて練習する笑顔
逝く時は愛する人が居て欲しい

箕面市 広島 巴子

子らの無事祈り提灯地藏盆
ただぼーっと私の素です家ごもり
水平線あの世この世が見えますか
わくわくとスマホ教室一年生
巣ごもりに変化夫が散髪に

八尾市 寺川 はじむ

うんうんと相槌打って丸く生き
無事終えた五輪の裏にボランテニア
体面を盛り付け包むのし袋
感染数字列島地図を塗り潰す
生れ出た歡喜轟く蟬時雨

八尾市 村上 ミツ子

ワクチン接種しましたマスクしています
トラの勝利をおかずにうまい晩ごはん
半額のア이스クリーム買ってくる
取り敢えず防災マップみておこう
ジェネレーションギャップ母娘の溝を深くする

マスクの下でじわじわ歳をとる
ワクチンを他国に頼るもどかしさ
膝小僧と調子合わせてドッコイショ
障害の人見る目を変えたバラリンピック
さらばマスクよそんな日はいつ来るか

神戸市 上田 和宏

マイナカード安全のため作らない
野次馬で居ればこの世は面白い
食卓居間書斎寢床に虫眼鏡
コロナ禍で友と疎遠になって行く
虎勝ったときは熟読スポーツ紙

神戸市 奥澤 洋次郎

食べ物への油断はならぬジンマシン
台風を楽しんでいるニュースショー
尽くす謀略総裁選の私利私欲
便利さに追いかけられるデジタル化
カナカナやなぜに還らぬ人を呼ぶ

神戸市 近藤 勝正

あるものを最大生かすパラリアン
巣ごもりで「積ん読」全部読み終える
菅首相コロナと共に名は残る
辞任して株価支えた功労者
コロナ禍の出口の明かり見え隠れ

神戸市 斎藤隆浩

リタイア後天気予報も気にならず
無理をせぬ今日のビールは旨かった
帰らない帰さないよと見つめ合う
リモートじゃいつも飲まない高級酒
巣ごもり中旬もマンネリで悪しからず

神戸市 敏森廣光

川柳と酒さえあればパラダイス
猛暑日は怠惰の海に沈んでる
墓参りコロナ報告欠かせない
団扇の風そのやさしさが僕は好き
やっとこさ夏を過ごした影法師

神戸市 富永恭子

見たくない自分と対峙して作句
鳥たちに見届けられて種を蒔く
ローリエを摘んで長姉の顔になる
子へメール減らして重いマグカップ
手術待つ義兄の弱気とコロナ禍と

神戸市 能勢利子

御供えは私の好きなマスカット
デイサーピスに母を預けて羽伸ばす
好きな物は何でも食べる百一歳
漢字力大正生まれには負ける
自分のこと全部自分で出来る母

神戸市 松倉正美

清清しく感謝を述べるアスリート
見るだけでかじらないでネ金メダル
世間口に堪え忍ばれて恋成就
丹波から枝豆届きお裾分け
秋風が吹いて不人気総理散る

神戸市 山口光久

障害者に出来ぬスポーツ無いと知る
バラリンピックに深い感動いだいた
嬉しい日待ち望んでいる呱呱の声
歩かねば明日へのページ捲れない
決心が玉虫色になってゆく

神戸市 山口美穂

思いやりいただきうれし老いひとり
温暖化のつけが山火事台風も
若者はもう限界という自粛
去年今年約束流したのはコロナ
バラ五輪終って秋は足早に

神戸市 山崎武彦

幾山河越えた二人は風任せ
金婚へ傾きながら廻る独楽
遺すもの何にもなくて波静か
ばら垣にいとしい人がひとり住む
ゆるキャラの妻だがうまい飯を炊く

明石市 梶谷和郎

雨ボツリ恋の終わりを予感する
振り返り振り返りみる九十九折り
落雷に不意をつかれる風呂上がり
孫からの苦情テレビが吠えている
終電に乗る人帰る家がある

芦屋市 竹山千賀子

無理難題追いかけていた若かった
孫の嫁来る日鏡を二度三度
浜風にハグされ想う亡夫のこと
脳活に今日も6B尖らせて
胸の内すべて打ちあけ明日は晴れ

尼崎市 近兼敦子

副反応あつて言われる若いわね
どうでもいい話も二人仲が良い
元氣じゃない父が返してきた本音
個性だと理解している頭では
ポイントはずれていたのに盛り上がる

尼崎市 永田紀恵

お茶だけで済んだためしがない仲間
飲み会を不要不急にするコロナ
下戸なのに飲み会いつも仲間入り
針の無い時計を抱いて旅に出る
夢枕「旅の夜風」を唄う亡父

尼崎市 羽奈和子

コロナ禍で成長してた腹回り
アクリルもマスクも何のそのしゃべる
顔中を口にして猫大あくび
雑草に罪はないけど強すぎる
弾くように揺れながら聴くバイオリン

尼崎市 藤井宏造

アツと言う間日本制覇のデルタ株
耐えがたきほどでないコロナの自粛
スマホには無言の電話かららない
先祖の霊が彷徨っている墓仕舞い
先細りしている僕の未来地図

尼崎市 藤岡りこ

誰も来ぬ盆スイカざっくり老い二人
読み上げるメモが頼りの昔総理
コロナ禍に本の広告多くなる
国は違うが皆んな地球の仲間です
スランプの自分煽てて句を作る

尼崎市 藤田雪菜

大谷が打ってコロナを忘れさせ
猛暑日の梅干らつきよ憂さ晴れる
雨上り命をつなぐ夕あかね
暑いあついベンチで一人水を飲む
おかあさん値引きラベルのあずきパン

尼崎市 山田厚江

心臓の手術をします卒寿です
また一人若い女性の市長さん
父子で昼寝同じフォルムで並んでる
油蟬ひっくり返り夏が行く
正社員で頑張っている七十五

尼崎市 山田耕治

鈴虫にもやろう西瓜買ってくる
おじいさん起きるとペランダの雀
朝な朝なずっとこの儘でと祈る
捨てる捨てない何時も娘に負けている
ケアホーム初めての夜の姉思う

加西市 山端なつみ

オリンピック観客なしのおもてなし
放映もされぬ種目の無念さよ
空手金 次の五輪にない無念
十三年耐えた上野の豪速球
ソフトへの愛が上野を支えてた

三田市 足立つな子

晩節の心の糧をうけとめる
案じなく育った孫がつなぎます
価値観の分かち合いつつ五十年
土砂崩れ猛暑に耐えて病む国に
もう一度ギア入れなおし遣る気出る

三田市 大西重男

作った菜ひとりで食べる味気なさ
誰彼の優しさ受けて生かされる
鉄製造テレワークでは出来ません
美男美女マスクをすれば皆同じ
名人に学歴いらぬ将棋界

三田市 尾崎一子

よい目覚め朝日を拝み山を抱く
いい事があつた神様のごほうび
誕生日おめでとうスマホの笑顔
母さんが授けてくれたのは笑顔
患者さんに生きる命を教えられ

三田市 九村義徳

上野駅金の卵がいたらしい
国訛り心に響く道の駅
一駅でお見事化けるお嬢さん
アフターファイブ集う駅裏縄のれん
道の駅昭和レトロの味がする

三田市 住吉美和子

咳ひとつ疑心暗鬼の電車内
お試しを申し込んだら買う羽目に
夫の荷でかい顔して一等席
父の齢越えた私を守ってね
地獄絵のようなアフガン逃亡劇

三田市 多田雅尚
酒の種類揃ってないと気が済まぬ
回収日酒ビン多いのは我が家

諦めぬ勇気貰えたバラ五輪

若人に響く校歌が見当たらぬ
海山有って川の日無いと暴れ出す

三田市 谷口修平

神様が喧嘩ばかりをする地球
お互いに寝息確かめ合う夫婦
戒名がしつくり来ぬという仏
精密な検査で増えてゆく病氣
回り道すればもしやに会えるかも

三田市 野口真桜子

コロナ禍で羽化を一年のばす蟬
立ちすくむ夢の欠片を拾うため
沖の漁灯網打つ音としぶく汗
見合い慣れ巧みに女使い分け
わたくしを案じる昼の流れ星

三田市 福田好文

お喋りを無口にさせたのはスマホ
神仏は信じる程に金がいる
反抗期過ぎて気が付く子のサイン
家計簿にとっても優しい引きこもり
辞書にない横文字並ぶ五七五

三田市 堀正和
夏背広一度も着ずに秋となる

一年半孫とトランプしていない
オンライン授業だけれど下宿中

カタカナ語翻訳しろと頑固爺
コロナ禍が国の借金また増やす

三田市 村田博

野菜高菜園からの恩返し
小銭入れだけで過ごせる日が続く
皇室の秘宝地方を元氣付け
ワクチンを打った娘帰る二年越し
娘を相手御託並べて飲んでいる

高砂市 松尾柳右子

ワクチンの2度へ感謝の高齢者
難聴もときには武器の撃退法
味覚より剥く楽しみの栗御飯
バラエティ富む食材の季節感
オリバラも無事感動の夢紡ぐ

宝塚市 丸山孔一

葉隠れの術でござんす雨蛙
メモ忘れ店の全棚見て歩く
サクランボ初物ですと仏壇へ
長生きをすべきか災禍増える国
束の間のこの世蟬達もつと鳴け

丹波篠山市 北澤 稠民

付合ひも殻を破って行く勇氣

野良仕事流れる汗に清い風

幸せは皆んなの答それぞれに

クラス会むかしのあだ名そのまま

過去形で笑える時がきつと来る

丹波篠山市 酒井 健二

つぶやきは増えてきたけど悪しからず

ひとり旅行き先駅で決めている

マンネリになつたら旅に出かけます

アイパッドおかげで少し物を知る

本当に恋しいですか戦前が

丹波篠山市 藤井 美智子

薦められ同人デビュー身に余る

がんばるか八十路の脳へ聞いてみる

句作りを一生の友へ師の言葉

何するも程々我の性に合ひ

オリパラに勇氣もらつた頑張れる

西宮市 緒方 美津子

秋天に今年も挑むダイエツト

病院の待ち時間には覚悟いる

甘ったれだった息子に甘えてる

人流の言葉に慣れて早二年

福祉バス何度も通る一丁目

西宮市 亀岡 哲子

歳重ねだんだん強くなる私

長生きを多分するよと言うておく

一読でアハハと笑う句に遇うた

ざつくりとたまに言いたいことも言う

母よ母わたししっかり老いている

西宮市 福島 弘子

貰い事故後で知つてもどきどきす

賑わいは蟬ばかりなる墓参り

言い訳の言葉練つてる呆け防止

うちの庭まさかオハグロトンボとは

シジミ蝶の応援はかどる草むしり

西宮市 福田 正彦

デルタ株中国静か裏読めず

人の知恵案外浅い今ぞ知る

教育論出せば何でも有りなのか

ロックダウン影も見えないフリーパス

派閥組み又候補動く選挙戦

南あわじ市 萩原 狸月

好不評メダルラッシュにかき消され

優勝旗連れて帰れと千羽鶴

ウォーキングさえも自粛と言う誤解

元氣さを声の帰省に見てもらい

朝刊のやぎ座は吉に軽い靴

奈良市 宇賀史郎

夫婦仲縫れて縫れて五十年
氣遣いがこだましあつて口喧嘩
鬱の日に大阪弁のお節介
心電図心の刺を落とす影
ウィルスとつきあう余生貯金残

奈良市 大久保眞澄

当たりくじだと夫には言いきかす
散歩中夫が犬に吠えている
定年後アリはキリギリスになった
今はいい暑さのせいにできるから
ブラごみの責め一身にレジ袋

奈良市 加藤江里子

猫の番組猫と一緒に観る至福
猫の歳孫より一つ上のはず
明日からはと言ひ聞かせて生きてきた
猫に訊く次の総理は誰ですか
富士山だけは変わることなきこの日本

奈良市 高橋敬子

はぐれ蟬とぎれとぎれに鳴く夕べ
夏の長雨蟬は十分鳴けたのか
水遣り解けてじつくりと見るバラ五輪
モデルナ接種孫の高熱寝ておれず
はちばちともまだままだものの喜寿になる

奈良市 辻内げんえい

退院しステーク刺身まず所望
免許返納妻の運転身をまかす
キャンセル料高くて予約躊躇する
アスリートには大化け出来ぬうちの孫
運動音痴も五輪始まりやテレビ見る

奈良市 山本昌代

夏野菜終わり淋しくなった庭
雑草が私のスキを突いてくる
お約束あわてふためくおばあさん
メモ帳をしつかり見てと性根玉
それぞれにジャンルあるんだ虫の音も

奈良市 米田恭昌

昭和史の灰色だったど真ん中
少し多目に賽銭はすむ閻魔堂
無器用でいつも自分を宥めてる
骨折入院さすがの妻も動けない
はがゆさは面会不可という掟

生駒市 飛永ふりこ

濁ってる私を濯ぐちひろの絵
壮快に残暑飲み込む秋の雲
見渡せばふっと落ち着く初秋です
マッサージ培った技血に活気
没後でも穿ちが生きる邦子さん

夏バテのハートへスイと赤とんぼ
香芝市 大内朝子

大切に今日を生きねば明日は闇

小津安の映画恋しい秋日和

夕焼けに亡母の呼ぶ声今も聞く

秋の天しばしコロナを忘れよう

香芝市 山下純子

コロナでも良かった事はたんとある

3密避けオゾンたっぷり山登り

空いた宿露天風呂まで一人占め

ステイホーム夫婦の絆締め直す

自粛中ピアノ始めて初舞台

桜井市 安土理恵

ケチャップでごまかす炒飯もコロケも

キッチン鉄使いこなすのは夫

こだわりのマイ包丁と組板と

今のうちに逢って告白したいけど

ヒヨドリと競う無花果の食べごろ

奈良県 安福和夫

ワープロの上陸当時思い出す

慣れ切った膳写版との別れ時

鉄筆で出来た指マメ懐かしい

文明の利器との出会い嬉しさも

単能盤行き場失い戦力外

奈良県 谷川 憲

挨拶がワクチンになるコロナの禍

球児の夏戻ってほっと甲子園

相性が他人の壁を低くする

チャレンジを続ける国であって欲し

心打つ五輪支えたボランティア

奈良県 中原 比呂志

自粛中夫婦で「ボツンと一軒家」

川柳のヒントは「日曜美術館」

不出馬で派閥「ざわつく金曜日」

「今でしよう」日本の将来決める票

病む都市に「月光仮面」現れよ

奈良県 中堀 優

星見つめ不孝息子を詫びている

チビちびと貶すがチビの大切さ

じっと聞くパトカーなのか救急車

君と僕の間には厚い鉄扉

波風を立てぬようにと生きている

奈良県 長谷川 崇明

8月を返せコロナと雨数多

今日も兩日記に鬱のただ一字

自粛続き出来るはずだが何もせず

健診に集まる人はみな元気

雑草の実が爆れている生きている

奈良県 渡 辺 富 子

自肅中おはぐろとんぼ舞っている
コロナ禍の中をさまよい哀を抱く
喜怒哀楽ふつくら詰めてパンを焼く
はったりを見抜く眼鏡を光らせる
人の世の憂さ流す川静かです

広島市 岸 本 清

子や孫に教わることが増えてきた
巣ごもりで川柳塔をいっき読み
コロナ後の飲みの約束二つ三つ
売り言葉返す元気はありません
無為無策袋小路のコロナ五波

竹原市 岩 本 笑 子

ぜいたくと思う実の生る花を植え
一つ増え二つ増え鋭剂のかぎりなく
赤トンボ何か用事がありますか
早い者勝ちたとえ妻でも夫でも
トンボも蝶も私をさそうよう飛んだ

三原市 鴨 田 昭 紀

優柔なわたしを試す北の風
横文字に押される日本語の形
強面も義理人情には弱い
どっちみち黄泉へ転んでいく定め
遠くから見守る膨らんだ蕾

三原市 笹 重 耕 三

野良遊びは許せコロナ禍の自肅
脳のスクワットへ電子辞書を繰る
残照へ夫の隙も見せておく
波乱など見せない惜別の蛭
雑踏を生き抜くこぼれ落ちた僕

岩国市 上 村 夢 香

影がないオリンピックはどこへ行く
漢検受験期と競争しています
検診日飲食なしで軽々と
目覚めればさだまさし聴く至福時
国民の視線背に受け下ろす幕

宇部市 平 田 実 男

鍬を振る時は力が出る卒寿
カレンダーお医者お医者の日が続く
貧しかった頃が倅せだったかも
日本史へも墨を塗りたいところがある
権力を握ってからの茨道

防府市 坂 本 加 代

ひと休み猫の動画に癒される
本気になると面白くなってくる
選ぶのは女のカンで狂いなし
天地人さかさまにして吟味する
順番を守れば何も怖くない

鳥取市 池澤大鯰

面倒臭さ「これが最後」という願い

ジャンが鳴りラストスパート余裕なく

ラストオーダーコロナ禍で早すぎる

親送り肩の荷下りて何しよう

念を入れ後を残さず鳥は去り

鳥取市 奥田由美

棚田にも小さな秋と曼珠沙華

回線と脳の動きがかみ合わぬ

十二桁が暗記できないマイカード

老眼にジャンニーズどれも同じ顔

へそくりを聞いた子が出す同居案

鳥取市 加藤茶人

登らせて梯子を外すのも早い

集中力徹マン程は続かない

それはもう古い一年経てば死語

出来る子は感動もないオール5

食べ放題きっちり追加分残り

鳥取市 岸本宏章

三回目のワクチン覚悟しておこう

ペットボトルの栓がだんだん固くなる

食事量減って財布を喜ばす

虎キチはサード藤村からの縁

内戦のない幸せな国にいる

鳥取市 岸本孝子

歩数計確かめてから床につく

一番の手抜き料理は冷奴

侮って五目並べを孫に負け

政界のこれから秋が面白い

研ぐ米がある幸せに気付かされ

鳥取市 田賀八千代

言い訳はよそう自分に負けになる

しつかりと恋もしました泣いた日も

金貸して友との絆揺らぎ出す

つまらない物だと言ってマスカット

勝ち目ないカードだけれど捨てられない

鳥取市 棚田大

猛暑まで俺の心に活入れる

もつとくれまた追加せよ口癖に

いつの世も課題難題どんと増え

メリハリをつけと言う奴声弱い

お金では買えぬ心を肝に入れ

鳥取市 谷口回春子

リフオームは俺もしたいと日なたぼこ

あっちうろうろこっちうろうろ酷暑の日

スイミング兄弟泳ぐ水すまし

「トーマス」を視ている孫に口出せず

亡母の懐底無し沼の愛だった

鳥取市 永原 昌 鼓

もうひと花咲かせたいなど言ってみる

しゃべるのが遊びと集う老人会

帰るなど子の説得に涙する

大好きな食べ物みんな高血糖

外に出た途端に腰がちよっと伸び

鳥取市 中村 金 祥

自分史の喜怒哀楽に楽がない

通り雨さっきの鬱はどこ行った

地獄にも可愛い花は咲いている

ご神木に触れて穢れを振り払う

漂った末に見つけた蜘蛛の糸

鳥取市 副井 ゆたか

見て見ると泳げるようになった孫

自分史の集大成が今朝の顔

密避けて苦屋に蟄居句に浸る

先生は無難な呼称とりあえず

作句坂ゆっくり上る一歩二歩

鳥取市 前田 楓 花

両親はコロナ知らずに黄泉の国

赤飯を炊いて亡母の誕生日

ご時世かだんまりか二人の食事

蹊いた経験生かす明日がある

寂しさの隙間を埋めているスマホ

鳥取市 山下 凱 柳

一日とて休むことなく指を折る

深夜目覚め沈思黙考五七五

終活準備自分の年譜辿りみる

頑固と認知同居している身を憂う

急ぐまいいつかは辿る老い之道

鳥取市 吉田 弘 子

二人三脚いつかは切れる固い紐

いつ何が起きても悔いぬ今日生きる

諭吉さま触れても直ぐに手を洗う

「カコサイト」メダルの数と感染者

五輪ソング三波春夫を思い出す

倉吉市 大羽 雄 大

メモ紙の生かすことなく捨てている

お屋敷が更地になって町の景

日々揺れる止める妙薬ないものか

胃薬を飲んでから五輪観戦

パラリンに学ぶ限界つくらない

倉吉市 岡 崎 美知江

神風が吹く耐える事だけ教えられ

掘って掘って炭坑節を踊ります

任せたお耳この頃そっぽ向いている

不協和音とどかぬ耳にうんざりだ

ユーモアを混ぜた指導が生きている

境港市 藤原久直

人生リハーサルの無い長い旅
マンネリ化緩んだ心引き締める
引き出しが錆びて来たのか知恵も出ぬ
麺好きで年中食べてまだ飽きぬ
老人会心も和む椅子の席

米子市 池田美穂

車もトイレも同じ匂いにする
童心に返り五七五を詠む
仏だんに除菌スプレー置いておく
よそ行きの食器を使う客が無い
アイスもなか夫婦仲良く半分こ

米子市 伊塚美枝子

欲しかった雨三日目にもういらん
雨上り二羽のスズメの楽しげに
せみからのバトンを受けて虫が鳴く
得意気に虫の楽団秋夜長
悠々と流れる雲が旅誘う

米子市 後藤宏之

お風呂場で歌うとなぜか演歌歌手
忘れないために残したメモなくす
食欲の秋だ食べると許可が出る
お互いに自分を曲げぬお年ごろ
富士山に負けない富士がほらここに

米子市 後藤美恵子

食欲の秋が急かせる菌の治療
けんけんを時どき交え散歩する
奥座敷椅子の配慮に長居する
玄関の大きな靴に守られる
自肅中ネオンが消えて街沈む

米子市 中原章子

息災に過ごし過信せぬように
コロナ禍の終息までは生きてゆく
自肅中老いが静かに加速する
生きていること神仏に感謝する
短命の首相にゆれる日本国

米子市 成田雨奇

言うことは言つて貝にはなりたくない
はくのことそんなに人は気にしない
八十三歳養老孟司まだ稼ぐ
滅茶苦茶な奴で閻魔を困らせる
ぐみ杏びわ梅すも貰い物

米子市 野川宣子

誕生日嫁さんだけのプレゼント
玉ネギとじゃがいも日替りで出番
前向きに生きてるあなた手本です
後何年書けるだろうかこの名前
ある日からまわりやさしくなる不安

鳥取県 門村 幸子

白旗はまだ上げられぬ生きる欲

ゆで卵納豆の要る朝ごはん

詐欺横行正直者も身構える

途切れずに細く長くの読書欲

大間抜けになつてしまつてメモが要る

鳥取県 斉尾 くにこ

朝焼けと出会える五時のスニーカー

関心を持たれることもなくて趣味

なにかしら痛みはどこかしらあつて

体力は落ちて気力は満ちてくる

気晴らしは輪郭線を変えていく

鳥取県 竹信 照彦

八月の海水浴は雨続き

海は風琵琶湖のような日本海

磯歩き出来ぬにキスを釣る知らせ

秋ナスもゴーヤピーマンまだ元氣

秋野菜種蒔き急ぐ畑作り

鳥取県 細田 裕花

ご近所とワンパターンの会話する

脇役の見せ場もちゃんとあるドラマ

実力差いええ運が無かつたの

苦情社会猫も氣ままに生きられぬ

世渡りが下手で四角のアナタです

鳥取県 本庄 汪

日帰りの旅でいいから連れてつて

ダンボールお役ごめんのリサイクル

すれ違いドラマみたいな時でした

銀河号二十時発の夢枕

月末の家計助けたカップ麺

鳥取県 山下 節子

くじ引きの順番による運不運

ウイנקが下手で両目をパチパチす

ゆつたりと古い二人住み暮守る

ジャンケンもリハビリにする介護室

くよくよを聞いて励ます糸電話

松江市 梅瀬 みちを

三日間回覧だけが客でした

だつたらがだんだん多くなつてきた

目に耳に鼻口みんな修理中

何よりも脳内サブリミナル

「天地人」さすが三役そろい踏み

松江市 藤井 寿代

日めくりを一枚めくり恋たつたむ

袋縫い私のすべて秘密です

私を支えてくれる父の沖

タイガースの逆転ビールなお旨し

コロナ禍にオリパラがくれた感動

松江市 松本 知恵子

野に採ったススキ部屋中小さい秋
ライバルも今は茶飲みの友になる
趣味仲間良き思ひ出の旅の数
虫の音を今年空ろにきいている
メッセージ残して逝った猫のミイ

出雲市 伊藤 玲 峰

乱れても心の底は見せません
大雨も大社の神に一礼し
すやすやと育つ曾孫が笑いくれ
元気が一番姉ちゃん達も唄い出す
お腹満たされ上機嫌な顔声が満つ

雲南市 菅田 かつ子

あれも縁これも縁だと忙しい
極楽と心配させている長湯
氣をつけて行けよと祖母の涙声
老木の意見を聞きに来た鳥
検診の度に背丈の低くなり

島根県 伊藤 寿 美

忘却や今日も崩れ落ちる水河
先頭を譲れば見える裏の裏
秋の駅もう肩書きの無い旅路
群れて咲く知りたがり屋の蛇苺
はじめから二の矢なかったかもしれぬ

岡山市 大石 洋子

ウィンドーに背の丸い女えっ！私
三日月眉太く書かねばのつぺらぼう
夢遊病発症してるステイホーム
することがなくて手の甲じつとみる
嗅覚は健在飯の炊ける香

岡山市 工藤 千代子

体の七割が老人になった
ファミレスの隅で聞いている孫自慢
姉からのメール香典要る話
朝だけは快適主婦をしたくなる
今日一日を組み立てている便座

岡山市 丹下 凱 夫

一列に電信柱夕焼ける
なにもかも美しかったなあ昭和
もじやもじやと咲いて涼しい百日紅
真夜中のコーヒース座五を練りなおす
本気度をためされている草の丈

岡山市 前田 恵美子

藍染の日傘で今日も夏を行く
猛暑日は「氷」の文字を目が拾う
水のように湧いて出てくる知恵欲しい
墓参り稲穂がゆれて鱗雲
秋茄子と稲穂が揺れて太り気味

笠岡市 藤井智史

慎重に生きて階段踏み外す
溢れ出る深い愛のジャックポット
三十八分の一の愛掴む
悲しみを弾き飛ばしていくギター
前向きに生きる原動力は夢

岡山県 高岡茂子

稲穂なで私もなでて朝の風
眉かいて化粧は終りマスクする
幼なじみラインがつなく長話
宣言続きもどれぬ孫にゆうパツク
熱でたら「若い」といわれたワクチン

岡山県 田中恵

居眠りが得意になった割烹着
脳味噌をまぜくり返す探し物
目が覚めて今日の予定を確かめる
夢に見た天女はきつと合飲の花
ランドセルの足音を待つ鬼瓦

岡山県 藤澤照代

花に水やる心には潤いが
虫の音を掻き分けどんと月昇る
髷られた脛治らないまま老いる
抱き上げた猫の鼓動に陽の匂い
コロナ禍で冬眠続く旅靴

松山市 栗田忠士

先出しのつもりが後出しになった
肩透かし食らったようなこの二年
雑草の強さ褒めてはいられない
五百ミリのビールを妻と分けて飲む
未成交響曲で終われない

松山市 古手川光

チンチロリン コロナストレス取ってくれ
律義とは例えて言えば彼岸花
台風よ日本嫌いになつてくれ
柿熟れりや正岡子規を想いだす
もう僅かの余生をコロナ弄ぶ

松山市 宮尾みのり

エプロンの男が増えていく自粛
慶弔の絆も消してゆくコロナ
井が重い切実なるシヨック
確かに今飲んだ薬包紙の欠けら
盾トロフィー私の過去を処分する

松山市 柳田かおる

呼びかけてみないと何も変わらない
なんとなくネジが緩んでいく感じ
ポケットの中で明日が揉めている
歳月はたしかに変声期の孫と
免許更新いつ迄のこと考える

西予市 黒田茂代

東かがわ市 川崎ひかり

祈る事しか出来ぬ弟癌病んで
手術無事だったの携帯に安堵
抗癌剤無し退院にほっとする
いらつしゃいの形玄関先に百合
ゴキブリも蟻も少ない夏だった

川柳一句作って今日を締め括る
不確かを生きて確かに辿り着く
障害の個性光らせバラ終る
狭い食卓今は隙間を持て余す
履歴書も辞表も書いた文机

土佐清水市 辻内次根

北九州市 小松紀子

ピーポーがとまるもしやの人の顔
後世に残る一句は絶望か
何時からか怒りで心震えない
輝いていると暗示をかけている
人知れずこの世の秋の咳をする

星月夜 子亡夫どうしていますか
没五〇年赤トンボ子の使いかも
心尽くし逢いに行く老姉がいる
オリバラに見る私努力が足りません
こおろぎが今宵もいやす私部屋

高知県 小澤幸泉

唐津市 坂本蜂朗

就活と断捨離妻に急かされる
山桜何を聞いても答えない
故里が時々見える梅雨晴れ間
困ったな孫子の名前忘れてる
生きてます祖母の遺影に呼びかける

東京の子供の帰省拒絶する
老いの意欲公民館で閉ざされる
晩年にツーカーの妻傍にいる
小物だとしみじみ思う群れの中
グラマンの機銃聞こえる夏の雲

阿南市 小畑定弘

唐津市 山口高明

もう泣かぬ男になった三回忌
煩惱を捨てると直る肩の凝り
人生を水の流れのように編む
徘徊と見ているだろう人の眼は
雨と風味方につけて生きてやる

韓国の親友に敵わぬ愛国心
膝頭やぶいてデニムはく少女
皮肉など言わない菌痒い胸の内
オーロラの見える異国へ嫁った女
生きた金使いなさいと亡父の遺志

熊本県 岩 切 康 子

早起きに昼寝加えて老い生きる

風呂の中で下肢のリハビリ続けてる

雉鳴かず車通してくれました

紺緋亡母の古着が捨てられぬ

起床前10分間のリハビリ

札幌市 小 沢 淳

老斑は昔の罪の数が浮き

一所懸命やって追い風向い風

引き際の美学最後に残しとく

未定稿ばかりを生んで黄昏れる

氏素性父の母には籍がない

男鹿市 伊 藤 のぶよし

切ないね無口な父のまた来いよ

言の葉だって人情だって微調整

仲間意識か 金魚一匹よってくる

哀しさは地獄極楽予告なし

補聴器を忘れた途端もう笑顔

弘前市 稲 見 則 彦

ドクダミを素手で千切った午後の鬱

甲子園伝令が行く夏がゆく

要するにわたしはその他なんです

マスクのお方そう呼ばれてるひとがいる

十歳の教科書にある処世術

弘前市 今 愁 女

オリ・パラで日本金銀ほっとする

開催までの悩み苦勞をふっ飛ばす

強かな新型コロナ攻めてくる

早朝に草取りしては昼寝する

寝込まずに平凡暮し たまに旅

塩竈市 木 田 比呂朗

歪も季節も選ぶ吟醸酒

自肅中知った一日の台所

ふる里はコロナ無沙汰で早二年

自尊心断捨離出来ず取っておく

茶髪の娘優先席の字が読めず

第18回 川柳『信濃川』新春誌上大会

*新作2句・お一人様一組

定型のリズムをお願いします。

課 題 「土」

選 者 13名共選

相田 柳峰・前田 楓花・大内せつ子
みぎわはな・平井美智子・坂本 加代
永見 心咲・瀬戸れい子・吉道航太郎 他

締 切 1月31日 消印有効

投句料 1000円 (野口英世さん郵便小為替)

90歳以上の方無料 証明は不要です

賞 1位 魚沼産コシヒカリ 10キロ 他

投句先 〒940-2042

長岡市宮本町3丁目-2433

相田 柳峰宛

電話 0258-46-5999

川柳塔の

川柳讃歌

(20)

上方芸能評論家 木津川 計

ないといえはないあるといえはあるお金

谷 口 義

僕が義さんに借金のお願いに参上すると、「貸すほどの金はない」と断られる。金があっても貸す何の義理もないからだ。だが、お身内のどなたかだったら対応は違う筈だ。

それにしても義さんポイントを衝くなあ。わが家にもお金はない、といえはない。が、あるといえはあるが、明石家さんまの総資産には目をむいた。五〇〇億円というのである。使い切れない。全部国に寄付したいという。一介の落語家は国家のために働き続けたのだ。

欲がなければ騙されることはない

早 川 遯 行

大豆の先物買いをせよという電話が見知らぬ人物からかかってきた。「値上り間違いない。買ってください。」「儲かるか」「儲かります」「絶対か」「絶対です」「あんたなあ、絶対儲かる話を他人にしなはんな。あんたが

買うてもうけたらええやないか」「ガチャッと電話が切れた。騙される人間が跡を絶たない。騙す悪党がいるのだ。彼たちは生涯を騙しに懸ける。騙しながら年をとり悼まれず死んでいく。遯行さん、無欲が一番です。

平等を称える国の貧富に差

福 田 正 彦

さんまの総資産五〇〇億円に驚いてはいけな。」「平等を称える国」アメリカの小売業者「ウォルマート」の3代目は去年1年だけで230億ドル(2兆5280億円)も資産を増やしたと日刊ゲンダイ(9月23日)が伝えた。総資産26兆2000億円、冒頭の谷口義さんの「あるといえはあるお金」は義さんには悪いが吹けば飛ぶホコリの一点でしかない。さりながら一億総中流の一人に組み込まれて久しい。大日本貧乏党総裁の僕は泣きたい。

ワクチン2回あつまい酒青い空

村 上 直 樹

若いなあ、直樹さんは。酒はともかく「青い空」というのである。空が青いとか、「おい、虹が出てるっ」という感性の持ち主が川柳塔の同人にいてる、とわかって朱夏編集長のこれまでの意気込みがわかった。同じ感性の同志たちが川柳塔を盛り上げ、朱夏さんを、ちょっと怖いけど、名編集長に育て上げ

たのだ。大阪は川柳の都だ。一方の番傘、対する川柳塔である。どちらもがんばれ。直樹さん、ワクチンは終わった。「うまい酒」を飲もう。

検査値を手に酒は駄目肉は駄目

坂 本 蜂 朗

うーん、蜂朗さん、ワヤやなあ。私は肉を好まないから差し支えないが「酒は駄目」と言われると「そら何を言うか、死んでまうがな」と逆らうて飲む、というてもアルコール度5%の第三のビールである。大日本貧乏党は徹して貧しい。その貧乏を総裁の私は楽しんでるのである。もし爪に火をともし暮しであっても飢えることはあるまい。蜂朗さん、酒も肉も駄目でも飢え死にはしません。

朝の五時鶏が鳴きセミ騒ぐ

前 田 恵美子

恵美子さん、あなたはどんな所にお住まいなのか。セミは街なかでも鳴くけど鶏は鳴きません。昔、大阪の箕面で鳴き声のやかましい食用蛙が大発生した。「駆除せよ」の合唱になったとき住民でもあった小松左京が「自然が残つてるといいことやないか」と唱えた異議に住民は覚醒した。「鶏が鳴きセミ騒ぐ」所にお住みの恵美子さんはうらやましい住環境の元でお暮しです。どうかお大事に。

西尾葉句集『水鶏笛』
くいなぶえ

応接間の金魚逆立ちしてくれる

御陵から御陵につづく彼岸花

鯉幟りの尻尾が天気変えるなり

打水の滴りに立つ妻楊枝

寂光院コスモスの道菊の路

暗がりに梅の香と知る始発駅

遮断機の向うに信貴の花曇り

ラッパ飲みの彼方に湧いた雲の峰

平家村つめたい水の湧くところ

白砂青松夏だけ停まる駅という

急行の停まらぬ駅の良い桜

踏切の雪だけはいて火にあたり

老梅の孤独を愛す崖つぶち

ボロクソにこきおろしするとこへ涼みに来

陽が落ちてから来た水着よく泳ぎ

蚯蚓も神さんもとなえて放尿草紅葉
あほくさとも言わず炬燵を猫は出る

路郎忌や美濃の大八備後の亜鈍

地藏盆山盛りという供えよう

洗濯の雫へコスモス真盛り

花屑をあつめてポート屋暮れ残り

昼の雨あがつた雀の騒ぎよう

王手飛車かけて夕立ほめるなり

花びらをついて鶏またあるき

桜 藤 躑躅 と沿線あわたし

振り袖に似て金魚のＵターン

督促状と一緒に入った花だより

夏休みの学校蟬の鳴くところ

懸崖へ猫の尾がある良い日和

夕立は土の匂いがかがすなり

大屋根で隣りの柿の熟れをほめ

夕桜スリはとくに駅で持ち

蚊を払う仕草で舞台廻り出し

自選集

小島蘭幸

十年日記淋しがり屋の父がいた
仁王立ち満身創痍には見せぬ
命懸けでした代車はもう乗らぬ
真夜中のスマホが避難せよと言う
敬老の日でしたパンをいただいた

村上玄也

今日もまた昨日と同じことしてる
五欲みな衰えていく寂しさよ
諦めが先に出てきて手がつかぬ
生きている実感美味しいもの食べる
メモの字もだれきっている怠惰の日

森山盛桜

新語を並べると日本語にならぬ
カラオケに行く道順が解らない
引き際は良かった死に際が残る
野晒しの渋皮だけど吠えている
触手が触れる人間は毒がある

砂時計

八木千代

さつきから机に置いた砂時計
古いものだけどサラサラ狂わない
規則正しくただ一心に落ちていく
尽きるまで落ちる残りのある限り
じっと見ているといつしか砂になる

山本希久子

好運か不運か人生あみだくじ
人生のラストページを視野におく
介護の明日正解のない薄い闇
老々介護笑い袋はなくすまい
やさしさを試されている昼の膳

居谷真理子

老人に飼われ悲しいほど太り
腐敗臭息のかかったところから
亡父さんがいた無観客外野席
どうしようもなく災天の墓の前
無人駅蟬蟬蟬の中で待つ

川上大輪

それでいい何も無くてそれでいい
笑顔満開ここから勝負だな
笑っても泣いても今日の陽は沈む
直線の撓みは耐えていた証拠
広告の目玉にまたも騙される

北野哲男

ソーラーの様な暮しになって来た
巢籠りの日々で日記も五行ほど
卒寿です医者の手抜きが感じられ
酒五勺今更ながら歳を知る
食い逃げや持ち逃げを待つ親心

木本朱夏

記憶にない傷が乾いている手首
終活のひとつ逢わねばならぬひと
芙蓉咲く ははの微笑のようにさく
蟬は地に還り終活急がねば
四年目の金魚と秋の青写真

新家完司

人生のピークは今の今の今
田植えから見守っている雀たち
ボロ家だが玄関先は掃いておく
積年の慢心を斬る稲光
キープしたボトルの他は未練なし

高瀬霜石

騙すより騙されろとは言うけれど
男手にならぬ亭主で許されよ
愛車もほくもいずれ産業廃棄物
おかげさま妻は金属アレルギー
湯豆腐が待っててくれる風呂上がり

竹治ちかし

夏の風の風情を消している文化
名を残す残さない人みんな友
名を残すことなく消えて行くも良し
死にたくはなかった母よ我赤子
後期高齢知らない母を恋うる今

津守柳伸

猛烈な努力まざまざバラ競技
歯科眼科チャリンコ放せない卒寿
雲流る終息見えぬ変異株
雑草と根比べする境界線
忠実なスマホ退屈まぎらわす

西出楓楽

不完全燃焼続くコロナの日
檜山へ行く余力だけ残しとく
恐ろしくて認知テストは避けておく
切り札を持って結論急がない
コロナ明けまでスベアしておく笑顔

仁部四郎

四番とわが名唱えて米寿超え
八十路まで着いた道には何の色
十二歳あの八月の十五日
ちよっとだけ思い出せばのニヒリズム
高齢者叙勲が土産向う岸

福士慕情

五楽庵師の命日ばくの誕生日
誕生日ひとりノンアル飲んでる
コロナ禍の傘寿を少し持て余す
神様が僕に余命を教えない
さて僕はどんな死に方するのやら

松本文子

嫌われてはならぬゾンビーのように
何時の間に無くしてしまった羅針盤
避難指示通帳よりも飲む薬
密室で喜怒哀楽を張りつける
コロナ地獄で極楽を探す

三浦 強 一

五感奏え第六感で生きている
物忘れ神の深慮として拝受
男前髭は剃っても剃らずとも
真夏日のラーメンも良し北の味
句読点打てずに続く私小説

三宅 保 州

見送ってくれているから振り向かぬ
昔はと言えば又かと嫌われる
家で飲むと飲みに行きたくなってくる
遮断機が上がり決心しました
絶好の快晴偶然に過ぎぬ

麻生路郎語録

三条東洋樹君が、「時の川柳」誌上で、編集者との対談記事中に、本誌の編集方針に少しく触れていられたが、斯うした理解のある人たちに読んでもらうことは、多年編集に腐心しているものにとっては、ラクダの背からオアシスを発見したようなよろこばしきを感じるものである。

全国の柳誌を見渡すと、投句マニアのごきげん伺いに雑誌を出しているようなものを見受けるが、せめて柳誌を出す以上は、出すだけのメリットを持ちたいものである。どこの雑誌か判らぬようなものもあるが、もつと地方色を出してもらいたいし、句の上の主義主張も堅持する必要があるし、文学としての川柳の向上にも意を用いてもらいたいと思う。その点、忘れても青龍刀君の云い草ではないが、紙とインキのムダ使いはしないことである。

（「川柳雑誌」昭和40年1月号 NO・452より）

森の集句



『ねっくれす』

にしで かず え
西出 一 栄

女なるかや猪首にも首飾り
仮縫いへ時間がかかる肥満型
若き日の嫉妬 さめざめ泣いただけ
不足ない年でこの柄地味やろか
コマーシャルのように聞いとく老いの愚痴
主治医と家族で箱入り婆にされ
忘却があり金婚にたどりつく
嫁のセンスおしやれな姑にしてくれる
旅楽し大阪弁が横に居て
胡瓜 茄子 どっさり漬けて心満つ
湯どうふをゆつくり待つも京の味
天王寺亀もあきれている人出
生け花の根締めにも似た一生か
簾椅子のそこまで秋がしのびより
おぼろ月夜光源氏が出てきそう

(昭和四十六年十月十日 発行
第六十九回誕生日)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

万年青 (一九八七～一九八九)

万年青の実 日中友好二千年
糞虫よ君は孤独の哲学者
野心もうとつくに捨てたベレー帽
映像がモノクロとなる雪景色
自分史の序曲 軍歌と労働歌
負け戦 黙ってコーヒー飲んでいる
主義のない雀踊ってばかりいる
事故の日と変わらず信号点滅し
耳鳴りは私だけのシンフォニー
春愁にエンゼルの矢が届かない
年金のかける気合は知れている
大正の貧しい恋のテクニク
おろおろと立つても開く自動ドア
小企業 五分咲きの下花の宴
岩波文庫 青い目が読む神戸線
人脈も金脈もない父の靴



川上大輪選

大阪市 岡田恵子

補聴器をはずして秋の風の中
ボン菓子^{ボン}のボンで夢から醒めた恋
たればの話で余白埋めている
何もかもコロナの所為とカップ麺
秋風にのって届いた皮下脂肪
早口言葉絶好調の脳回路

和歌山市 まつもと もとこ

真夏は嫌いだ紫陽花のため息
全角か半角かスペースの罫
大人しい子供とややこしい大人
いつからかズルい大人の仲間入り
ギブアップ恋の解き方わからない
嘘じゃない全部本気の類似品

寝屋川市 長尾千賀

バラソルの真白に秋がとまってる
コーヒーの苦味とやわらかな陽ざし
藤椅子に残る去年のあれやこれ

覚えてる照れると爪を噛む癖を

極上の時間^{とき}に溺れるジャズライブ

法師蟬のララバイステンドグラス越し

松山市 郷田みや

カマキリを茶色に変える秋の風

でき過ぎた話そうねと聞いている

葬儀屋のチラシにイガの付いた栗

空蟬の一途がしがみついている

ドクダミが隙間に伸びる駐車場

家族葬だったのですね小菊咲く

尼崎市 清水久美子

天然水空っぽにして秋に入る

長電話するなど叱る鳩時計

独り居の私の気持ち分かるボチ

恙無く無駄に食べてる保存食

断捨離は業者任せと決めている

おばさんになったと思う背格好

宮崎県 黒木 栄子

家庭内感染は無い倦怠期
こんな嘘日記に書ける筈が無い
腕が触れそうに歩いた下心

大阪府 奥野 健一郎

母さんが帰って来たよ赤トンボ
昭和へとタイムスリップ路地の裏
諍いは苦手まあるく生きて行く
水子寺寄りそうように風車
隣人の顔さえ知らぬ都市砂漠
急ぐのに降りた遮断機とおせんぼ

三田市 生田 えい子

喪が明けて亡父から届く御礼状
産所からリモートで見る孫の顔
昭和史の所どころに亡父と亡母
職人の合わす呼吸に光差す
家業継ぐひと肌脱いだ三代目
バラリンに勇氣もらったこの義足

山口市 中前 幸子

秋色の音で淋しい遠花火
風化した指切り小指まだ疼く
まだ愛が残っています潤れた川
人知れず燃えたいのです彼岸花
デジタルの風少年の樹が伸びる
棚田百選ゆつくり愛でる個々の月

神戸市 米田 利恵子

国民も政治評論する自粛
今日だけは外出接種会場へ
シャンパンの泡消えるまで愚痴を聞く

遠方のポストを選ぶ万歩計
グリ押し後の結果はあんのじよう
やわらかい声で外堀埋めにくる
シンプルな暮しに飽きはこないもの
水掛け論しつこい方が勝っていく
晩年を消化ゲームにしたくない

富士見市 中島 通則

明日やろうきつと明日も言っている
母一人残して古希の里ごころ
満月を両手で抱う露天風呂
汗びしょに満足してる万歩計
老いたともまだ元気とも思う古希
「時計回り」が死語となりそなデジタル化

明石市 瀬島 流れ星

言い訳を決め玄関でひと呼吸
不意に来た客が喧嘩の種を蒔く
肩書がわかってからの低姿勢
屋台酒昭和懐古で盛り上がる
よく抜けたらしい土産と鼻歌と
これ以上飲むとやっぱり泣き上戸

黒石市 石澤 はる子

たとう紙の皺から亡母の息遣い
朝市が僕の寝坊を許さない
抽出しの本音時々牙を剥く
風当り軽く尻尾で受け流す
生きていることが目下の大仕事

黒石市 北山 まみどり

真夏日も夏日も変わらない日差し
ごきげんを伺ってくる夏野菜
だらだらと誤魔化している生返事
くもの巣をながめ溜め息つきながら
いつまでの我慢が破裂せぬように

青森県 月波 与生

角砂糖の角で傷付く人でした
失業中のルール確認しに戻る
神様の死角を映すdボタン
重箱の隅々にある八角堂
曲り角間違えたのか犬が鳴く

八幡市 武田 悦寛

Aプラン止めBプランで生きてみる
熱っばいおでことおでこそその昔
すがりつくブライド今も同居中
ウソホントちゃんぽんにしてクラス会
今日のグチ大小まとめ掃除機へ

奈良市 東 定生

雑音を飲み込んでいる大都会
デジタル化指先だけがする出世
豪邸にヤモリ数匹へばりつく
四コマの漫画の中で見るドラマ
朝風呂に名湯入れて旅気分

奈良県 室田 行久

金名誉無縁に生きる四畳半
度が過ぎたもつたないがごみ屋敷
手酌酒ひとりカラオケ自画自賛
暴走にブレーキ役が居ぬ悲劇
受けた恩 人に施す出番です

和歌山市 定松 宏枝

母こそは世界に一つだけの花
静脈の浮き出た手にも感謝状
ヘアバーンの髪型真似た遠い夏
大騒ぎ平熱一度越えただけ
老人の優待券をそつと出す

和歌山市 西川 千鶴

錯覚の恋でも恋は恋である
ひまわりのようなお方の傍が好き
吐き気さえ覚える程の時事はかり
孫自慢そうかそうねと聴いてやる
ドレスコード無視し入店秋の風

岩出市 村中悦男

感染ニュース受け入れ先のない怖さ

血液検査良というのでいい寝つき

お若いはお世辞でも良い気が軽い

熱中症にコロナ加えて怖い外

ワインにしよう一人ちびりと自粛中

和歌山県 三枝真智子

親という他人には無い肌ざわり

人間のしっぽが切れぬ自己嫌悪

つまずいた日から思わぬことを言い

つなぐ手を大きく振って愛の位置

火の鳥を一羽かくした消えぬ罪

鳥取市 大前安子

自粛イヤモヤモヤを消す散歩道

鈍くささひとりウフフと鉾おさめ

庭石と夕日迎える安堵感

花鋏花の命と向き合やす

聴く耳がメッシユになつてちようど良い

鳥取市 山野すみれ

東大の門をくぐった事が無い

トンカツも良いけど今日はエビフライ

蜘蛛の糸断ち切らなけりや蓮の庭

瞬間に見分けてしまう大と小

一日を夕日に溶かし締めくくる

境港市 中井虎尾

さびしさや一朝事に老進む

ヨイショって人がいなけりや言わぬ俺

実権を子ににぎられてカラざいふ

客を見て店の民謡なり出した

さあ今日もテレビの中の世界旅

米子市 妹能令位子

とんとんと駆け登る音若い音

テレビ消す虫の音色が沸き上がる

都合良くコロナの所為でお断り

とりあえずコーヒーを淹れ今日始動

物忘れ進み私が揺れ出した

鳥取県 田中重忠

九十五歳波乱万丈生きてきた

妻看取る涙にくれた雨の朝

手を合やす妻の遺影がいとおしい

在りし日の女房しのぶハイヒール

捨て切れぬ亡妻と写した写真帳

松江市 中筋弘充

新米の頃が華だと言う古米

新米に謙虚になれと言う古米

熱上げた人も杖つくクラス会

若者に法螺など吹いている傘寿

放棄地など見たことがない昭和の子

雲南市 永見 安子

尾道市 小畑 宣之

楽しみを先送りして元氣出し
露草の色鮮やかに秋ちかし
よくわかる匂うバラにはいつも虫
記念樹をそつとなでてる今日もまた
雑草に勝てませんわと話しかけ

広島市 田桑 恵子

長雨を雑草だけがほくそ笑む
百日紅豪雨の後も逞しい
書いたメモ何度読んでも分らない
長電話電池残量気にしつつ
パンダの目垂れてなければどうなのよ

広島市 常國 喜好

好きだった頃も確かにありました
手が触れて踊り始める未来地図
主流派に群れて自分を見失う
老いの趣味消してはならぬ淡い夢
内と外揃って嘘のないガラス

広島市 松尾 信彦

ワクチンが軽くしちやった胸のうち
温暖化母の歳時記リンクする
畑仕事モンベの母のケアハウス
どの子にもアンテナ母の周波数
リモートも飽きて孫らとにらめっこ

蟬しぐれ誰か指揮している筈だ
微笑みに微笑み返し幸を呼ぶ
オリンピック愛国心の恐ろしさ
堂々と破れ輝く人もいた
スマホより手紙にしますボケ防止

尾道市 村上 和子

楽しみは晩酌だけの家籠り
鉛筆を握り浮かばぬ五七五
施設の姉に会わせてくれぬコロナ
コロナだからと断れるお付き合い
すみませんコロナ禍で貰う年金

山口市 兼崎 徳子

盗みたい君の心のパスワード
筆圧を感じる君の太い文字
目の奥を見抜いてしまう熱視線
リモートのためにお部屋を模様替え
冷めきった愛をレンジで暖める

大洲市 花岡 順子

さらさらの木綿で過ごす炎天下
いい顔をしたい男にご用心
過疎に住みまだ役に立つ火吹き竹
良いことは褒めて最後はまた小言
仮設撤去三度目の雨季が来る

佐賀県 真島 久美子

裏ごし器敵は味方になりました
振り返る薙ぎ倒されたワクチンを
守りたい人が帰ってこない胸
産んだはずない子の匂い追いかける
原子炉をくすみカラーで塗り潰す

横浜県 巖田 かず枝

アフガンの子等に希望を与えたい
なぜ神は子等の涙を許すのか
変異してコロナいつまで居座るか
オンライン親はゲームが気にかかる
息子とのライン既読でハイ終わり

浜松市 中田 尚

打ってみてさてどのくらい効くのやら
問診も接種もベルトコンベアー
三ヶ月待って三秒で打ち終わる
二回目を打たぬうちから三回目
二度打てばハイタッチしていいのかな

名古屋 富田 末男

人のためになると思えば出す本気
どん底に居ても忘れず持つ笑顔
深読みをすれば疑問符消えていた
転ばないために心を強く持つ
信用があるから訳は聞かずいる

江南市 脇田 雅美

愛犬ボチたまに主人に逆らいな
デバ地下の売りつくし待つ夕暮れ時
姿見に部屋中映る四畳半
札束を過疎地にチラリ核のゴミ
きつと来るギター流しに晴れ舞台

豊橋市 小松 くみ子

スーパードで皆に見られるノーマスク
値上がりの食品さけた夕御飯
感染の数が行動決めさせる
仮の家感謝を込めて掃除終え
八重咲きの花びらの数はさまぐれ

岐阜県 喜多村 正儀

正直な消しゴムいつも忙しい
凄腕の近くでもらうとばっちり
レコードのミゾに詰まっている昭和
散り急ぐ枯れ葉に心追いつかず
清流ですすぐひと日の悔いあまた

大阪市 東 敏郎

齢重ね空気のように住む二人
戦中派蓋のめし粒先に喰う
何事も起こらん日々が怖い歳
一枚も家族写真のない我が家
負の遺産埋もらぬままの遺言書

大阪市 大沢のり子

大阪生まれボケツツコミは苦手です
おすそ分け曲がりキュウリに笑う顔
話すことメシのことだけ老い二人
ワンバターの献立今日も暮れてゆく
人前で泣くと言った夫が泣く

大阪市 尾崎文子

デジタル化もたしても止まらない
総裁選民はのけものあほらしい
自宅待機入院保険役立たず
売れ残り格安野菜気にしない
木造の校舎でいじめ記憶ない

大阪市 折田あきこ

言い訳はしないと決めて夏終る
満月も雲に隠れてひと休み
満月のどこか冷たい秋の空
亡母に似て刻々変わる月の顔
迷い道出発点に戻りたい

大阪市 阪井恵子

雑踏にふと立ち尽くすひとりばち
会えそうな気がしてふらり降りる駅
生きてれば今はいくつと見る写真
たわいない話続ける秋夜長
サッサッサ恋の終わりは引き摺らず

大阪市 中村民子

雑草の白い小花に秋を見る
ごろごろと暇持て余し夏を越す
願い事心に秘めて神だのみ
離れたら水臭くなるお付き合い
好奇心未だあれこれ楽しんで

大阪市 中村峰子

信じようあの世なければつまらない
朝がきた生きてるだけでありがたい
音を消すテレビの中は騒がしい
もう少しおいしいものを食べてみる
年取ったブチゼいたくもいもんだ

大阪市 樋口真

持病ありレギュラー缶で我慢する
澄んだ空秋はもうすぐ薄い雲
秋近しけれども遠い奈良京都
長く生き寂しいことが多くなり
自粛して敬老バスは大あくび

大阪市 森廣子

コロナでもお先祖様が来るお盆
都会の太鼓田舎の笛も耐えている
曖昧と言う武器を持ち生き延びる
ハイもイイエも答えられない時が有る
絡の穴の奥で見つけた突破口

池田市 上山堅坊

河内長野市 坂野澄子

自在に眉描いて美魔女になる女
ほっこりと我が身を癒す縄のれん
趣味に抱かれてゐるラッキーな米寿
テレワークで国会の悪退治せよ
赤木ファイル全員作れ公務員

貝塚市 吉道あかね

散歩道季節が移る虫の声
風のまま私も真似るねこじやらし
夏と秋 九月の空は同居する
一服が長くなつてゐる秋の蝶
金婚のゴールの先もまだ夫婦

交野市 山野双葉

新米に具材は不要塩にぎり
子の名さえ忘れし母が柿吊るす
大中小問わず百円無人市
水枯れてふて寝してゐる鹿威し
まだまだまだ緩和は卓に載つただけ

門真市 坂本星雨

螢火のような希望を明日へ抱く
ときめきを探し続けてもう九月
独りには贅沢すぎる秋の天
落ち込んでいてもダメだと月笑う
生きてゐるつもりで予約するおせち

推し量る母の健康筆の跡
誤嚥した甘い言葉が引つ掛かり
あしたへと繋ぐ夢抱き衣替え
片恋にバラの棘さえ悩まし
おぼろげに一つ二つと散る記憶

河内長野市 穂口正子

部屋一巡孫の歓声オニヤンマ
愛のシグナルが今も迷走中
親友と思われていてきこえない
一度限りネジ交換は無理だった
続く自粛縮まる余命遊びます

吹田市 岩口のぞみ

残暑にも八百屋の栗に秋みつけ
朝チェック大谷・天気・感染者
皮を剥く苦勞吹きとぶ栗ごはん
二年ものあるが今年も新らつきよ
柿干して一年分を冷凍す

高槻市 鳥居宏

終日の雨は涙か敗戦忌
どうなろうと中村哲は民のため
大雨もコロナも末世思わせる
散歩時息切れのするハートなり
もう蟬が声を潜めてゐる九月

高槻市 三 谷 白 黒

大阪府 大 浦 福 子

メダル数コロナ禍よりも大事かね
マスクして言いたい事も言えません
キャッシュレス騙されそうでやりません
暑過ぎて自粛するしかありません
敬老も誉められることしていない

豊中市 齋 藤 奈津子

子供には白衣の天使吸血鬼
秋夜長テレビを消せば虫の声
日本の夏消えたまんまの揚花火
コロナ禍も嫌な顔せず診る歯医者
病む人の気持ちかわかる病み上がり

羽曳野市 黒 木 ひとみ

銀シャリの旨さ身にしみ老いの日々
青田風葉音さわか実り待つ
今の世に頑固親父は変り者
「勿体ない」の心忘れて使い捨て
涼やかな風と虫の音秋の宵

八尾市 田 邊 浩 三

私より年下目立つ計報記事
コロナには感謝してます無精髭
コロナです先祖も許す墓参り
雨止んで蟬が鳴き出す妻散歩
初めての育児休暇に妻寝込む

閉店の貼り紙ゆらし秋の風
ホウセンカ弾け明日へ夢飛ばす
赤とんぼ故郷恋し亡母恋し
想い出の嵯峨野ささ笛ひとり旅
虫の声恋しさつのる秋夜長

神戸市 興 水 弘

嬉しさも落胆顔もわたし好き
クセ球と思わすことが魔法です
ざりざりの差ただただ涙顔いて
気になるな妻のお喋りぐつと減り
生きる詩柳友の遺作は忘れない

神戸市 城 戸 誓 子

認知症母と何度も初対面
母笑顔介護疲れのすべり止め
介護して増えた言葉はまあいいか
何やかや言いつつ共に居る二人
テレビ観て夫婦漫才する茶の間

神戸市 みぎわ は な

日光浴わたしを殺菌しています
鉢植えの機嫌取れずすぐ枯らす
親指ほどのピーマンなって愛撫する
まっすぐに泳いでいるのに川蛇行
グルコサミン タダであげると効くのかな

神戸市 村松久江

小野市 田中辰夫

若者で溢れる街の隅を行く

お楽しみ引き替え券を溜める日日

明日なら跳べる気のある水溜り

知らぬ振り上手にできてまた明日

あの時の景色の中に戻れたら

尼崎市 宗和夫

子が巣立つ妻は隠れて爪を研ぐ

炊事終え出かける妻はシンデレラ

頼らない息子に頼る頼りなさ

言い間違い聞き間違いで元を取る

夜更かしができるふたりはまだ若い

伊丹市 延寿庵野鶴

あれやこれ助詞ひとつ追い夜が白む

コロナ禍で壊されて行く明日の夢

万華鏡色があやなす視野無限

絶壁の松は度胸が座ってる

体内仏思わぬ経がひよいと出る

伊丹市 岡村風琴

こころの灯点として記す一行詩

花の名を問えば梔子返事せず

モナリザの視線が私追って来る

ほどかれて柿が飛び出す里だより

空っぽになると明日がよく見える

うわさ話柳に風と聞ける老い

さしすせそ男料理の日曜日

まん防に安酒あおる路上飲み

ウィルスに慣れて人人交差点

酒量減り銘柄選ぶ老いの口

たつの市 江尻房子

コロナ禍の数字でくくる死者の数

連れ合いが逝って髪形変えられず

櫛の歯の欠けるがごとく友が逝く

野良の目と闘いながら秋刀魚焼く

隠すのはもう無理だなあ顔の皺

西宮市 高橋千賀子

コロナでも今日を楽しく有意義に

美しく齢を重ねて星になる

稲穂垂れ雀が先に味見する

たつぷりと風と遊んだ奴風

新生姜うつかりしたらひねショウガ

三木市 山口ヨシエ

ステイホームあれやこれやとひとり言

聞き上手話し上手でエンドレス

ひと言をまた呑み込んでまわれ右

残照の煌めきそっと抱くいのち

花の種買って春への準備する

奈良市 尾 畑 なを江

遅しく生きては子等を喜ばせ
老後とは設計通り行かぬらし
言い方や仕方をかえて生きのびる
時たまに毒舌言ってみたくなり

生駒市 饗 庭 風 鈴

消えていく記憶のカケラ握りしめ
落っこちた電車のすき間赤いくつ
宝箱碎けた夢が光りだす
どこいったんあの日の決意鬼あざみ

生駒市 児 玉 規 雄

片肌を脱いでワクチン二度接種
罪人の様に見られるノーマスク
敬老の意義薄れゆく長寿国
丑年の月日の歩み速いこと

和歌山市 北 原 昭 枝

今日という思い出がある子の未来
思い出をたどり見つけたさくら貝
百日紅ゆれて思い出つれてくる
今日という一番若い思い出よ

和歌山市 倉 橋 悦 子

変らない景色夕日が染めあげる
肉眼で見えぬ空気に侵される
好奇心だけは元気で生きている
花マスク濃い日淡い日今日は白

和歌山市 佐 藤 ま き

残る機能最大生かし輝ける
身体能力心の成せる技
パラリンピックの閉幕気が抜ける
もう越冬渡るツバメの無事祈る

和歌山市 鍋 嶋 澄 子

夜風吹くさわやか秋に身をあずけ
赤トンボ聞こえあたふたゴミを出し
どしゃ降りが日本列島浚いそう
陽炎のゆらり昇って別世界

和歌山市 福 島 一 雄

祭壇の写真を妻は探してる
歳毎に演歌の良さが沁みてくる
食欲と健康比べ悩んでる
総理には喋りのうまい人が良い

鳥取市 上 山 一 平

オリンピックマスクさまざまお国柄
襷がけ高ぶる書道甲子園
しなやかにからまる落葉竹箒
歌も出るひとひ楽しい老介護

倉吉市 伊 藤 嘉 昭

月日は早し妻の静養二十年
演芸会やつぱり中止に皆マスク
のれん街何が不足かドアをける
コロナ禍はいつまでつづくもう限界

倉吉市 堀 かずこ

食欲がないのに体重増えている
眠れない五七五と指を折る
水煙抄ページめくって載ってたよ
句の中に気持を入れよ師のことば

倉吉市 宮田 風露

人生に不可能はないパラリンピック
孫自慢今日の天狗は誰だろう
お人好し嫌だと言えず又役を
蒸しむしじめじめ動けない日の鬱

倉吉市 若松 由紀子

ウォーキングいつもの道で転ぶ老い
点滴で病人らしい顔になり
病院のベッド一人の誕生日
性格は変わらぬままに無事退院

米子市 川本 美津子

コオロギのオーケストラが子守唄
老けた顔鏡はうそをついてない
気分よく過ごした日には花を買う
ドクターの言葉で変る気の病

鳥取県 橋谷 静江

顔見れば嬉しい言葉かける孫
ストレスをなくすヒントは買物だ
コロナさん早くどっかへ行ってくれ
やがて来る明るい明日待っている

松江市 相見 柳歩

麺類が好きで簡単だと言われ
唇がお菓子のようで二度三度
情愛が育つ余計なものを脱ぐ
駅弁だ銀河鉄道途中下車

出雲市 黒目 ひでお

残されたものを生かしてバラ競技
パラ五輪私の心奮い起つ
回り道真価問われるいばら道
アフガンがテロの温床ならぬよう

安来市 原 德利

鉄板の挨拶をする喪主の礼
悪友も優等生も丸坊主
マスクから想像をする緋のルージュ
万葉の風味戴く源氏巻

津山市 高橋 由紀女

たかが輪ゴムされど輪ゴムを手放さず
食べ物の番組ばかり行けもせず
悪いけど言えない事もあると言う
口に出すだけでも心軽くなる

美作市 岡本 余光

確実な歩調当分大丈夫
梅雨明けの暑さの中でカビ退治
台風に吹き飛ばされる誕生日
来た道をすっかり忘れそんな日が

尾道市 小川道子

唐津市 前田廣幸

祈ることだんだん多くなる齡
くるおしく花の命の返り咲き
川柳で泣きも笑いも弾ませる
夏の影ひきずりながら風は秋

竹原市 若年幸子

ワクチン接種腕捲りを誉められる
金婚式一たす一は二にならぬ
それぞれの花それぞれの蝶が来る
五輪パラリン終えて退く菅総理

竹原市 土井輝恵

あと十年生きるつもりのリフォームで
だんだんと棚の高さが高くなる
苦勞した裏にもあった温い風
女房に言い勝ち虚し秋の風

三次市 伊藤寿子

おはようさんまだ生きてても良いですか
顔面麻痺マスクへホント助けられ
飛びまわった過去が脳から離れない
家事一つ出来ずに妻の座へすわる

府中市 岸田武

静かさを寂しいと言う妻の秋
いくたびも稲穂の波を振りかえる
バナナ三本今日のおやつに置いて出た
欲しかったサクラクレパス十二色

物言わぬ自然が下すアメとムチ
美味しさの裏にカロリーへばりつき
ポトポトと落とすが如く物忘れ
失敗をする動物がヒトである

宮崎県 惠利菊江

お話の切れ目さがして腰上げる
取れ立ての産直市場見る至福
ごつい手で旨いカレイを捌いてる
セミの声轟く山に足入れる

沖縄県 禰モモト

各国の平和行進五輪祭
感動は二人三脚のマラソン
感染の一人暮らしは死の恐怖
地球上コロナ汚染で狂ってる

沖縄県 宮すみれ

巣ごもりに目線ななめに趣味見つけ
猛練の心一つのフラダンス
細枝に子持カマキリ綱わたり
みそ煮立つ具材いっぱい元氣汁

高知市 三谷松太郎

物忘れそれも立派なりセツトさ
歳も歳朝のセレモニー間引きたい
みな昭和九十七年そのまんま
一直線そんな気概でもう少し

弘前市 小山内 真由美

胸の痛い曲もすつきり聞ける歳
シミュレーションとても大事な緩和剤
実りの秋を知らせるように虫の声
心は動く生きているっていう感じ

宇都宮市 廣瀬 良磨

金メダル渡したい人右にいる
今日もまた値引きシールにそそられる
いつまでも若くはないと足の裏
古いものの片っ端から捨てている

横浜市 加藤 佳子

睡眠の質が気になる熱帯夜
人流を減らせとTV渋い声
自宅療養恐い言葉を投げつける
医療崩壊犯人探し忙しい

静岡市 渡辺 芳子

暖かな過去の思い出胸一杯
帰れない今しかない今大切に
この人生出逢えた人に皆感謝
この年でもう後悔はしたくない

豊橋市 西郷 紀美代

ものさがし少しずつ揉めている
呑みたいが断酒の夫無視できぬ
定命をひたすら生きて悔いはない
向日葵が重い頭でおじぎする

京都府 北野 クニオ

ワクチンを二回打ったがあと一回
萩咲いて涼風吹いて夏は行く
タリパンの復活で泣く避難民
うなぎ食べ炎暑の夏を吹き飛ばす

大阪市 今村 和男

鯛雲サドルを少し上げてみる
横顔に少し陰あるお月さま
失敗をチャンスと思う懲りぬ人
試着室着てきた服を忘れてる

大阪市 近藤 風羅

鯛のおおむけのまま鳴いており
少し欠けた月が私を見つめてる
天高く私が肥えてどうするの
友達だろう肩組んでくるあんた誰

大阪市 阪本 秀子

極限の脳にスイーツ効いている
挫けない心バラリンから溢れ
人生の中で断つもの拾うもの
天界の父母のエールにこたえたい

大阪市 柴本 ばつは

こおろぎが庭で鳴いてるもう秋ね
無駄話それがうちの胃の薬
老女でも眉と口紅くつきりと
がらんとした運動場のやるせなさ

大阪市 前川 善之

老人のバースデイケーキ笑顔出る

泥塗れ奮闘見せるユニホーム

練習は金を得る為とする努力

九月来て北風吹いて実る秋

泉大津市 助川 和美

キャッシュユレスやはりなじまず財布持つ
混浴と聞いてたけれど足だけか

飽食の影で廃棄を生む始末

豊作の夢打ち砕く暴風雨

大阪市 松田 聡

オリンピック無事に終えたと言えますか

スキャンダルうまくごまかし出世する

風邪ひけばコロナ疑う恐ろしさ

巣籠りに慣れたらあかんけど慣れる

泉佐野市 檜 葉 良子

悪妻を演じ気楽に生きてます

思い出に色付け喋る爺と婆

甘い汁吸って残ったほろ苦さ

優勝旗補欠の汗も沁みている

大阪市 宮本 千恵子

オリパラのラグビーやばいファンになる

大谷の活躍夫機嫌良し

自粛続いて喧嘩の種がそこら中

五キロ痩せこれフレイルとわかった日

柏原市 神崎 江

お互いの違い認める世を願う

ずるずると先延ばしする歯科受診

たまご井みつ葉のせればそれなりに

ミニトマト育て育てと水をやる

堺市 古川 光雄

コロナ起源未だ世界は揺れている

コロナ居り未だマスク忘れあり

ナツメロに思い出させて口ずさむ

鳩時計ねじ巻く音のこころ良さ

吹田市 西沢 司郎

真実が黒塗りされてするデビュー

裁判であぶり出される負の部分

窓開けて分厚い雲に睨まれる

他人事と思ったことがわが身にも

池田市 倉本 一弥

妻は旅頼りはお主冷蔵庫

最高だメダルの君の泣き笑い

待ち遠しい友と乾杯ガード下

子供らに何を教えた俺の背は

豊中市 貝塚 正子

七化けのコロナに負けず腕まくり

留守電を男の声にして自衛

歳重ね薄曇り日が心地良い

一年半顔半分のお付合

豊中市 松田 蟻日路

自分から逝く気は無いがゴールそこ

民意でしょ投票率が低いのも

草深い宿虫の音と米の酒

黄昏れて心の旅はまだ続く

寝屋川市 坂本 ミヨノ

ぶどう房ばばを眺めて早く食べ

祖母通院バイト親切よろこばれ

ばば急ぐぢぢの待つてる食事処へ

茸めしマツタケかしわ汁に浮く

東大阪市 秀 爷

現役で運を使って趣味はダメ

防腐剤多い奴ほど出世する

オリ・バラでコロナ忘れてベッドなし

敗戦のボディブローが効いてきた

大阪府 高木 道子

健診の後を葉が追っ掛ける

予定表をすっからかんにするコロナ

母の忌や声なき声を聞き返す

観音の少し猫背のシルエット

神戸市 青木 公輔

一生懸命口説いただけの夜でした

通い馴れた敷石道に有った謎

クモの巣のどの辺りから恋芽生え

盗むのは星か月かでふと迷う

神戸市 石川 克美

大雨で断水水が使えない

雨よ雨同じところに降らないで

蚊をバツチン虫も殺さぬ顔をして

生きる意味わからないけど生きている

神戸市 長川 哲夫

火を点で繋げば読める大文字

物臭も団扇取り合う午前二時

国別のメダルの横にコロナ数

シパキラの想い出たどる琴の爪

神戸市 田本 古鈴

黒髪が白くなるまで生きました

亡き人が生きる我らの味方する

漠然と医療崩壊目にしてる

キリストは仏陀は何処コロナの世

芦屋市 荒牧 孝子

あてはずれのどかな老後どこ行つた

年かさねざっくり話す悪い癖

無器用で納得せねば進めない

どっちなのはつきりしてよその態度

芦屋市 新阜 義明

聞くもイヤ断捨離なんかしませんよ

リタイヤ後川柳ですよ良き居場所

最後には自己免疫でケリをつけ

待ちに待つ斑点バナナ食べ頃を

あちこちに本音の話うら話

伊丹市 平井 富夫

一人占めどうぞ全てを御自由に

またばれた最後は妻に首根っこ

久しぶりあれからどんなくらしぶり

噓り泣き寝入る吾が子の頬撫ぜる

三田市 幸田 厚子

バスデー十三日の金曜日

ネズミと傘パンクシー画に見えるシミ

マスクの下お肌の手入れ準備中

三田市 馬場 貴美江

長雨で何処に消えた蟬時雨

親子とて財布の中は他人です

年金で百歳までは生きずらい

パラ選手健闘したね感動す

三田市 森 玲子

孫帰りお疲れ様とビール飲む

白髪増えわかつていてもあぁシヨック

入選句励みとなつて脳に喝

亡き父母に会つてみたいと思う老い

宝塚市 太田 としお

パラリンピック勇氣と感謝頂いた

二人三脚妻と一緒に五十年

いいですよ何でも許すご老人

若かった昔の写真嘘つかず

ズタズタになったワクチンの兵站

宝塚市 岸田 万彩

盛り土の上で昼寝のウサギ小屋

遅れないようにしなくちゃデジタル化

百日紅店仕舞して彼岸花

丹波篠山市 河南 すみえ

百までの予定をたてて自粛する

秋がくる森羅万象パラダイス

白桃に粗品と書くのかわいそう

一人居て目高静かに眺めてる

丹波篠山市 澤 良子

若き日のバイタリティーを絶やさない

百歳までプラス思考の人生を

何だっただっけ歳相応の物忘れ

手本にはされない見本のマイペース

西宮市 高瀬 照枝

進めない多くの事に嫌気増す

身を思い予定も未定に変わります

嬉しいな楽しい日日も思い出す

コロナ禍で萎縮した身をほぐしてる

西宮市 藤原 みよし

露地裏で地蔵見つけて手を合わす

隣からみごとな花と誉められる

疲れない様に休んで病くる

見ているが見ない振りする介護わざ

英語 de Senryu ⑪⑨

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

小料理屋女の匂いだけでよし

*small Japanese restaurant
enjoys high rank
due to female owner's smell*

火事か火事かと言うばかり 矢張り飲み

*Fire, fire
they cry
but I'm still drinking in my seat*

Japanese restaurant 和食の店 *due to* ~の故に *female owner* 女主人
smell 匂い *fire* 火事 *still* ずっと *drink* 酒を飲む *in my seat* 座って

～リバーウィローのため息～世界の詩歌 ⑤⑨ 日本語の歌になったロセッティの英詩

六十代以上の読者のかたは、中学・高校時代に「風」と題する歌、「誰が風を見
たでしょう。僕もあなたも 見やしない。けれど 木の葉を ふるわせて 風は 通
り過ぎてゆく」をご存じでしょう。この歌は英国の詩人クリスティナ・ロセッティ
(Christina Rossetti 1830-94) の英詩 (*Who has seen the wind?/ Neither I nor you:/
But when the leaves hang trembling/ The wind is passing through.*) を作曲家の西條
八十氏が、日本語になじむように和訳し、唱歌として歌われました。原詩は1872年に
出版された彼女の詩集 *Sing-Song* に収められていて、彼女の詩の中ではよく知られて
います。英語の曲のついた歌を和訳して、日本語で歌うことはうまくいきません。英
語の韻律やリズム、そして日本語の歌の根底にある和音階の違いがあるからです。中
には演歌の「与作」のように、日本語の歌詞 (与作は木を切る、ヘイヘイホー、ヘイ
ヘイホー) に英語 (*Yosaku is cutting a tree, Hey hey ho, Hey hey ho*) をつけて、成功
しているのもあります。しかしロセッティの英詩 *Wind* にはもともと曲はなく、西城
八十氏が五一七調の日本語訳をつけ、それに合うように作曲した作品です。そのため
日本語でも歌いやすくなっています。秋の夜長、思い出しながら、歌ってご覧ください。
勿論、日本語でね

誹風柳多留一二三篇研究 15

細井龍夫・伊吹和男
高野範雄・山田昭夫

小栗清吾

清 博 美

112 あたりを払てもふせんうれ残り

細井 吉原遊廓の張見世では階級によって坐る場所が決まっており、真ん中の赤い毛氈の上に最高級のお職女郎が坐り、下級女郎たちは、その左右に座を敷いて坐った。

毛氈の上のお職女郎は自分だけ売れ残っても不名誉なことせず、威風堂々としているが、それは表向きのこと、内心は又遣手婆に痛めつけられるだろうと心配と恐怖でいっぱいだろう。

甲の座ハもうせん乙ハござをしき 寛三 16
まん中にほんならざるか一人り居る

高慢なもの昼三の売のこり

伊吹 賛。最後の二行は？

安四松 2
寛 20

山田 賛。「あたりを払って」は、謡曲「安達原」、「松山天狗」、「碓澁」などに出てくる文句です。

小栗 賛。伊吹兄のいわれる通り、最後の二行は、そんなことはないというのが、川柳作者の高級女郎観。

清 賛。

113 かねの礼帰ると跡て是だとは

細井 江戸時代、女性結婚して懐妊すると眉落としの式と同時に鉄漿をつけ始める風習があったらしい。

初鉄漿には七力所から材料を頂いて鉄漿親になって貰い、つけたらその七軒に見せて回る鉄漿の札をすることになっていた。その札

廻りの女性が帰ったその後で「是だとは」と両手で腹ボテのジェスチャーをして一同クス／＼。

七ナ所口に金主の出来る恥かしさ 玉 5
かねの礼あたり七チけんくろうなり

どうでしれるにぶちまけなとかねおや 安五松 2

清 賛。

114 きてふだの哥書だのと取袴たれ

細井 平安時代の伝説的な盗賊袴垂保輔は、元は袴垂と保輔とは別の二人であったのが、『今昔物語』や『宇治拾遺物語』の説話と史実とが混同されて架空の同一人物になってしまったらしい。保輔は源頼光四天王の外の「一人武者」として知られた平井保昌の弟で、兄嫁は和泉式部。

保輔は勘当されては居たが公家の生まれ、兄嫁は女官で歌人なので、川柳では専ら御所関連で、公卿や女官から几帳だの歌書だのと強奪しまくっていると詠む。「几帳」は紫宸殿の移動用屏障具。

雲井にまこふ白波ハはかま也 二八 20
弟ハどろぼうさいハ哥人なり 天八 10 25

保昌もはかまのくせハ直しかね 二八三
清 賛。

115 もめんもやうを遣り手出しいやがらせ

細井 花魁が売れ残っても平氣の平左でいるのを遣り手婆は看過出来ない。何としても見世の売上高を確保し、さらに増加させなくてはとその花魁を呼びつけて、売られて来た時のみすばらしい木綿物姿を引き合いに出して、「誰のお陰でこんな立派な形をしておられるのか判っているんかい。もっと欲を出しな」等とじわり／＼といびつているところであらう。

どくしんでねる夜ハは、やかましひ

安九仁二

うれぬやつ下手な嫁程いひられる

明四札九

木綿から絹布へ落る孝行さ

五九二

小栗 賛。細かいストーリーはともかく、そのようなことか。

清 そんな所でしよう。

116 やうきひハかんせんぬひの上着也

細井 閑清縫は袋物の縁の縫い方の一つで、

太目の糸で打違えに夷懸にからげるもので、袴の股立や襦の部分によく使われる。絶世の美女楊貴妃は着ていた上着も優雅な閑清縫のものだった。

かんせんぬひを着たる女をたつね

安八仁二

伊吹 閑清縫がわかりません。別解がありそうに思う。

山田 礎のような事なのでしょう。

清 閑清縫の着物そのものを着ているのではなからう。閑清縫のような優雅な着物という意か。

117 貴公さまとハはつかしい届ケぶみ

細井 「下手な鉄砲も数打てば当たる」と遊女はせつせと浅黄裏の客宛の届け文を書いて、文の宛名に困っていたところ、「貴公」とか「身ども」とか「罷り越す」とかいふ彼等の口癖から思いついて不特定多数の誰が受け取ってもよいように宛名を「貴公様」とし文の末尾には届け日が何日になつても構わないうように特定の日付を入れないで「けふし（今日）」とするなどはお恥ずかしい限り。

貴公ハいかゞい共も一人りをる 七二二

高野 留守居役と踊り子とも取れるのではな

いか。

山田 礎賛。いくらなんでも留守居役の名を忘れる踊り子など居ないでしょう。

小栗 わからず。

半ふんハみ、ずのまじる貴公様 安二智三

そろべく候に書いたふみ貴公様 安七松四

あつさりとした文言で貴公様

安七亀二

に共通した雰囲気は何となくオザナリを感じるので、あるいは礎解かも知れぬとは思ふが、屁理屈を言えば、汎用ダイレクトメールなら宛名を空欄にしておいて、後で書きたせばよく、わざわざ「貴公様」と書く必要はないはず。

第一、宛名のわからない手紙をどうやって届けるのか。私は無知な女が、「貴公」を名前と思ひこんでいるという意（だから恥かしい）と思つてゐた。他の三句も、これで何となくつじつまは合いそうな氣はするが、全く自信はない。

清 最近の輪講で「貴公を」表徳と思つて、と書いた記憶があるが、その時は諸兄の賛同を得られなかった。小栗氏の名前説と根拠は同じである。しかし、どの輪講だったか思ひ出せない。

令和3年度 路郎賞



尼崎市

山^{やま}田^だ耕^{こう}治^じ

学校の桜見るため遠回り

紳士服売場で亡妻の声がした

本日もよろしく机兼お膳

象の鎖見たくないもの見てしまふ

ライトアップ九時には眠りたい桜

「耕治さん、路郎賞ですよ」

木本朱夏編集長からお電話をいただきました。

驚くばかりでした。

早速、天国の橋高薫風先生にご報告いたしました。いつ私の句が読まれるか、教室の隅で体を固くして待っていたあの夢中の日々に、いま引き戻されています。

ただただ感謝です。

皆様有り難うございました。

柳 歴

平成十三年 NHK大阪文化センター

川柳教室（講師橋高薫風）

尼崎尾浜川柳会入会

川柳塔社 同人

平成十四年 愛染帖賞受賞

令和二年

路郎賞準優秀作第一席

今治市 永^{なが}井^い松^{しょう}柏^{はく}

ワクチンを整然と待つ蟻の列
一病という爆弾を抱いている

物申したいこともある草である

フレイルにあらがう古稀の万歩計

追いついてみたら百寿の鬼だった

路郎賞準優秀作第二席

鳥取市 倉^{くら}益^{ます}一^{いち}瑤^{よう}

愛されてる錯覚もよしおぼろ月

ひと色が足りぬ私の風景画

未完の窓いくつも描いて暮れてゆく

芸術にふれて時々目を洗う

いい言葉耳のうしろに溜めておく

路郎賞準優秀作第二席

岡山県 田^た中^{なか}恵^{けい}

珍しく夫が寝るから迷う

また明日なんてやさしい助け舟

かくれんぼ一人で出来ぬ影法師

目に青葉安定剤になる命

シャボン玉ふわり幼い風になる

令和3年度 川柳塔賞

川柳塔賞準優秀作第一席

青森県 月波与生
つき なみ よ じよう

シャッフルします正論だけのオセロ
謝りすぎぬよう土産ふたつ持つ
わきまえて雨ニモマケズ生きてきた
退職日何処へゴールをしたのだろう
転ばないように神籤を持ち帰る

川柳塔賞準優秀作第二席

安来市 原徳利
はら とく り

共白髪おぼろ豆腐になりました
汝愛せよ世界にひとつだけの貌
にこにことハ行で春がやってくる
たつぷりの愛を零さぬ猪口ふたつ
玉砂利を踏む音邪鬼をつぶす音



八幡市

武田悦寛
たけだ よしひろ

几帳面だけで越せない峠道
青空に忘れ物した雲ひとつ
ほめられも叱られもせず老いてゆく
傘立てに寄り添い合って杖2本
ワンランク下げて呼吸が楽になる

突然の授賞の報に接し信じ難く驚いております。

約6年前に軽い気持ちで始めた川柳の奥深さに勉強不足を痛感しております。

これからも気負わず自分流で楽しんで続けていこうと思います。

今後ともご指導よろしくお願い致します。本当に有り難うございました。

柳歴

平成二十八年 松寿川柳部 入部
令和元年 川柳塔社 誌友

令和2年度 路郎賞得点表

(応募総数120名)

1位 = 5点 2位 = 4点 3位 = 3点 4位 = 2点 5位 = 1点

(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸	5	3			2						4		1		
新家 完司		2		1	3				5		4				
稲見 則彦	5			4		1		3							2
川本真理子	5	1		4					3					2	
江島谷勝弘				2				3				5		1	4
鈴木いさお	1							5		4	3			2	
谷 口 義	5	3	4							1		2			
平井美智子	3					4		5	2			1			
大久保眞澄	3								4		2	5	1		
藤井 宏造	3				5	4		1				2			
鴨田 昭紀		3			4	1	2							5	
斉尾くにこ	3						4	2	5						1
永見 心咲			1		5				2					3	4
計	③③	12	5	11	①⑨	10	6	①⑨	②①	5	13	15	2	13	11
	山田耕治	高杉力	栃尾奏子	池田純子	倉益一瑤	田賀八千代	笹重耕三	田中恵	永井松柏	鴨谷瑠美子	太田扶美代	栗田忠士	宇賀史郎	伊達郁夫	藤田武人

令和2年度 川柳塔賞得点 (応募総数57名)

1位 = 5点 2位 = 4点 3位 = 3点 4位 = 2点 5位 = 1点
(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸				5		4	3				2	1			
新家 完司				2	3		1	5		4					
稲見 則彦	1				5						4		2	3	
川本真理子	2			1	5			3		4					
江島谷勝弘						2						1	3	4	5
鈴木いさお					2	1	4		3	5					
谷口 義			3				1	4	2			5			
平井美智子					5			2	4			1			3
大久保眞澄		1			2			4				5	3		
藤井 宏造	4				3					5			1		2
鴨田 昭紀	1				3		5		2			4			
斉尾くにこ	3						4				1	5	2		
永見 心咲	4			2			3	5				1			
計	15	1	3	10	28	7	21	23	11	18	7	23	11	7	10
	北山 まみどり	花岡 順子	相見 柳歩	山野 双葉	武田 悦寛		中前 幸子	原 徳利	北原 昭枝	小畑 定弘	稲角 優子	月並 与生	齋藤 奈津子	みぎわ はな	常國 喜好

令和3年度 愛染帖賞

受賞作品

大阪市 江島谷 勝弘



江島谷勝弘

大好きなアンパン買いに行く散歩
マイカーが電柱擦る喜寿の腕
どうすればいいの竜巻注意報
文春さん不倫なんかは放つとけよ
気になるな柩に釘はもう古い
評 江島谷勝弘：日常の心の起伏「アンパン買いに」「電柱擦る」「どうすればいい」を正直に述べて心地よい。また、「放つとけよ」「気になるな」の話し言葉も成功している。
川本真理子：小さな傘を見る目、家族を見つめる目が優しく伝わってくる。「冬を引きずる」の表現も秀逸。
伊藤良一：進化するハードに追いつかぬソフトを突いた「番組低俗化」。そして、「母の職業病」共に共感！
山下純子：「犬の血筋」「ホストクラブ」のユーモア！
自画像の「写真と夢」の対比も見事。

(新家完司・記)

準賞作品

東京都 川本 真理子

小さな子小さい傘でしのぐ雨
書き出してみよう家族の良いところ
衣替え冬を引きずる下半身

福井市 伊藤 良一

高画質映る番組低俗化
心配は母の職業病と知る
老いの型見つけ磨いていく余生

香芝市 山下 純子

家族では犬が一番いい血筋
ホストクラブ一度は行つてみたかった
自画像は写真でなくて夢を描く

柳 歴

平成 十八年 川柳大阪入会
平成 十九年 川柳塔・誌友
平成 二十年 川柳塔・同人
平成二十一年 毎日カルチャー入会

(講師 木本朱夏)

令和3年度 檸檬賞

受賞作品

桜井市 安^あ土^{づち}理^り恵^え

ブローケンハート何針縫ったことだろう

評 生活の中で沢山の人の関わりを持ちながら、日々過ごしている。そこには色々な軋轢があり、人の心を傷付けたり傷付けられたりする。心の傷を治すのは、時間経過で忘れる自然治癒だけと、思っていました。ただそれだけではないようです。深く傷ついた傷口を外科手術のように、傷口を縫い合わせて短期間に傷を治す。現代人的な立ち直りの速いタフで、明るくさっぱりしたさっくばらんな方のように憧れる。

(石橋 芳山)

評 受賞の皆様おめでとうございます。

理恵さんの句はよく詠まれている句ですが、言葉の新鮮さ、訴える力、リズム感に共選の二人が文句なく頂いた句でした。準賞の奏子さんの句は内容の深さ、言葉の持つ力に感動しました。準賞、候補の作品も年間5千句の中から選ばれ輝かれた句でした。

併せて檸檬抄へご投句戴いた皆様ありがとうございます
(古今堂蕉子)



安土 理恵

思いがけない受賞に戸惑いと嬉しさが半分半分。賞と名のつくものには、もう縁のないことと決めていますので感慨もひとしおです。お二人の選者様には心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。これで家人を泣かせている。川柳と今暫く別れられなくなりました。

準賞作品

鳥取県 斉^{さい}尾^おくにこ

ウイルスも私も変異して生きる

枚方市 枳^ち尾^お奏^{かな}子^こ

この声が君の翼になるように

候補作品

西宮市 緒^お方^が美^み津^つ子^こ

滔滔と流れたわけでない夫婦

青森県 月^{つき}波^{なみ}与^よ生^{じょう}

三月十一日再生ボタン押す

柳歴

平成 六年 新聞投句
平成十二年 川柳塔なら入会
平成十三年 川柳塔 誌友
平成十五年 川柳塔 同人

受賞作品

豊中市 水野のこく 黒兎と

魂を入れて粘土が人になる

評 本賞の黒兎さんの句、心を込め制作された素晴らしい粘土作品が目につかびます。とりわけ「人になる」と言い切っておられる表現に迫力を感じます。

準賞、のぶよしさんの句、笑顔の大切さをやさしく主張しておられます。準賞の照代さんの句、どなたとの議論でしょうか、「渋茶飲む」が巧みです。

(初代 正彦)

評 本賞の黒兎さんの句、魂を入れて完成させたモノが、人になるという形作りが「かたち」にすんなりと響き、本年度の受賞にふさわしい作品と思います。

準賞ののぶよしさんの句、なんともほんわか、ゆったりとした作品で、笑顔一つが効いています。準賞の照代さんの句、反論も一度は胸の内におさめ、ぐっと渋茶を飲む行為に気持がよく表れています。

(久保田 千代)



水野 黒兎

晴天霹靂

びつくり仰天してしまい
年甲斐もなく飛び跳ねた

欣喜雀躍

白髪頭を低く下げ

平身低頭

みなさまだうもありがとう

感謝多謝

今後も修行怠らず

不惜身命

努力しますねよろしくね

磨斧作針 今後ともご指導よろしくお願い致します。

準賞作品

ふつくらな笑顔一つがあればいい

反論の言葉を胸に渋茶飲む

伊藤のぶよし

藤澤 照代

候補作品

辛酸をなめて円やか人間味

生き方の幅を広げた負けの数

土屋起世子

吉村久仁雄

柳 歴

平成十二年 ほたる川柳同好会
平成十五年 川柳塔 同人

令和3年度 各地柳壇賞

受賞作品

大阪市 榎本舞夢

手を洗ういとしいものを抱くために

評 大切なものに触れようとする、切ない純粋な感情が、上5によって痛いほど伝わる。作者にとつてその大切なものとは、想像させるところに感動がある。準賞、フレッシュだったころの自分を取り戻したい。レタスの新鮮なイメージが重なり感性として良く効いている。次に、ネットを開くとい、あれもこれもと関連して引き摺られ目的から外れることがよくある。誰しも経験することだが、そこにスポットを当てた川柳眼による、主知的作品。(藤村 亜成)

評 受賞句 守らねばならぬ者を守る優しさと強さ、時代に即した心情を余すところなく表現されました。

準賞1 レタスを剥ぐ動作に自身の古い殻を脱ぐ気持ちを重ねて秀逸。準賞2 インターネットの画面に向かうと思わぬ新発見があり、時を費やす現状を巧みに詠まれました。(山本希久子)



榎本 舞夢

藤村亜成様、山本希久子様選で私が各地柳壇賞にえらばれましたよと聞きびっくり致しました。もう死んでもいいと思いました。うれしさがこみあげて参りました。ふり返れば高杉鬼遊先生・川柳塔さかい・翠洋会・川柳塔すみよし…各教室でお世話になってまいりました。コロナ禍の中、川柳にどれほど救われましたことか、この賞を励みに残り少ない人生を楽しみたいと思います。川柳の皆様どうかよろしくお導きくださいませ。

柳 歴
平成 十年 川柳塔 誌友
平成 十三年 川柳塔 同人

準賞作品

レタス剥ぐ若い自分が見えるまで
インターネットつい道草をしてしまう
石田ひろ子
上田 和宏

候補作品

家族みな違う寒さを持ち帰る
長生きは幸せだろか苦だろか
一言で愛の牙城が崩れ行く
おおあめはおにがそらからふらせませす
山口弘委智
藤岡 里こ
稲見 則彦
新潟ひろむ

(六歳)

受賞者の皆さまおめでとう

小島 蘭 幸

令和三年度の六賞を受賞される皆さまおめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

さて今年も8月12日に、川柳塔事務所で第一次選考を開催する予定でしたが、コロナウィルス感染拡大を考慮して選考委員それぞれ順次自宅で選考することとしました。佳句のチェックの多い順に私が最終の十五名を選んで第二次選考の皆さまにお願いしました。

路郎賞の山田耕治さんは、令和二年度に愛染帖賞に続いての受賞です。準賞の松柏、一瑤、恵さんの活躍も顕著です。

川柳塔賞の武田悦寛さんは毎月佳句を発表されている好作家です。準賞の与生、徳利さんと共に次は、路郎賞を目指していただきました。

愛染帖賞の江島谷勝彦さん、檸檬賞の安土理恵さん、路賞の水野黒兎さん、各地柳壇賞の榎本舞夢さんおめでとうございます。ますますのご健闘ご活躍をお祈り申し上げます。

今回の六賞は、ベテラン作家の活躍が顕著でしたが、路郎賞、川柳塔賞の応募に柳歴は不要です。躊躇せずに一歩を!!

路郎賞、川柳塔賞の応募は、一年間の自分の作品を深く見つめるチャンスです。あなたのご応募をお待ちしています。

二賞選考経緯

木本 朱夏

収まらぬコロナ感染症拡大のため、本年の二賞選考会は、一堂に会することなく第一次選考委員に順次郵送で回覧・選考。最終15名を主幹が決定した作品をコピー、第二次選考委員13名に郵送。選考結果を集計して受賞者が決定しました。

受賞者の皆さま、おめでとうございます。本来ならば川柳塔まつりでの表彰式が、昨年に引き続いて開催されないことを残念に思います。

路郎賞受賞の山田耕治さんは、昨年の愛染帖賞に続いての受賞です。応募の5句のまとめ方に工夫があり、見事に選考委員の心に訴えたものと思われまします。

川柳塔賞の武田悦寛さんは川柳を始めてまだ間もありませんが、初々しさが心に響き好感が持てました。

惜しくも受賞を逃された方々には、来年という希望があります。希望の木を大きく育てる日でもありますように。

応募されなかった方々へ。路郎賞・川柳塔賞は一年の我が作品と向き合う好機でもあります。次回はぜひともご応募くださいますようにお勧めいたします。

二賞候補者居住地

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
路郎賞	尼崎市	大阪市	枚方市	豊中市	鳥取市	鳥取市	三原市	岡山県	今治市	藤井寺市	藤井寺市	松山市	奈良市	寝屋川市	枚方市
川柳塔賞	黒石市	大洲市	松江市	交野市	八幡市	東大阪市	山口市	安来市	和歌山市	阿南市	三田市	青森県	豊中市	神戸市	広島市



追悼 遠山唯教さんに捧ぐ

とおやまただのり

また逢う日まで

澤井敏治

令和三年八月五日、八十八歳で逝去。奥様からの電話では、七月の半ば本人からの指示で入院、肺炎だったとの由。コロナ禍の時世にあつて、ご家族の励ましを受けながら、最期を過ごされた伺い、ほつと安らぎを感じた。

唯教さん、川柳塔の八月号の一路集「声」で天位だったんですよ。

聞こえますか。

泣き声のかゆいところに母の愛

昭和八年八月十一日生まれ、久留米大学卒業後、NHK九州支局勤務。田川市役所記者クラブ勤務で秘書課の一美さんと出会い結婚。二男に恵まれました。いわゆる事件記者の業務は厳しく、幸福相互銀行に転職。

コロナ禍の誌上句会では毎月電話で話し合ってきただけに、突然の訃報に驚くばかりである。コロナまではテニスを続

けておられ、お互いに肝臓のことについては語り合いましたが、よもや肺炎とは残念でならない。

川柳塔さかい（当時は堺川柳会）に入会されたのは、平成二十年。川柳塔社の誌友を経て、同人になられたのが平成二十二年九月。その年の川柳塔千号祭では、六賞の一つの「川柳塔賞」の準優秀作で表彰の榮に浴された。

花吹雪気になり天気予報みる

微笑みが介護の疲れ吹き飛ばす

決着をつける啖阿はよく切れる

一寸の虫が孤独を抱いている

ひと目惚れしてから重い荷を背負う

とにかく何にでも早い。句会出席も会場には一番乗り、誌上句会になっても投句は一番。席題のくじを引くのも固定担当者のようで、ご遠慮願ったこともあった。また、お酒には目のない方という印象が残っているが、風格のある飲み方、笑顔が絶えることなく、宴会では「締め役」を担当。大阪締めであった。

膨大な入選句の中から、年初の「同人・私の一句」を中心に選んだ。

名月が自信に満ちて冴えている

丸くなる妻にやさしくしてやろう

ピンチには隣にいつも君がいた

七歳の子の忠告が胸を刺す

ローン終え住みつく家があつたかい

我が家では仲のいいのが宝物

どん底で励ます友を信じ込む

ご長男から、病室で最後に詠まれた句の連絡を受けた。誕生日の八月十一日を意識された句から始まって、一句ごとに心境の変化が感じられる。

あと十日 がんばれば 来る米寿

点滴が俺の最後を見届ける

皆にも会えるぞ一寸行く浄土

サミエル・ウルマン作（作山宗久訳）の

「なぜ涙を？」の一節を引用し、

慈照院釋唯心殿の御前に捧げます。

別れの涙があふれたら、

私を惜しむことなく、

共に過ごした日々を喜んで欲しい。

そして、こう言って欲しい、

「満ち潮だ。よい船出を」と。

愛染帖

新家 完司 選

(投句272名)

ペイペイって一文無しのことですか

三田市 大西 重男

(評) そのようだったけど、一文無しでも買
い物が出来るのは今のペイペイの方が上か。
もちろん、残高がペイペイでは困るが……

まあいいかちよつと濃い目に出た麦茶

大阪市 森 廣子

(評) 内戦や貧困問題、そしてコロナ禍等々、
世界中に難問が山積している現在、麦茶が濃
い目に出たぐらいは、まあいいでしょうか。

免許証全自動でも要るのかな

堺市 奥 時雄

(評) 目的の地をインプットすると寝ていても
運んでくれる全自動。近い将来「免許不要」「交
通事故ゼロ」になること間違いないし。

もう誰も見ないアルバム二十冊

富田林市 片岡智恵子

(評) 卒業アルバムだけでも数冊。懐かし
く頁を捲るのは自分だけで、子供達でさえ見よ
うともしない。遺すと迷惑をかけるだろう。

神様と悪魔の太い相関図

和歌山市 まつもととこ

(評) 「天網恢恢疎にして漏らさず」の天は
神。漏らさず捕らえた悪党どもを懲らしめる
のは悪魔の役目。人智の及ばぬ壮大な相関図。

カアカアと今日も上手に囁くカラス

鳥取市 山野すみれ

(評) 賢いカラスは40種以上の囁き声で仲間
と会話しているとのこと。カアカアと澄んだ
声はご機嫌だが「ガアツ」は怖ろしい。

入れ墨は日本が上と知る五輪

宝塚市 岸田 万彩

(評) 今回の五輪で気になったのはタツ
トゥー。はやけた線や訳の解らない絵。健さ
んの「唐獅子牡丹」を見せてやりたいものだ。

吹き出しの中の「……」気分

東京都 川本真理子

(評) 漫画の登場人物の想いを書き出して
いる「吹き出し」。それが「……」というの
言葉にはならない複雑な想いが放心か？

薬は七種酒は三種で忙しい

香南市 桑名 孝雄

(評) 薬は血圧、血糖、高脂血、骨粗鬆、喘息、
腎不全、消化不良等々。お酒はビール、清酒、
焼酎。喉チンコも呆れ返っている。

ガラガラボン金の玉出てバス旅行

江南市 脇田 雅美

(評) 大売り出しのガラガラボンで珍しく

も、「大当たり」のバス旅行。日頃の精進
が良かったのだろう。神さまからのご褒美だ。

三枚のTシャツだけで夏終わる

大阪市 島田 明美

くびれのある空き瓶は美しい

弘前市 高瀬 霜石

猫派大派そして私は人間派

和歌山市 古久保和子

いちぬけた事の行方が気にかかり

青森県 月波 与生

アイドルの区別がつかぬ老いの脳

八王子市 川名 洋子

愚痴が出る本音も混ざるのでこわい

美作市 岡本 余光

だんだんと高野豆腐になる手足

大阪市 平井美智子

遺影にと撮った写真の硬い笑み

堺市 坂上 淳司

音読と計算ドリル日課です

倉吉市 岡崎美知江

強心剤打たねば何も言えぬ僕

唐津市 山口 高明

採血の濁り我が身のおぞましき

板井市 安土 理恵

食通を気取りぐうたらな体型

松江市 石橋 芳山

あがいても去年の服は入らない

三田市 上田ひとみ

一日一笑シニアパワーの健康法
横浜市 川島 良子

苦髪楽爪仲良く伸びる八十路坂
豊中市 藤井 則彦

八十五歳の師は大学で学ぶ日々
岩国市 上村 夢香

ちよいワルで楽しく暮らすのが理想
高槻市 片山かずお

一步一步今は足踏みしています
貝塚市 吉道あかね

タクシーで戻ったらしいシンデレラ
尼崎市 山田 耕治

ベアルックお似合いですと言っておく
橿原市 居谷真理子

美しくお辞儀のできたことがない
府中市 岸田 武

溜飲を下けたらあとが危ないぞ
佐賀県 真島久美子

長寿とは友減ることよもう秋だ
恩図だから象より速く走れない
松江市 梅瀬みちを

ベンギンになりそこなった修行僧
粗大ゴミ嘆く君のせいじゃない
神戸市 城戸 誓子

自販機が乾いた声で礼を言う
新涼にどこまでだって歩けそう
未知の路地行けばワクワク止まらない

タラレバの回顧ばかりで本書ける
奈良県 安福 和夫

老いるとはこんなものかよ葱坊主
岡山県 田中 恵

イトトンボで来た妻今や鬼ヤンマ
河内長野市 藤塚 克三

欲張ると逃げていきます幸せは
黒石市 北山まみどり

嫌なものの葬儀CM死亡記事
堺市 村上 玄也

東京にも甲子園にも行かず秋
大洲市 花岡 順子

運がいいだからコロナも大丈夫
鳥取市 田賀八千代

雨女言われて雨が好きになる
十歳若く見られマスクが外せない
大阪市 江島谷勝弘

一曲目吉幾三の「酒よ」から
ステイホームずっと気まずく暮らしてる
奈良市 大久保眞澄

すみませんゲラ刷りのまま老いました
内覧会してみませんか閻魔さん
三田市 堀 正和

捨てられぬハワイ土産のアロハシャツ
大吟醸一本空けて仲直り
大阪市 谷口 義

天高く今日はおばあさん日和なり
オープンカーに颯爽と乗りたかった

演歌好き元を辿れば「かえり船」
鳥取市 岸本 宏章

新曲をマスターしても出番なし
鳥取市 岸本 孝子

吸い殻はため息の数思い知る
枚方市 山口弘委智

文字までが浮き浮きしてる旅便り
岸和田市 雪本 珠子

封筒の裏に用件ぎっしりと
大阪市 岩崎 公誠

痛み痒み注意報ですやまいだれ
海南市 小谷 小雪

ストレッチどこもかしこも硬くなる
土佐清水市 辻内 次根

切り口がとてもシャープな理系女子
松山市 柳田かおる

ダンゴムシ掴んだ孫のしたり顔
高槻市 初代 正彦

助手席に座ると指図ばかりの娘
岡山県 藤澤 照代

放棄された田圃にも来るオニヤンマ
松江市 中筋 弘充

物が消えたのか記憶が消えたのか
鳥取県 斉尾くにこ

出来るなら髭と髪の毛コンバート
河内長野市 梶原 弘光

風よけが突然風に飛ばされる
河内長野市 大島ともこ

鳥取県 本庄ひろし
病越え果敢に挑むアスリート

神戸市 敏森 廣光

バラ五輪頑張る人は美しい

鳥取市 永原 昌鼓

障害もコロナも越えたすごいバラ

京都市 清水 英旺

五輪よりずっと感動パラリンピック

三田市 福田 好文

オリンピック世界の美女のヘソ浮かぶ

吹田市 西沢 司郎

甘く見てするりと抜けた金メダル

西宮市 高橋千賀子

オリパラが無事に終わって秋立ちぬ

富田林市 山野 寿之

若者がみんな溺れていくスマホ

大阪市 高杉 千歩

スマホ駆使大正生まれ負けん気で

箕面市 広島 巴子

スマホデビュー遊び遊ばれ疲れ目に

長岡京市 山田 葉子

スマホに訊けば何でも答すぐくれる

大阪市 小野 雅美

一日ぐらいスマホと距離を置いてみる

奈良県 室田 行久

スマホするしないで出来る新格差

南あわじ市 萩原 狸月

アナログは淀みに残す世の流れ

岡山県 丹下 凱夫
百均で安い句材を探している

明石市 瀬島流れ星

肩籠へ没句集団自決する

唐津市 坂本 蜂朗

カタカナ語入れる容器が毀れてる

大阪市 内田志津子

公園のトランベッターちよつとずれ

松山市 大内せつ子

やさしくなるね無添加のわらべ唄

鳥取県 竹信 照彦

耕運機押しても歩数増えもせず

岩出市 村中 悦男

文章に味付けをした句読点

津山市 高橋由紀女

メモ帳の本音直して迷い出す

河内長野市 中島 一彌

鳥の目と虫の目で解く一軒家

鳥取県 山下 節子

かまう人ないからベツト飼っている

広島市 岸本 清

一匹の小バエ叩くも空を切る

大阪市 津守 柳伸

欲のない生活のんびり自画自賛

豊中市 水野 黒兎

美人女優に妻は辛口評論家

鳥取市 谷口回春子

身軽です今は無役の居候

河内長野市 黒岩 靖博
ロケットに使う塗料で屋根と壁

鳥取県 門村 幸子

コイルタール塗られて元氣トタン屋根

名古屋市長古屋市 富田 末男

儚さを生命線が知っている

弘前市 稲見 則彦

結局は後期高齢者が二人

枚方市 藤田 武人

結婚のレシビはずっと四人前

丹波篠山市 酒井 健二

軽口で別居と言ってえらい目に

岡山市 大石 洋子

ハウツーで謝罪の仕方教える

大阪市 折田あきこ

組みあつた腕が離れた老夫婦

池田市 太田 省三

ご先祖のメモが突然文化財

岡山市 永見 心咲

スカイツリー富士を見れば認めます

宇都市 平田 実男

好きだよとメールを打って驚かす

鳥取市 前田 楓花

美しいほど哀しみ湧いてくる金魚

堺市 内藤 憲彦

茄子きゅうり無言で買えるセルフレジ

大阪府 大浦 福子

ご破算を願いたい事たんと有る

大阪市 岡田 恵子
納豆を掻き混ぜるのは夫の役

広島市 松尾 信彦
ビンの蓋開けて一人居許される

鳥取市 奥田 由美
誕生日にケーキ不要と決める古稀

尼崎市 永田 紀恵
喜寿過ぎて女子会という面映ゆさ

神戸市 興水 弘
卒寿便り筆のおおらかそのままに

福井市 伊藤 良一
孤独より孤立が怖い老年期

広島市 羽城 裕子
背伸びした分だけ空が近くなる

豊中市 上出 修
ふるさとに税金納め蟹ゲット

藤井寺市 太田扶美代
ひと通りの恥は体験済みである

唐津市 前田 廣幸
タラレバで今も継がれる真珠湾

防府市 坂本 加代
さかだちをしてもかなわぬ大自然

鳥取市 副井ゆたか
ご無沙汰を詫びた直後も無沙汰する

河内長野市 木見谷孝代
思い出に妨げられる遺品処理

熊本市 杉野 羅天
夕すげが一人ボツンと一軒家

三原市 鴨田 昭紀
ダラダラとダラダラとコロナ策

鳥取市 大前 安子
コロナ禍へ太鼓の音が揃わない

横浜市 菊地 政勝
コロナ禍の規制そろそろ飽きぐる

東大阪市 北村 賢子
今日は外出マスク二重に身構える

神戸市 能勢 利子
初対面はマスク外してご挨拶

神戸市 近藤 勝正
肘当てでもいいが美女とはハグがいい

箕面市 出口セツ子
外食も旅も脳まで自粛する

倉吉市 大羽 雄大
自粛中酒の元気が見せられぬ

貝塚市 石田ひろ子
お香焚くしばし自粛を華にする

堺市 今井万紗子
収束がくれば闊歩したいな紅さして

奈良市 山本 昌代
会いたいネ食事したいネ口癖に

和歌山市 松原 寿子
逢える日の場面描いて待ちわびる

高槻市 原 洋志
デルタラムダ流行るギリシャ語みな不快

河内長野市 森田 旅人
オメガまでいくと覚悟の予定表

三田市 北野 哲男
弱音吐く相手が欲しい独り酒

大阪市 若本 安代
燗酒が美味しい秋よ人恋し

大阪市 奥村 五月
社の帰り友と飲めない自宅勤

羽曳野市 宇都宮ちづる
喜寿祝い薔薇を頼もか頼祭か

札幌市 三浦 強一
物忘れ晩酌だけは忘れない

和歌山市 北原 昭枝
胸の奥ゆらゆら揺らす赤ワイン

奈良市 尾畑なを江
酒の味過去を忘れて明日を見る

豊中市 松田蟻日路
友の背が俺を呼んでる縄暖簾

大阪市 高杉 力
類は友呼んで酒好き多いこと

高槻市 松岡 篤
もう一人の僕が飲んじやえ飲んじやえと

米子市 竹村紀の治
飲み食いが絶好調で心配だ

羽曳野市 吉村久仁雄
ぎりぎりの我慢のあとで飲むビール

大阪市 阪井 恵子
本当はあかんねんど飲むビール

富士見市 中島 通則
爪の垢ほど税を納めて飲むビール

共選欄

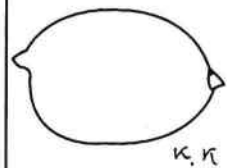
檸

檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句351名)



「構える」 棄原道夫選

豪雨予報蛙の蛙も身構える
どつしりと構える金も無いくせに
一本の立像どこにも隙がない
妙に親しい客に愛犬身構える
神妙に構えて会々とコンニチワ
少しでも若く写れと身構える
構えずに素直に生きる母でした
真ん中にデンと構えるダンゴ鼻
正面にでんと構える仁王門
正座して話があると切り出され
サアコイと構えるじいじ孫の守り
叱られるそんな顔した子を叱る
標的の背後に照準置く構え
構えても敵は見えずに変異する
速報が出ると緊張するわたし

豊中市	上出	修
米子市	竹村紀の治	
奈良県	中原比呂志	
大阪市	森	廣子
香芝市	山下	純子
大阪市	横山	里子
山口市	兼崎	徳子
明石市	穂谷	和郎
藤井寺市	鈴木いさお	
尼崎市	宗	和夫
桜井市	安土	理恵
大阪市	宇都満知子	
枚方市	藤村	亜成
札幌市	小沢	淳
広島市	有田	澄子

「構える」 久保田千代選

一本の立像どこにも隙がない
斜に構え一癖持っている古参
ちよつと斜に構えてカッコつけてみる
斜に構え寂しくないと言っておく
落つこちるところに父が居る不思議
構えは万全中身は隙だらけ
お世辞抜きという称讃に身構える
いつもと違う瞬きが多すぎる
身の丈に合った構えの金魚鉢
身構える南海トラフ富士噴火
お迎えの準備は疾うにできてます
それぞれの心構えで着る喪服
老いたのだなるべく事は構えない
ヘルパーが来てくれる日は掃除する
痩せ蛙じつと構えて風を待つ

奈良県	中原比呂志
尼崎市	清水久美子
奈良市	大久保眞澄
大阪市	小野
枚方市	栃尾
熊本市	杉野
堺市	柿花
長岡京市	山田
東京都	川本真理子
安来市	原
塩竈市	木田比呂朗
唐津市	仁部
堺市	奥
大山市	金子美千代
福山市	新庄
	芳春

身構えるのは止めてうどんを食べにいく	大阪市	大沢のり子
ウォーキング夜道身構え肩こった	芦屋市	荒牧 孝子
斜に構え相手の出方見極める	東大阪市	佐々木満作
斜に構えアウトロー振るうちの猫	和歌山市	西川 千鶴
検査結果身構える医師目をそらす	八幡市	武田 悦寛
いいんです君の前ではNOガード	大阪府	大浦 福子
ハンサムは苦手見慣れていないから	神戸市	富永 恭子
上段に構え生き下手遊び下手	大阪市	平井美智子
女房が後ろに構えていて強気	堺市	村上 玄也
それぞれに構えて着る喪服	唐津市	仁部 四郎
休耕に耐えた案山子の面構え	堺市	柿花 和夫
どんな人住むの素敵な門構え	東大阪市	北村 賢子
門構えに釣られて入る旅の昼	奈良市	高橋 敬子
子が二十歳の構えができてくる	海南市	小谷 小雪
天敵が構える前に転けていた	大阪市	川端 一步
身構える横に座った顎マスク	富士見市	中島 通則
身構えてのつべらぼうの世辞をきく	松山市	柳田かおる
ファイティングポーズだけならまだ出来る	神戸市	山崎 武彦
ファイティングポーズは捨てて梅茶漬け	大阪市	高杉 力
斜に構え有無を言わさぬ能弁家	富田林市	山野 寿之
瘦せ我慢しましょう笑い合う日まで	弘前市	高瀬 霜石
身構えて過去知る友とお茶をする	三田市	幸田 厚子

ゆつくりと愛を構築する夫婦	笠岡市	藤井 智史
目を瞑りキス待つ君のいじらしさ	川西市	大坪 一徳
一家言構えて秋の橋渡る	三木市	山口ヨシエ
あるがまま私はいつも自然体	松山市	栗田 忠士
構えずに生きると楽な自然体	香芝市	大内 朝子
どつしりと構えておれば風も止む	堺市	今井万紗子
12時と7時と9時のニュース見る	弘前市	高瀬 霜石
斜に構え揚げ足ばかり取る野党	河内長野市	中島 一彌
斜に構え有無を言わさぬ能弁家	富田林市	山野 寿之
サイレンの音に構えてしまう癖	黒石市	北山まみどり
明日は明日あつからかに病逃げ	神戸市	富永 恭子
構えても想定外の自然力	橋本市	石田 隆彦
静寂の踞蹠ハジメの声響く	枚方市	藤田 武人
どんと来い新横綱のいい構え	大阪市	川端 一步
張り手などせず大鵬強かった	豊中市	水野 黒兎
いい捕手だ大きく構え投げやすい	高槻市	片山かずお
石段に膝が構える寺参り	芦屋市	竹山千賀子
叱られるそんな顔した子を叱る	大阪市	宇都満知子
雨上り待ち構えてる赤い靴	三田市	北野 哲男
サアコイと構えるじいじ孫の守り	桜井市	安土 理恵
手を腰に押し当てクシヤミ二秒前	大阪市	島田 明美
急冷凍構えたままの松葉ガニ	松江市	中筋 弘充

三歳児の何でに私身構える

おしゃべりなインコが帰り待ち構え

悔いなどはない野良猫の面構え

鈴虫の声と似つかぬ面構え

ボクサーの構えで蟻螂つんのめり

カメラ付きのチャイムに笑顔ハハサル

ひと様の門構えお借りしてパチリ

宣告を受けるコメント決めてる

構えてることがネックになっている

夫婦喧嘩構えてするものでない

構えれば何も見えないピカソ展

格好の悪い構えで君守る

大器晩成と思っていた誤算

身の構え全てに歳が出てしまう

身に覚えあつて年寄り身構える

「お構いなく」いじいじしてる私です

性格上構えはいつもやや斜め

監視カメラ見るとついつい身構える

隙のない薄ら笑いに身構える

真相に触れそうになり身構える

劣等感呼ばれただけで身構える

会わせたい人と言われ身構える

大阪市

磯島福貴子

大阪市

津守 柳伸

門真市

坂本 星雨

生駒市

饗庭 風鈴

大阪府

高木 道子

和歌山市

古久保和子

奈良市

米田 恭昌

松江市

梅瀬みちを

奈良県

中堀 優

倉吉市

大羽 雄大

佐賀県

真島久美子

松江市

相見 柳歩

宇部市

平田 実男

鳥取市

岸本 宏章

高槻市

富田 保子

大阪市

折田あきこ

豊中市

松田蟻日路

寝屋川市

伊達 郁夫

神戸市

横田 次郎

岡山県

藤澤 照代

羽曳野市

藤原 大子

大阪市

近藤 風羅

意気込んでみてもやつぱりオムライス

懐の具合気になる店構え

腕の蚊にいざ一撃と身構える

もうひと言有ると構えている夫

女房が後ろに構えていて強気

清濁を飲んだ証の面構え

隙のない薄ら笑いに身構える

身構えているから本音言えぬ猪口

穴熊の構えで独り生き延びる

二番手が風の動きに身構える

真相に触れそうになり身構える

腰高の構えに幸運が逃げる

コロナ禍で構えを崩し蟄居する

身構えたワクチン一瞬あつけない

身構えて一步踏み出す自粛明け

ロックダウン昭和の気概お見せする

ピコピコと避難勧告出て一人

眼圧を構えて今日も目をつむり

一目見て負けを覚悟の面構え

正眼の構えで機会待つ雌伏

青眼に構え難題解いていく

気位は高く構えて低い腰

鳥取市

岸本 孝子

神戸市

奥澤洋次郎

河内長野市

村上 直樹

大阪市

原田すみ子

堺市

村上 玄也

尼崎市

藤井 宏造

神戸市

横田 次郎

明石市

瀬島流れ星

青森県

月波 与生

寝屋川市

伊達 郁夫

岡山県

藤澤 照代

三原市

鴨田 昭紀

鳥取市

池澤 大鯨

西宮市

福島 弘子

鳥取市

内田志津子

大阪市

福西 茶子

西宮市

亀岡 哲子

東大阪市

西村 哲夫

可児市

板山まみ子

岐阜県

喜多村正儀

富山市

伴 よしお

富田林市

中村 恵

久々に前の上司に身構える

「猛犬に注意」が似合う門構え

門構え防犯カメラきつとある

内々のことは漏らさぬ門構え

来年も中止か身構える桜

ゆつたりと構えて鶴を呼ぶ

大上段に構えたままで定年日

正眼の構えで攻めてくる老化

なすがまま生きるにはまだ悔しくて

しつかりと食べてどっしり構えてる

身構えたカエルどこだか俺である

力士より面構えよし慕

ハシビロコウの振りをしている小半日

身の丈に合った構えの金魚鉢

いよいよの身構えてきて青い空

斜に構え寂しくないと云っておく

咲ききって身構えるもの何も無く

動物の構えた時の美しさ

秀句

身構えるポーズで竹立てかけてある

上段の構えで進む水の中

身構えた写真の顔は母に似る

枚方市 谷 英也

今治市 永井 松柏

豊橋市 西郷紀美代

榎原市 居谷真理子

青森県 月波 与生

笠岡市 藤井 智史

三田市 福田 好文

奈良市 大久保眞澄

三田市 野口眞桜子

八尾市 村上ミツ子

松江市 石橋 芳山

西宮市 緒方美津子

岡山市 丹下 凱夫

東京都 川本真理子

堺市 内藤 憲彦

大阪市 小野 雅美

松江市 藤井 寿代

八尾市 田邊 浩三

芦屋市 上野多恵子

黒石市 北山まみどり

鳥取市 前田 楓花

身構えるポーズで竹立てかけてある

一軒を構え男の顔になる

決断を秘めた男の面構え

枯れてゆくカマキリなおも鎌を挙げ

いよいよの身構えてきて青い空

正面にでんと構える仁王門

身構えて阿鼻叫喚の土石流

身構えて喰ってしまつた肩透かし

身構えて否か応かと待っている

ピノキオの鼻が構える悪と善

構えれば何も見えないピカソ展

標的の背後に照準置く構え

斜に構え生きた男の傷だらけ

目力があつて構えが様になる

神経がず太い構え方である

媚び売らぬ柿が色づく空の下

身構えて生きる女の過食症

核の傘構えてヒロシマに背く

秀句

芯なら一つ構えなくても構えても

深い慈悲秘めた不動の面構え

蹲居して更に大きくなる構え

芦屋市 上野多恵子

箕面市 出口セツ子

大阪市 岡田 恵子

神戸市 みぎわはな

堺市 内藤 憲彦

藤井寺市 鈴木いさお

伊丹市 延寿庵野鶴

鳥取市 谷口回春子

倉吉市 牧野 芳光

箕面市 酒井 紀華

佐賀県 真島久美子

枚方市 藤村 亜成

奈良県 渡辺 富子

西宮市 緒方美津子

神戸市 青木 公輔

土佐清水市 辻内 次根

大阪市 平井美智子

三原市 笹重 耕三

男鹿市 伊藤のぶよし

奈良市 宇賀 史郎

榎原市 居谷真理子

「パズル」

(投句 242名)

永井松柏選



パズル解く様にマンション灯が点る
1000片に夫婦のドラマ埋めていく
妻の問いパズルのようで刺すようで
石垣がパズルのように組みあがる
人生がやり直し効くパズルなら
ジグソーパズル平和の文字が嵌らない
絡み合う恋の相関図が解けぬ
哲学の道でパズルを解いている
難しいパズルを解いた創業者
難問も所詮答えのあるパズル
ジグソーパズルに二片たりない恋でした
サヨナラのピースが手から離れない
ひと文字が埋れぬままで黄昏れる
リストラが潜むクロスワードパズル
怪事件パズルを解いたカメラアイ
それぞれに居場所があつて千ピース
パズル解く目で考えている離婚
掛けられた笑顔の謎に眠れない
一ピース遺して夫は旅立った
放棄地へ父のパズルが埋めきれぬ

三田市	北野	哲男
寝屋川市	川本	信子
宝塚市	丸山	孔一
三田市	谷口	修平
越谷市	久保田	千代
札幌市	三浦	強一
明石市	糀谷	和郎
富田林市	中村	恵
池田市	太田	省三
奈良県	室田	行久
岡山市	永見	心咲
大阪市	小野	雅美
大阪市	内田	志津子
青森県	月波	与生
橋本市	石田	隆彦
大阪市	島田	明美
岐阜県	喜多村	正義
神戸市	奥澤	洋次郎
河内長野市	木見	谷孝代
三原市	笹重	耕三

詰めの一片探して旅路終らない
ひとますが埋まらぬままに五十年
凸凹の人生パズルみたいです
金婚へパズルがビタリ合いました
一枚のピースは神に握られる
エンマ様が最後のピース持つている
領袖の言葉の裏が読み解けぬ
水面下でゆらゆら総裁の椅子
禅寺に巨石を配置するパズル
宮大工パズルの様に寺を建て
あと5キロ瘦せればジグソーが埋まる
ジグソーパズルゴッホのひまわりが咲いた

佳句

テトリスのように消し去る愛の壁
線一本引いて再出発とする
まるでパズルですわね人体メカニズム
草木染めああ媒染が謎のなぞ
晴れなら畑雨なら数独で遊ぶ

人

四字熟語からはみ出している私

地

人生のパズルは解けず山頭火

天

点描画赤一点の置き所

軸

知恵の輪が解けて大人の恋になる

神戸市	みぎわはな
大阪市	古今堂蕉子
伊丹市	延寿庵野鶴
貝塚市	吉道あかね
松山市	栗田 忠士
貝塚市	吉道あかね
神戸市	近藤 勝正
羽曳野市	徳山みつこ
寝屋川市	廣田 和織
横浜市	菊地 政勝
横浜市	居谷真理子
東大阪市	北村 賢子
笠岡市	藤井 智史
弘前市	高瀬 霜石
西予市	黒田 茂代
大阪市	柴本ばつは
高槻市	片山かずお
佐賀県	真島久美子
横浜市	加藤 佳子
横原市	居谷真理子

「誤 算」

伊 塚 美枝子 選
(投句 240名)



人間の想定越えた防波堤
転び方だんだん下手になる誤算
古希過ぎてコロナに遊び持つてかれ
じいちゃんの松茸山は熊が住む
亀となら勝てるでしようという誤算
5点差を守り切れないリリーフ陣
新財布買った途端のキャッシュレス
虚弱児の嬉しい誤算米寿来る
思うまま生きて誤算の白寿越え
一ミリの誤算に愛が噛み合わぬ
机上の誤算に現場立ち往生
お・も・て・な・し五輪コロナで大誤算
ヨタヨタの父より先にガタが来た
箱入りが地球の裏へ嫁に行き
大誤算美人薄命信じてた
この世には嬉しい誤算きつとある
旨すぎる秋誤算でのびる腹のゴム
原発の事故は想定外だった
ゴミ箱の底へ誤算が降り積もる
宝くじはずれても誤算とは言わぬ

大阪市	内田志津子	大阪市	岸本 宏章
美作市	岡本 余光	河内長野市	長谷川崇明
熊本市	杉野 羅天	島取市	坂野 澄子
大阪市	柴本ばつは	三原市	鴨田 昭紀
松江市	中筋 弘充	広島市	羽城 裕子
河内長野市	梶原 弘光	橋本市	石田 隆彦
奈良県		倉吉市	牧野 芳光
		寝屋川市	長尾 千賀
		三田市	福田 好文
		交野市	山野 双葉
		男鹿市	伊藤のぶよし
		大阪市	平賀 国和
		佐賀県	真島久美子
		鳥取市	池澤 大鯨

俺のこと妻は誤算と言うけれど
順調にいけば今ごろ路郎賞
三人の子の誰一人家継がぬ
四人目もまさかまさかの姫だった
8人も生んで跡取りない誤算
親の敷くレールの先にある誤算
選択の権利彼女も持っていた
大誤算粗食を強いる血糖値
コロナ禍で世間に誤算満ち溢れ
いい人がいい夫とは限らない
自粛して高値更新体脂肪
結婚に誤算だらけの君と僕

佳 句

道半ばもう信号が赤になる
面の皮誤算重ねて厚くなり
誤算とは言わせぬ惚れたのはあなた
口達者手も達者だと思ひ込み
今頃はたのしい余生だったのに
死神の誤算わたしは生きている
唯一の誤算ボクの欠点ばかり似る
玉の興夢みた乙女目刺し焼く
自然界時に誤算の大波乱

軸

天

地

人

宝塚市	丸山 孔一	豊中市	水野 黒兎
和歌山市	柏原 夕胡	富山市	伴 よしお
米子市	池田 美穂	大阪市	古今堂蕉子
藤井寺市	鈴木いさお	高槻市	片山かずお
豊橋市	西郷紀美代	和歌山市	北原 昭枝
伊塚市	吉道あかね	青森県	月波 与生
唐津市	坂本 蜂朗	枚方市	藤村 亜成
広島市	松尾 信彦	大阪市	岡田 恵子
大阪府	樋口 眞		
橿原市	居谷真理子		
鳥取市	福西 茶子		
弘前市	稲見 則彦		

初級教室

題 — 絵 本

高 瀬 霜 石

これを書いてるのが、8月の下旬。

僕の会社でも、ワクチン打ったのは50代、60代。30代、40代は、見通したたず。足りないワクチン。それなのに、テレビでは「ご自分のために、愛するご家族のために、是非ワクチンを打ちましょう」と——打ちたくても打てない人たちの気持ちを逆撫でする——能天気なCMを、連日垂れ流し続けている。

あー、この国は、医療崩壊どころか——国の根本から崩壊しているのではと、思う。

これが活字になる11月には、すでに国民の審判が下っている。結果は？知りたくもあり、知りたくもなし。怖くもあり、楽しくもあり——である。

①まずは、上と下を入れ替えてみる。

(▼は原句。▽は参考句)

▼読み聞かせ母がいざなう睡魔へと 義明

▽睡魔へと母がいざなう読み聞かせ

▽睡魔へといざなう母の読み聞かせ

▽絵品作家に憧れた十五歳

▽十五歳絵本作家に憧れた

▽夏つばめ町並すばこ頭出す

▽果箱から頭出して夏つばめ

▽ちひろ描く子らうちの子に似てるよな

▽うちの子に似てるちひろが描く子ら

②的が絞り切れていない2句を、いいところ取りをして、思い切って1句にまとめてみる。

▼介護の母きれいな挿絵笑み見せる

▼手に絵本空手読みつつ孫の守り

▼手に絵本持つて母さん介護する

▼読み聞かせ絵本から学ぶ幼き子

▼子育ては絵本が育てる参考書

▼母も子もいっしょに絵本から学ぶ

▼読み聞かせ同じところで笑いあり

▼息子から読み続けるぐりとぐら

▽ぐりとぐら同じところで笑いあう

▽ばあちゃんのこころの絵本身にある

▽こども園絵本で習う義理人情

▽絵本から学んだこころ義理人情

▼上皇后様朗読絵本の穏やかさ

▼パパと絵本仕事かわいあい愛子様

千賀子

ミヨノ

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

双葉

登場人物が、なんとも大物？なので、ここはあえて、並列に、

▽上皇后様と絵本と愛子様

▼大好きな絵本何度もママが読む

▼親の声温もり届く絵本読み

これも、あえてリフレイン。

▽大好きな絵本 大好きなママの声

▼虫メガネ無用すいすい読み進む

▼大人もナミダ星の王子様

頭が重くなるけれど、ここは、これで、

▼虫メガネ無用すいすい星の王子様

③もつと適切な表現はないか。あえて大袈裟にしたり、ドラマチックに仕立て変えたり、

抽象的な言葉を具体的な言葉に置き換えたり、

いろいろな挑戦してみる。

▼テーマパーク巨大絵本を楽しむぞ 不二夫

「テーマパーク」と「巨大絵本」の組み合わせはグッドだけど、「楽しむぞ」が弱い。

▼テーマパーク巨大絵本の中にいる

▼孫もまたもつと読んでと子の絵本

▼孫がまた読んでと絵本抱いてくる

▼漫画から歴史学べる本見つけ

僕は最近、古本屋から歴史マンガを大量に

買い込んで(セットで安く売っている)風

開子

開子

呂で読むのをなによりもの楽しみとして
いる。

風呂だから、当然本はブヨブヨになる。で
もいいのだ。1冊、100円くらいのもの
だから、そのまま燃えるゴミに出してオシ
マイ。

▽漫画から学んだこの星の歴史

最初「この国の歴史」にしたのだが、な
にも日本史だけじゃない、世界史も学ぶから
さ。

▽銀河鉄道乗りつききつと会いにゆく 風 鈴
きつと会いにゆく。誰に？と、誰もが思う。
だから、ここは素直に。

▽銀河鉄道乗りつききつと会いにゆく

▽絵本から亡父の妖怪飛び出した 弘

「亡父の妖怪」は、確かに怖いけど、なん
だかピンとこない。「亡父の幽霊」だと、もっ
と怖いけれど、そうなるホラー映画だ。
絵本向きじゃあない。ここは普通に、

▽絵本から鬼や妖怪飛び出した

▽孫成長溜まった絵本メルカリに 通 則

孫成長まで説明しなくとも、ここはメルカ
リだけにギョッと焦点を絞って、

▽メルカリに出そうか出すまいか絵本

▽図書館が大好き夢を拾う孫 風 露

「知の巨人」と呼ばれた立花隆が亡くなっ
た。彼の母校・水戸一高の図書館の貸し出
しノート。一体、誰がこんなの読むのだろ
うという難解な本のどれにも、必ず彼の名
前が書いてあったという。彼は若くして、す
でに万巻の書をひもといっていたのだった。
前置きが長くなった。この句。いい句だけ
れど、「拾う」がどうもねえ。

▽図書館が大好き夢を紡ぐ孫

▽怪獣に姫にもなって読み聞かせ 晋 子
これはこれでOKなのだが、リズムがねえ。
だから、ちよつと順番入れ変えてみまし
う。

▽姫になり怪獣になり読み聞かせ

▽絵本の中ちっちゃい頃の僕が居た のりひろ

▽絵本の中にちっちゃい頃の僕が居た

(○は佳句、◎優秀句)

○絵本読むババの声には愛いっぱい (壺) 良 子

○どんぶらこ聞こえる父のももたらう 智恵子

ママではなく、ババ(父)に乾杯。

○ムーミンの世界に遊ぶ子ども達 ひとみ

○あいうえおよめるよえほんもよめるよ 蟻日路

○奇跡の絵本のフリーズすらすらと のぞみ

○捨てられぬ同じページで泣く絵本 次 郎

○長通院絵本をくれた婦長さん 秀 彦

なんて素敵な婦長さん。

○絵本にも無知蒙昧を論される 行 久

ちよつと大袈裟だけど、自嘲大いに結構。

○善悪を説いて絵本は閉じられる 澄 子

今はそうでもない、のかも。

○瞳キラキラ絵本の中に入る二歳 和 子

○一冊の絵本シェアした昭和の子 令位子

○絵本から飛び出した鳥が運ぶ夢 くみ子

今月の卒業生は、広島市の羽城裕子さん。

どうしても似た句になってしまふ「絵品」

という題に、裕子さんは3句とも、ちゃんと

視点を変えて詠んだのは見事。

○小さな手好きな絵本を抱きしめる 裕 子

○お下がりの絵本ボロボロ三人目 裕 子

○独り言のように絵本を読んでは 裕 子

もひとり、柏原市の神崎江さん。江さん

もひとり。スポットの当て方がとても上手。

◎読み聞かせされた絵本を読み聞かせ 江

○文字以上こころ動かすちひろの絵 江

○絵本開けマリアの声で読み聞かせ 江

川柳塔鑑賞

同人吟 石橋 芳山

— 10月号から

切り取り線を跨いでやつと立っている

栗田 忠士

何の切り取り線なのかだが、会社の人
事査定、税金の課税レベル、定年後の進
むべき道いろいろ考えられて、うーんと
唸ってしまった。それ等に悩まされて生
きていくのだが、しんどいことです。

困ります辞書に出てないカタカナ語

黒田 茂代

そうなのですよ政治家が多用して、私
たちを煙に巻こうとしている。とも思わ
れていましたが、コロナ禍で急激にカタ
カナ語が増えて、理解できずに不安だけ
が大きいのしかかった気がします。

好きなこと言うてますから一人ぼち

江島谷勝弘

自由奔放な生き方、俗にいう我儘なの
でしょうか。だけど自分としては、いま
の生き方に十分満足していることと思いま
すが。できるなら私もそのような自由な
生き方がしてみたいものです。

夫という威厳をダウンロードする

藤井 智史

甘い！夫の威厳、風格などは、貰うも
のではなく、自分自身で創るものでしょ
う。そこから生まれてくるのが、夫婦の
信頼ではないでしょうか。

日が昇る頃には帰る万歩計

関本かつ子

これはいったい何時からの早朝の散歩
なのだ、そしてどのくらいの時間を、散
歩されるのか。毎日の散歩私には真似が
できない。散歩お気をつけて。

オリンピッククチカラが入りあしんど

笠嶋 恵美

スポーツは素晴らしいです。応援して
いる人たちに、力と希望を与えてくれま
す。興奮しましたし感動もしました。応
援は力も入るしお疲れ様でした。

老犬とぶらりぶらりといいいリズム

寺井 弘子

犬は賢くてかわいい、飼い主の歩調に

合わせて、前にでたり後ろについたりし
て、愛嬌を振りまいてくれる。この調子
でお互い歳を取れば最高ですね。

ちよつと一泊お隣さんは行かはった

今井万紗子

そうですね、行かれましたか。今の
ご時世、ちよつとした小旅行でも大きな
問題になりかねません。コロナ禍のため
に窮屈な生活と、変な世間との付き合い
を押しつけたものです。大阪弁はその場
をほんのり、包み込むように聞かえる。

清水の舞台とスマホ買いました

坂上 敦司

スマホは高いですよ、本体が10万前
後で通信使用量もある。沢山便利な機能
がある様だが、使いこなせない。やはり
購入に際しては悩みに悩んで当たり前の
ように思える。もしかして今頃は、買わ
ねばよかったと、後悔していませんか。

警告音多い車の超過保護

森田 旅人

全くその通りで、沢山の警告音には、
あきれるしイライラさえ感じる。そこま
でここまで、安全対策が必要なのかと、
飲酒運転防止の対策や、ひき逃げ、煽り
運転などのモラル対策は進められないの

か。自動車学校も運転免許所の要らない、社会が早く来い。

自宅では限度いっぱい脱ぐ猛暑

原 洋志

笑った大笑いした。全くその通りの生活をしている。エアコンをギンギンに聞かせて真っ裸。こんなときに限って宅配屋さんがピンポンとやって来る。

あり合わせハイブリッドの昼ご飯

池田 純子

上手いこと言うなと感心させられた。ハイブリッドご飯ってなんだと、一瞬考えたが、余りのおかずで昼ご飯。我が家と同じで安心しました。

地球軸支えるものもなく回る

きとうこみつ

確かに不思議なのですよね、独楽の芯のようなものがあれば・・・だけど地球って宇宙空間に浮いているのですよね。これも不思議ですが、凡人が難しいこと考えると頭が痛くなります止めましょう。

イエスともノーとも答えないカルテ

寺川はじむ

怖い話でスリラーのようです。心配で仕方がない検診にレントゲン、CT、血液検査してきて当然その結果が知りたい。

不安から抜きたいのに、答えは――！

年金でちよい悪おやじ秘密基地

斎藤 隆浩

羨ましいほどの余生ですね。子供のころから自分だけの空間欲しかった。今それが叶って秘密基地、なにをしているのか見たいが当然秘密ですよ。

博多つ子塩ラーメンは浮気バイ

藤井 宏造

そうだそうだ浮気バイ。博多つ子は豚骨ラーメンだよ。あの癖のあるスープは独特な味わいがある。それなのに、塩ラーメンへ浮気したのは許せないことだ。みなさんに謝罪して豚骨にしないさい。

曲がり角塩輪の顔で立ちつくす

小谷 小雪

驚くでもなく、何かを言いたげな、そしてこちらに何かを問いかける不思議な顔が塩輪だと思いますが、曲がり角でそうだったのは、道に迷ったか意外な人と出会った。どうなのか聞いてみたい。

私まで消してしまつた消去法

梅瀬みちを

ダメじゃん。やはり皆さんと同じで、自分の事は意外と知らなかったと、言う事でしようか。しっかりしてくださいよ。

水の中泳ぐ金魚と替わりたい

前田恵美子

今の自分からの逃避でしようか。生活環境が嫌なのか、同じようなルーチン生活に飽きたのか。逃げ出したい願望の先が金魚と思われたのでしょうか。あの狭い空間であなたは我慢できますか。たぶん無理ではないでしょうか。

スクランブルエッグにみえた君の罪

大内せつ子

スクランブルエッグの罪とはどんな罪なのか。大きな罪を隠す為に、卵をまき散らしたのか。スクランブルエッグは、誰もが知っていて嫌いな人は少なく誰もが好きで気楽に食べる。憎めないかわい人。お惚気だったのか。

朝のパンねむれなくてもおなかすく

まえでとよこ

心配事か、何か大きな問題を抱えていて眠れないのか。眠れないくらいに心配事ならば、食欲などなくて当然だが、それでもないか推察すると、ただ単に昼寝のせいではなかったのか。朝は濃い目のブラックコーヒーとトーストで、一日のスタートを切ってください。

水煙抄鑑賞

—10月号から

前田 楓花

四次会も振り切れず来るお邪魔虫

瀬 島 流れ星

酔っているから仕方ないけど自分がお邪魔虫だなんて思ってもいいない。今夜も楽しいお酒を飲んでゐる。こちらはたまつたもんじゃありません。

もう少しこの世に居たい枯れ芒

岡 本 余 光

命ある限りこの世に居たいと思うのは誰しも同じこと。今日一日を大切に生きサツと消えたいものです。それが叶うなら長生きをしたい。

ときどきはほつたらかしも悪くない

北 山 まみどり

たまにはほつたらかしにするのもされるのも自由になれたようで嬉しい。いつもでは困るけど時々は干渉しないようにしましうね。

親介護人生変えての恩返し

前 川 善 之

親の介護をするのが恩返しだとは中々言えません。私には出来そうもない事。本当に頭が下がります。

子育てを委ねるふるさとの自然

坂 本 星 雨

草花や生き物が教えてくれることは沢山あります。自分が生まれ育った故郷の自然は子育てにもってこいですね。

髪切ったあ気付いてくれたレジの人

西 川 千 鶴

夫が私が髪を切ったのも気付いてくれません。行きつけの店員さんはチャンと見てくれていたのです。嬉しいな。

両親より爺に似ている孫の顔

上 山 堅 坊

隔世遺伝と言うのか孫と言うだけでも嬉しいのに、爺ちゃんに似ているとなれば尚更可愛いものです。

シナリオと違う女を演じてる

岡 田 恵 子

シナリオと違う女とはどう言う女なのでしょう。いい女を演じているのなら最後まで演じ切って欲しいです。

また来てねゆっくり日本見てほしい

巖 田 かず枝

オリバラも終わり選手は観光をする間もなく、そそくさと日本を離れました。これもみなコロナのせいです。

精一杯幸せ顔のクラス会

阪 井 恵 子

待っていたクラス会。みんな悩みなど無い満面の笑みです。暗い顔など見せようものなら心配をされてしまいそう。

引退をさせていただき主婦の座を

助 川 和 美

結婚をして主婦として頑張ってきた私。少し疲れたのであなたも一人になった時のために主夫として頑張ってください。

アスリート努力の夢はメダル色

馬 場 貴美江

オリバラは努力して頑張った人がメダルを手に入れました。そして美しい汗と涙を見て、こちらにも泣きをしてしまいました。

もう何も言うまい六十すぎた子に

貝 塚 正 子

老いたるは子に従え。還暦を過ぎた子に今更何を言うことがありましよう。



衣服さまざま (1)

人それぞれの個性や趣味が如実に顯れるのが服装です。お洒落な人はいつもセンスの良いのを着こなしておられます。

しかし、氣を付けたいのは「痴呆症のはじまりは先ず衣服に無頓着になる」とのことです。日頃から身なりを構わない男性などは氣付き難いかもしれませんが、お洒落な人が髪を乱してヨレヨレを着るようになったら要注意です。

ふるさとよ大きなパンツ干してある

違和感がある新しいトランクス

瘦せたなら穿こうととてあるパンツ

牽そうな夫のパンツはいてみる

花柄のパンツやつぱり似合わない

更衣室パンツを穿けばほっとする

氣入りのステテコ穿いて引きこもる

衣服の中で最初に身に付けるのがパンツ。最近はずボンのことをパンツと言っているようですが、ここではトランクス

のことを言っています。但し、5句目の「花柄のパンツ」は

「似合わない」から推定するとスラックス？ かも？

また最近では「おしゃれステテコ」という宣伝で来客にも

対応できるのが出ています。勿論、引きこもりにもOKです。

ブラウスに包むはち切れそうな春

ブラウスは花柄孫の参観日

スカートにふわりと触れた春の風

小島 蘭幸

鈴木いざお

村上 玄也

松尾 憲子

宇都宮ちづる

ロングスカート穿いてハラハラさせている
山田 葉子
ロングスカートの中はカイロとサロンパス
西 美和子
念入りに膝手入れしてミニ試す
矢倉 五月
十年もスカート穿いたことがない
高杉 千歩

厚着する冬を越して「ああ春だなあ」と感じさせるのは女性の魅力アップさせてくれる軽やかなブラウスです。

スカートも女性専用ですが、流行によって短くなったり長くなったり、タイトになったりフレアーになったり……

ただ、短くなると膝が目立ちますので入念な手入れが必要でしょう。また、スラックスに馴れてしまうと足を晒すスカートはちょっと穿きにくくなるのかもしれない。

茶柱が立つて派手目の服を着る

ばあちゃん役する今日は地味な服

ポケットの深い服着て銀行へ

脱ぎやすい服がうれしい五十肩

ユニクロを着て映える人映えぬ人

黒着てももうセクシーに見える歳

息子からお古を貰う老いの冬

その日の気分によって衣服を選ぶことができるのも衣食住

が足りている嬉しさです。吉兆には派手目に、婆ちゃん役には地味目がベスト。「ポケットの深い服」というのは貴重品

を落としたりしないためでしょう。また肩が痛くて不自由しているときは「脱ぎやすい服」がいちばんです。

ユニクロでも映えるのは動きが若々しい人。黒が女性をセ

クシーに見せるのは肌の色を引き立てるからでしょう。息子

からお古を貰うのは、嬉しいような哀しいような……

伊達 郁夫

秋貞 敏子

小泉ひさ乃

辻内げんえい

中島 春江

福西 茶子



(投句210名)

なぜ急にこんなに減ったのか分らない、と専門家が言っているコロナの急減はブキミでもありますが、減るにこしたことはありません。



各句会も徐々に再開されてゆくことと思いますが、まだまだマスクのお世話にならないといけないのは少しユウウツ。あれこれ考えながら、懐かしい方々にお目にかかれる日を楽しみにしています。では、ナビを。

神戸市 みぎわはな
君が来る道にハンカチそと落とす

(評) 何という正統派の恋愛ごっこでしょう。ハンカチも美しいレースでないかと厚いタオルハンカチは頂けません。

西宮市 福島 弘子
プラス志向ワクチン打ったただけなのに

(評) 三度目ウンヌンなどと言われているですが、それでも打ったことによる精神

的余裕は大きいですよ。

米子市 池田 美穂
良い話ばかり拾ってくる耳だ

(評) 賢い耳です。こんな耳があれば人生ホント前向きなれそう。私もひとつ欲しい、あ、耳だからふたつ欲しい。

丹波篠山市 酒井 健二
よいこらしよ耳学問で世を渡る

(評) これはまた中々の達人と言えますね。しかし、世の中は何が身を助けるかわからぬもの、ご健闘を。

弘前市 稲見 則彦
宇宙旅行独りで来ててもつまらない

(評) 宇宙旅行、したことが無いので分りかねますが、想像するにあんな暗い所で一人つきりじゃねえ。

大阪市 岩崎 玲子
傾聴はこころ静かを心がけ

(評) 傾聴というのは喋っている方の話を「ひたすら黙って聞いて差し上げる」とことと伺っております。大変です。

東大阪市 秀 斧
ウオークマンあれからぼくら孤独癖

(評) ウォークマンは全く一人きりの世界に浸れます。でも、それは出来れば音楽を聴く時だけにしたいものです。

大阪市 若本 安代
ラブソング聴いてうふふが止まらない

(評) うふふ、がいいですね。思い出し笑いでしょうか、音楽は如実にその時代

を蘇らせてくれます。

岡山市 大石 洋子
縄跳びのまわす役ならまだできる

(評) 今、縄を飛ぶのは体力的に無理があるかも知れませんが、縄をまわすのならまだまだガンバレルゾですね。

佐賀県 真島久美子
鮎ちゃんが飛び交う大阪の句会

(評) まだまだ句会の復活は全面的ではありません。早くあの「鮎ちゃん」をやり取りする句会よ、帰ってきてー。

米子市 八木 千代
ロマンスの残り火連れて散りましよう

熊本市 杉野 羅天
耳の穴今後巨大化するのでは

松山市 栗田 忠士
無心になるって素敵なことなのね

三田市 谷口 修平
受け売りのまた受け売りの法話聞く

寝屋川市 廣田 和織
リモートで以下同文の表彰状

大阪市 石橋 直子
暑すぎてやる気スイッチ溶けちゃった

箕面市 出口セツ子
選挙後は民の声など聞きません

札幌市 三浦 強一
縄飛びも五輪種目になるらしい
大阪府 石田 孝純
何食べて大きくなった地獄耳

奈良市

大久保眞澄

エアコンのご先祖エジソンはエライ

富田林市

山野 寿之

縄電車みな降りて逝き僕ひとり

藤井寺市

鈴木いさお

イントロで「神田川」だとすぐ判る

羽曳野市

徳山みつこ

洞窟の奥に灯がほのみえる

倉吉市

牧野 芳光

パラボラを立てて宇宙を聴いている

貝塚市

石田ひろ子

片方の耳は噂とよく遊ぶ

弘前市

高瀬 霜石

人情咄はくはいつでも八五郎

鳥取市

奥田 由美

干し柿を作る平和の有りがたさ

松山市

柳田かおる

ヘッドホンそこは線路の上ですよ

可見市

板山まみ子

お釈迦様ご存知ですか物忘れ

土佐清水市

辻内 次根

青春はみな行き止りだったなあ

高槻市

松岡 篤

三代目社長のイスに落ち着かず

大洲市

花岡 順子

いい予感うきうき音符飛び跳ねる

橿原市

居谷真理子

コンサートとっても高い昼寝代

生駒市

飛永ふりこ

二重跳びキンコンカンと脳目覚め

尼崎市

藤田 雪菜

ラブソング青春の日が疼き出す

大阪市

平井美智子

家飲みについてきたのは八代亜紀

弘前市

福士 慕情

雷が通り過ぎたら教えてね

松山市

郷田 みや

噂なんていつかどこかへ飛んでいく

尼崎市

近兼 敦子

雑音はシャットアウトの思考中

松江市

石橋 芳山

ああ無情マイワールドに引きこもる

黒石市

北山まみどり

耳鳴りがついに子守歌になった

奈良市

山本 昌代

愛想良くしましよ我慢の日々だもの

尼崎市

藤岡 りこ

照れるなあ美人の湯から出たばかり

唐津市

仁部 四郎

耳よりの話はいつもいろは歌

吹田市

山本希久子

トンネルを抜けたら青い空がある

大阪市

柴本ばつは

二重飛び三重飛びもできるのよ

鳥取県

斉尾くにこ

面白く嬉しくいだいだした批評

明石市

瀬島流れ星

ちよっとした仕草好きにも嫌いにも

和歌山市

柏原 夕胡

良いウワサ聴いて弾んだ秋の空

大阪市

寺井 弘子

下心何時も猫には無視される

防府市

坂本 加代

ちよっと待て資源ゴミだよ君たちは

池田市

太田 省三

パンの耳夜にたぬきの親子連れ

大阪市

古今堂蕉子

日本の総理投げ出すのが得意

唐津市

山口 高明

おしめりで良いのに困るゲリラ雨

大阪市

樋口 眞

縄飛びを競った頃を懐かしむ

三木市

山口ヨシエ

お入りと名前を呼ばれ縄の中

河内長野市

森田 旅人

デートにも離さず聴いているラップ

今治市

永井 松柏

とっておきの話が聞ける傘の中

宝塚市

丸山 孔一

棟上げの餅も近頃撒かれない

大阪市

岡田 恵子

鏡よ鏡私いくつに見えますか

12月号発表

(10月15日締切)



(平本 霧石人 画)

柳菱に2句

二〇二一年（令和三年）

九月本社誌上句会

投句者261人

兼題「乱れる」

突然の雷鳴蟻の列乱す

蟻の列ぬかるみ前で乱れ出す

元氣だな脱ぎっぱなしの靴の跳ね

感情線はうれい線が乱舞する

若者の話し言葉に辞書が要る

日本の四季が乱れる温暖化

ほろ酔いに乱れた足が笑い出す

乱れ咲く名も無い花の革命家

乱切りにすると五歳は若返る

あと五キロ痩せておくれと膝の乱

乱暴な言葉の中にある温み

乱れては散らぬ造花の不仕合わせ

川崎ひかり 選

大阪 穂山 常男

千葉 勝又 康之

大阪 阪井 恵子

石川 堀本のりひろ

大阪 伏見 雅明

大阪 平賀 国和

鳥取 伊塚美枝子

島根 星出 冬馬

大阪 谷口 義

大阪 小野 雅美

兵庫 緒方美津子

大阪 鴨谷瑠美子

あの人が酒に乱れたさぞやさぞ

乱れ咲く日を夢見てる水中花

自棄酒に乱れた朝の二日酔い

神様が小指でちよいと掻き混ぜた

ウロチヨロとする奴もいる蟻の列

へマをして心乱れてしゃべりすぎ

別々に乱れ始める針と糸

残し文 文字の乱れは気の乱れ

飢えててもバレードだけは乱れない

乱反射ばかりしているはくの影

一匹の離反乱れる蟻の列

失恋で乱れる心流す酒

恋はもうお止しと論す不整脈

何やかや波長乱れる倦怠期

夫婦とて歩調乱れる時もある

それ以上酒飲ましたらあきまへん

燃えぬゴミ仕分けただけで息乱れ

ひとり住む父の手紙に字の乱れ

まな板の音が高いぞ妻乱れ

兵庫 萩原 狸月

大阪 柿花 和夫

宮崎 恵利 菊江

奈良 居谷真理子

大阪 谷口 東風

山口 坂本 加代

大阪 川端日出夫

大阪 鈴木いさお

大阪 奥園 敏昭

青森 稲見 則彦

大阪 井澤 壽峰

大阪 坂本ミヨノ

兵庫 山崎 武彦

奈良 山本 昌代

大阪 富田 保子

奈良 木嶋 盛隆

兵庫 今津 美幸

大阪 廣田 和織

長野 島田 洋審

乱読を積んで雑学光り出す

乱れたい頃もあったの枯尾花

ライバルが息の乱れを突いてくる

黙秘して三日は続く妻の乱

乱れてはいてもほっこりする答

あぶく銭手にし乱れてくる音符

ゴキブリへてんやわんやの部屋の中

結末の見えぬドラマを生きている

無礼講不満と本音乱れ飛ぶ

乱れ始めた文字に本音の見え隠れ

目も耳も乱降下して老いの秋

老いきても乱れを知らぬ腹時計

泡銭つかみ人生乱れだす

文字の乱れに老いが顔出す

残り火が古い鏡に乱反射

乱れられない財布は妻が握ってる

62歳脈が飛ぶよな恋をする

取り乱す心に檸檬のひと搾り

乱雑な机にちゃんとあるルール

大阪 伊達 郁夫

奈良 大内 朝子

大阪 村上 玄也

大阪 齋藤奈津子

宮城 太田 良喜

広島 鴨田 昭紀

兵庫 瀬島流れ星

茨城 石川二三男

岡山 古山はつ子

大阪 高杉 力

大阪 平井美智子

和歌山 石田 隆彦

兵庫 吉村めぐみ

宮城 木田比呂朗

島根 梅瀬みちを

兵庫 太田としお

大阪 きとうこみつ

埼玉 久保田千代

熊本 岩切 康子

ミス続き乱れ始めた自尊心

八十五年乱世を生きたあばら骨

佳

乱れてはならぬ平和の字の重み

思考乱れて明日の夢が描けない

気丈に生きた母にもあった乱気流

煩惱の乱れ鎮める座禪堂

平穏なくらしを乱すあぶく銭

人

髪乱し手紙つかんで追った母

地

縦糸が乱れて信念が揺れる

天

バイオリズム乱れたままに夏が近く

軸

天も地も乱れ乱れる温暖化

兼題 フ ロ

妻の扶養家族で自称小説家

大阪 藤原 大子

大阪 山本希久子

島根 岸 桂子

山口 中前 幸子

大阪 今井万紗子

青森 福士 慕情

大阪 長高 俊雄

大阪 鈴木 栄子

広島 笹重 耕三

和歌山 木本 朱夏

大久保眞澄 選

大阪 西出 楓楽

スカートの丈と景気の比較論

プロも出る興味半減した五輪

板前の夫うちでは食べる人

敗因を道具のせいにはしないプロ

とは言えどやっぱりプロは筆選ぶ

プロですと にかあと笑う探査犬

一ミリの誤差を名工見逃さぬ

その椅子に坐ればすっかりプロになる

なりわいを守りつづけた自尊心

盤上にAI凌ぐ指し直し

ここの一番プロの目プロの顔になる

プロみたいと言われたプロが自省する

プロみたいと言われ怒ったプロの画家

コロナ禍に黄金の腕錆びている

花嫁の父を泣かせる名司会

試着室の外からお世辞言えるプロ

父の死を告げられて出る初舞台

楽屋ではおばちゃん舞台では悪女

無観客プロはカメラと勝負する

青森 高瀬 霜石

大阪 平賀 国和

愛知 小松くみ子

大阪 小野 雅美

大阪 石田 孝純

兵庫 野口真桜子

兵庫 清水久美子

大阪 谷口 義

大阪 阪本 秀子

福井 西谷 公造

広島 羽城 裕子

佐賀 坂本 蜂朗

兵庫 羽奈 和子

和歌山 木本 朱夏

奈良 菱木 誠

兵庫 米田利恵子

大阪 石田ひろ子

大阪 松岡 篤

兵庫 村田 博

ほんまもん見つけるスカウトマンの目

宅配の小走り雨も雪の日も

究極のプロを目指している介護

介護するプロも疲れてきた笑顔

芸人の扇子キセルに早変わり

流石プロこんなに薄く切るてっさ

完成の文字が見えないプロの辞書

酒飲みのプロを目指して修業中

じいちゃんに教えてもらう竹とんぼ

年金で飲ませてくれる妻はプロ

ひとつまみもしやプロかも妻の味

残り物だけでチャチャッと二三品

バアサンの中に紛れてプロの主婦

観衆を釘付けにして立つ打席

一軍の選手の怪我を待つ二軍

二軍でも端から見ればプロ野球

謹慎が移籍でとけるプロ野球

なあ孫よ何と言ってもスケボーだ

鉄人を鉄人にした母の味

大阪 古今堂蕉子

大阪 阪井 恵子

岡山 藤井 智史

大阪 鴨谷瑠美子

大阪 伏見 雅明

兵庫 斎藤 隆浩

大阪 伊達 郁夫

大阪 廣田 和織

和歌山 柏原 夕胡

大阪 柿花 和夫

福島 柳沼 幸三

岡山 工藤千代子

京都 山田 葉子

大阪 西沢 司郎

奈良 長谷川 崇明

香川 大高 正和

奈良 宇賀 史郎

秋田 田村美穂子

愛媛 栗田 忠士

ドラフトに悲喜こもごもの親の顔

大阪 東 敬朗

プロの意見聞いたり聞いたふりしたり

大阪 高杉 力

縦割りのプロが有事に間に合わぬ

大阪 内藤 憲彦

プロだから舌は二枚でしつぽ持つ

大阪 穂山 常男

プロの背にちよつと重たいスポンサー

大阪 川本 信子

信念の医師権力に阿らず

東京 山田こいし

好きなこと仕事に出来る果報者

和歌山 澄田 康則

血迷うてプロを目指した日の若さ

大阪 太田扶美代

引き際の美学をプロは知っている

兵庫 稲角 優子

本職は人間だった迷い道

広島 田辺与志魚

妻というプロにもなれずただの人

兵庫 荒牧 孝子

生き様のプロだと自賛する卒寿

高知 桑名 孝雄

女に生まれておんなのプロであれ

兵庫 上野多恵子

佳

凄腕は私がゴルゴサーティーン

鳥根 石橋 芳山

乱気流機長の声は乱れなし

大阪 神崎 江

控え室僕の名札が掛かつてる

奈良 高橋 敬子

セミプロという曖昧な位置にいる

大阪 鈴木いさお

生きるプロですと豚饅かぶりつく

大阪 平井美智子

人

百グラムびたりと乗せて「毎度あり」

大阪 島田 明美

地

校長は八百人の名を覚え

奈良 居谷真理子

天

締め切りが素知らぬ顔で立っている

東京 川本真理子

軸

何のプロだったか専門家会議

兼題「雨」

西村 哲夫 選

憎むべき人が降らせた黒い雨

大阪 きとうこみつ

ブランドの傘の雨音確かめる

大阪 伊達 郁夫

雨音にもしやと君の声さがす

広島 田辺与志魚

雨音が今日は休めとそそのかす

鳥取 山本ふみ子

今日も雨休みの続く万歩計

大阪 東 敬朗

逢った日も別れた時も雨だった

愛媛 栗田 忠士

言い勝って胸にせつない雨しとど

岡山 古山はつ子

雨の日は少しニーチェの顔になる

大阪 吉村久仁雄

出征の日も雨だった祖母ぼつり

兵庫 上田 和宏

駆け足で名所巡った雨の旅
 土砂降りの中へバスから降ろされる
 傷心に輪をかけ雨の旅まくら
 雨降って負けずに済んだタイガース
 ワンサイドゲームを雨に救われる
 びしょ濡れになって嬉しい今日の慈雨
 不条理へ怒りの雨がここかしこ
 降り続く雨は地球の不整脈
 命を守り命奪うも同じ雨
 降るのなら田畑うるおすほどいい
 いけずやな欲しい所に降らぬ雨
 晴れ願ひ雨を願って農一途
 雷が参加してくる雨の道
 秋雨を待ち秋雨を怖れてる
 恵みの雨降って青田は穂を孕む
 百均で無駄を買って雨宿り
 雨やどり優しい恋をつれてきた
 道草の善し悪し雨に決められる
 雨もよう今日のドラマを期待する

愛媛 黒田 茂代
 埼玉 久保田千代
 兵庫 瀬島流れ星
 兵庫 斎藤 隆浩
 大阪 鈴木いさお
 鳥取 伊塚美枝子
 和歌山 三枝眞智子
 奈良 菱木 誠
 奈良 山下 純子
 大阪 片山かずお
 東京 山田こいし
 岡山 藤澤 照代
 宮崎 恵利 菊江
 奈良 長谷川崇明
 兵庫 山内 迪
 大阪 柿花 和夫
 兵庫 稲角 優子
 鳥取 大前 安子
 大阪 渡辺たかき

アメダスに終日傘を持たされる
 雨上がり中止を悔むフードロス
 雨上がり傘を忘れた恩知らず
 ひと雨ごと庭の雑草大いばり
 軒下の鉢を枯らした雨続き
 下校の子傘持て遊ぶ梅雨晴れ間
 梅雨空に居眠りしてる洗濯機
 雷鳴に貸してた傘を思い出し
 雨粒にも泣いてる奴と笑う奴
 授かり婚雨のデートに覚えあり
 会えるかな一番好きな傘で出る
 奥様の荷物持ちです雨の道
 雨足に合せた歩幅遅れ出す
 夫婦喧嘩雨のイライラから発火
 温暖化ハードロックの雨が降る
 小雨にて背広がパッと傘がわり
 通り雨止まずにいてと縄暖簾
 外は雨ママが人生語りだす
 逆縁に空から降らぬ涙雨

大阪 原 洋志
 兵庫 多田 雅尚
 大阪 齋藤奈津子
 大阪 大浦 初音
 鳥取 成田 雨奇
 和歌山 村中 悦男
 兵庫 藤田 雪菜
 大阪 長尾 千賀
 大阪 石田 孝純
 兵庫 萩原 狸月
 兵庫 緒方美津子
 大阪 松田蟻日路
 兵庫 福田 正彦
 高知 桑名 孝雄
 大阪 西出 楓楽
 奈良 飛永ふりこ
 青森 稲見 則彦
 徳島 小畑 定弘
 兵庫 北野 哲男

雨だれがドレミの詩となる窓辺
睡蓮に青い雨降るモノの池

さよならの声を流してゆく白雨
フレイルが霖雨まとして身に迫る
いつだって父は大きな傘でした

佳

雨も陽も友達にして黄金の穂
幸せの仮面を取れば雨模様
言い訳を雨はいつでも味方する
傘の中まだしなやかな手を握る
反骨の男と雨の中之島

人

雨宿りつい居酒屋の軒の下

地

終日の雨今日はだあれも笑わない

天

片想い僕を詩人に変える雨

軸

千変万化雨は私の肥やしなり

兼題「すんなり」

長谷川 醉月 選

路郎の句すんなり潮が満ちてくる

すんなりと流れる川の水面下

上手くいく母の確かな司令塔

すんなりとゆくはずだったコロナまで

目を閉じてすんなり受けた初キッス

胃カメラがすんなり入る鼻を持つ

菓子折の重さすんなり通過する

今日こそは好きと言わせるロゼワイン

古里の訛りすんなり通す耳

すんなりとキラキラネーム出てこない

三分で九〇日の薬出す

すんなりと伸びた美脚に見る平和

すんなりといかぬ八起きの大勝負

天女にも魔女にもさつとなれる妻

八頭身モデル人生後わずか

ちよっと押したら思い通りになった

この辺でもう年だから ほなまたね

兵庫 糀谷 和郎

兵庫 今津 美幸

大阪 渡辺たかき

兵庫 太田としお

大阪 今村 和男

岡山 藤井 智史

兵庫 みぎわはな

兵庫 山崎 武彦

兵庫 北野 哲男

大阪 内藤 憲彦

静岡 中田 尚

兵庫 上田 和宏

奈良 飛永ふりこ

奈良 渡辺 富子

和歌山 三枝眞智子

和歌山 柏原 夕胡

奈良 饗庭 風鈴

アートだと言つてすんなり脱がされる

大阪原 洋志

針に糸が通る間はまだ主婦だ

兵庫 山田美春日

すんなりと夏の胡瓜の柳腰

熊本 杉野 羅天

飲み込めぬ話を流す甘い水

岡山 工藤千代子

孫ん家の保護猫すんなりと家族

大阪 宇都満知子

お断りしますと書いた草書体

秋田 田村美穂子

次の世へすんなり行けぬ元氣過ぎ

大阪 松岡 篤

内視鏡手術で済んだなら乾杯

青森 高瀬 霜石

すんなりと条件をのむ一目惚れ

大阪 長尾 千賀

苦勞という苦勞もせずに海に出る

東京 川本真理子

すんなりと妻は出さない俺の金

兵庫 村田 博

謝ればすんなり済むと読む不遜

奈良 安福 和夫

若作りしてもすんなりシニア割

大阪 廣田 和織

鎧を打たれ軋みは消えました

東京 山田こいし

いま無職離婚するにはもってこい

大阪 太田 省三

地を這つて苦言すんなり耳に入る

大阪 森田 旅人

別れようかウン別れましょサヨウナラ

大阪 島田 明美

お受けする四の五の言わぬのが大人

鳥取 大羽 雄大

コンバクト老いをすんなり受け入れず

宮城 木田比呂朗

素うどんの一杯だけでプロポーズ

大阪 上山 堅坊

すんなりと手打ちを終えて二軒目へ

大阪 松田蟻日路

議事堂へ入る二代目三代目

東京 伊藤三十六

胸バツジ見たらどうぞと通された

大阪 村上 玄也

双子なら聞く顔認証のドア

大阪 藤田 武人

追い越して顔見たくなるバックシヤン

佐賀 坂本 蜂朗

水鏡ゆうべのあれはなんだった

鳥取 吉田孔美子

平和から生まれたすんなりの手足

大阪 米澤 俣子

すんなりと診てはくれないトリアーシ

大阪 丹後屋 肇

遅刻して忍者のように席につき

大阪 片岡智恵子

思いあえばドアは静かに開かれる

奈良 居谷真理子

ピタゴラスイッチうまくいくまで撮り直し

兵庫 宗 和夫

死に水を取ってほしいに領いた

大阪 谷口 東風

すんなりといかぬこの世はミステリー

広島 羽城 裕子

佳

鳥根 星出 冬馬

すんなりと弾かれている規格外

大阪 森 廣子

飛び方を変えたら風が降りて来た

大阪 藤原 大子

領いて長女は我慢するのです

大阪 栃尾 奏子

コロナ禍のすんなり行かぬ救急車

付度の入る余地ないガラス張り
終末時計すんなり進めてはならぬ
すんなりと100まで来たがまだ不服

人

すんなりと握手が出来ぬ戦後処理

地

抗えぬ引力君に堕ちていく

天

アスバラの青は少女の日の匂い

軸

ふる里にすんなり泣ける場所がある

兼題「最高」

よろこびはMAX曾孫誕生す

バアバアと孫に呼ばれて元氣出る

ティータム至福共有する夫婦

素うどんの美味い店なら最高や

最高の瞬間テレビ静止する

山頂に貴方と二人立つ至福

定年旅行最高の子のプレゼント

大阪 西沢 司郎

愛媛 黒田 茂代

宮城 太田 良喜

広島 笹重 耕三

大阪 中村 恵

和歌山 木本 朱夏

小島 蘭幸 選

大阪 西出 風楽

鳥取 川本美津子

大阪 松岡 篤

奈良 長谷川崇明

広島 羽城 裕子

大阪 神崎 江

大阪 平賀 国和

最高のぜいたく朝のしじみ汁

七十余年戦を知らぬ国に住む

今が最高思うがままに生きている

飲んで笑って食べてハグした今朝の夢

出しゃばりの最高齢で売っている

自分の歯で固焼き煎餅を食べる

エビデンスないけど妻を選び吉

里の風すいかお昼寝水しぶき

最高の人生ですと遺書に記す

年の瀬の最高潮で聴く第九

ハローワークで高学歴が邪魔になる

天辺で自己満足に酔っている

朝ビール昼はシャンパン夜酎ハイ

幸せの絶頂 六甲の夜景

健康診断今年も異常なし

最高と妻よろこばす肩を揉む

町内では最高齢になりました

チャイを飲み待つヒマラヤの御来光

おかえりと今日もあなたがいるのです

オオタニサンが打てば狂気の妻である

大阪 谷口 義

大阪 上山 堅坊

愛媛 黒田 茂代

大阪 美馬りゆうこ

神奈川 加藤 佳子

大阪 きとうこみつ

大阪 渡辺たかき

高知 浦田 裕充

愛知 山田 初男

大阪 佐々木満作

兵庫 上野多恵子

鳥根 石橋 芳山

兵庫 斎藤 隆浩

兵庫 中岡千代美

茨城 石川二三男

兵庫 山田 耕治

鳥取 田中 重忠

大阪 鈴木 栄子

大阪 栃尾 奏子

大阪 吉村久仁雄

家族ぐるみで付き合える友が居る

人生を君と過ごせた有り難さ

愛されてこれ以上もう望まない

最高の幸きょうも普通に過ぎました

諸行無常 今最高におもしろい

最高は亡母の生き様だと思う

最高のかたちで止んだ黒い雨

平凡と書きサイコーと読んでいる

何事もなく過ぎた日の温め酒

万物の霊長と自惚れのヒト科

百年かけてここまで石を積みました

ほんのりの妻を見たくて家で飲む

極上の酒で酔うても愚痴は出る

日の丸のデザイン群を抜いている

天高く九十六歳の笑顔

最高のジョークだ僕に影が無い

川柳がぼこぼこ浮かぶ旅の空

トップの座射止め胃ぐすり飲んでる

我が家には最高裁の妻が居る

兵庫 清水久美子

青森 稲見 則彦

和歌山 柏原 夕胡

大阪 徳山みつこ

大阪 小山恵美子

島根 岸 桂子

広島 笹重 耕三

大阪 島田 明美

兵庫 山崎 武彦

大阪 川本 信子

愛媛 栗田 忠士

奈良 居谷真理子

大阪 長高 俊雄

鳥取 新家 完司

東京 川本真理子

和歌山 木本 朱夏

青森 高瀬 霜石

奈良 渡辺 富子

兵庫 北野 哲男

上下関係などない最高の二人

最高を日々更新中のわたし

感染者数最高ニュースにもならず

最高の男探している途中

六十年最高の連れ合いでした

最高ねが口癖だった姉がいた

佳

笑顔最高百歳も一歳も

最高でーす一度言いたいお立ち台

生きていて奇跡のような日に出会う

最高の贅沢孫と夕ご飯

最高のライバル今はわが五欲

人

最高の笑顔をかえすプロポーズ

地

一汁一菜を合掌で食す

天

妻という最高の椅子用意する

軸

最高でした三歳の阿波踊り

兵庫 山田美春日

大阪 初代 正彦

大阪 高杉 力

大阪 小野 雅美

広島 村上 和子

愛知 小松くみ子

大阪 山本希久子

和歌山 石田 隆彦

埼玉 久保田千代

大阪 松尾美智代

大阪 柿花 和夫

宮崎 恵利 菊江

大阪 西村 哲夫

岡山 藤井 智史

みこせふか

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

コロナ禍のマスクにも見る美のセンス 武彦
ハーマニカ吹いて和ます孫愛し 憲央
ここ一番つまみ出したいこの弱気 英三
ユーモアのセンスに欠ける夫と居る 時子
素朴で温い円空仏のノミの跡 公子
母の目を盗んでそとつまみ喰い(未)玲子
老骨にムチ打ってスマホに苦戦 北舟
ひねったりつまんだりして痴話喧嘩 健二
ひとつまみ程の味が居てくれる 公輔
粗削り生かし磨いて人育て 義明
粗挽きのコーヒー入れて仲直り 敏昭
政治費のさぞ旨かうつまみ食い 堅坊
年重ね縫い目どんな粗くなる 忠子
「センスなし」と言って相手をやつつける 見清

ペン先は脳の延長点と線 弘委智
目の粗い網では夢はすぐえない 英旺
つまみ食いとどうも全部食べちゃった 満作
目の粗いザルも通さぬ下手な嘘 雅美
首根っこつままれ暫し不整脈 ふりこ
困ったら頼る甘える生き上手 眞澄
若き日の日記辿れば呻き声 肇
控え目に着こなしキラリいぶし銀 哲男
罰ゲームいくつかクリアして生きる 洋志
ビールなら柿の種さえあればグー 勝弘
したたかに生きるつもりふくらはぎ (初)正彦
掻い摘んで喋って欲しい長話し (岩)玲子
新聞がスマホの前で泣き出した (福)正彦
手触りの粗い握手に籠る愛 則彦
一針を入れて古着のハイセンス 千賀子
秋の味をつまんですすむ吟醸酒 黒兎
相棒は私が是非と言った人 一步
粗げずり大きなのびしろ持っている 多美子
ひとつまみ妥協許さぬシェフの舌 野鶴
センスいいだけではついてきてくれぬ 美津子
淋しいと思うけれどもみんなそう ひとみ

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにご報

大雨で野菜もくさる気も腐る 重忠
炎天の恵みの雨が波乱 節子
恵みの雨に野山も花も深呼吸 龍枝
豪雨きて家ごとさらい大わらわ 紀美恵
やつとこまで糞真面目に生きてきた 大鯨
思い切りやつと飛べたら目が覚めた 芳江
こつこつ溜めやつと手にした我が家なり 悦子
やつと来た八十路の坂は八十度 照彦
この世の隅でその日その日を生きている 芳光
現金を配って歩く法の人 玲坊
町内に毎月市報配る役 富隆
宅配用空箱探し古里便 義人
連絡に落ちがないかと気を配る 陽之助
宅配の皆様今日も有難い 紀子
金メダル早速号外配られた 貴恵
野次馬でネットは直ぐに炎上だ 滋
初盆に亡き夫の影ゆらゆらと 久芽代
チャレンジの炎が消えて引退す みゆき
君からの火炎放射に負けました 三津子
ごみを焼く炎もやはり美しい 余光
人はみな炎になってジ・エンドと 美知江
言い足らず胸に残っている炎 重利
大切な小さな炎赤ん坊 完司
花の水早く替えろと言う炎 紀の治
気配りをあげて笑顔をまたもらう くにこ

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

字の如く山の形の岩木山
美しい形熱意が見える物作り
枝豆も形良しから食べられる
形式的な仮面剥がれるクラス会
空手道気合一喝金メダル
努力の結晶メダルという形
生きている証だ形変える松
育児書のとおりになんか育たない
外形は気にせず生きて古希来る
お岩木に燕現われ里忙し
知る人もいずれなくなる形見分け
両親の忘れ形見はボクである
私にも無形財産ありそうだ
形勢が悪いと黙るあまのじやく
千差万別生きる形に逝く形
祝言のかまぼこ厚かったなあ
形勢不利待ってましたとオレ出番
老いの歯が形勢肉が好きと云う
居残りの訳を知ってる影法師
北海道いかにも旨そうな形
目には見えぬが確かに翼あるらしい
百の窓百の形のある暮らし

京子 真由美 柳子 初枝 一呑 風来坊 ひとし 規子 重虎 則彦 隆樹 龍馬 孝子 洋子 のぶし 和香子 義明 ふさあ ひろ 吹喜 霜石 慕情

迎え火の急にゆらめき亡母がくる
叩かれた肩に淡雪フワリフワ
なんとなく試してみたい甘い異
何となく出た鼻歌に苦笑い
病む妻と光合成をする日向
春雛ビヨビヨいのちを唄い出す
生き恥を晒してまでも生き延びる
和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

美鈴 花峯 ちづ子 澄子 黙人 嘉 千鶴報 昭枝 敏照 智三 一雄 昇 まき ひろ子 起世子 菜摘 宏枝 俣子 碧 和子 理恵 幹子

江島谷 勝弘 選

あめ玉一つおぼちゃんの社交術
きぬさやはなまえがおなじだからさき
捨てるには惜しくて溜る紙袋
銭取らぬお日様だからありがた
付けっぱなしテレビは文句言いません
いびつでもとても美味しい茄子胡瓜
ここんとこ話し相手はレジ係
コロナ禍に雑草だけは生き生きと
やつと出た赤木ファイルもマスクされ
書かんでもよい追伸に誤字ひとつ
利恵子

佳句地十選 (10月号から)

柳田 かおる 選

この道と信じて決めた靴の向き
しあわせな自分サイズにする暮らし
海が風ぐやつと便りを書き終わる
電話口ひとときショパン聞かされる
一言が弾んで元に戻れない
暫くは無風でいたいシャボン玉
継ぎ接ぎだらけ僕の堪忍袋
理想だが明日なら困るピンコロリ
八十路とて胸の弾むしときめくし
かみなりでおへそがきえてしまつかも
八重子 倣子 鬼焼 洋志 哲夫 紀子 まつお 和郎 ちはな ちか

何も彼も飲み込み海は風いでいる

言い訳が先に立つからややこしい

読み返し発券出来た誤字脱字

泳がないことも一つの策である

羊水のキックはすでにアスリート

おしゃれるただそれだけで軽くなる

五輪切符無効で軽いめまいする

シンブルな説明だった医師の口

褒めてほしい叱ってほしい母の海

犬掻きで世渡りをした自負がある

ハイハイと聞いているのかいないのか

男ひとり都会の海を泳ぎ切る

徘徊の母背に軽い月あかり

退院の箸軽やかな今朝の膳

何時までも海でありたい親心

ダモイ船海山千里母が待つ

海青し沖に白帆が二つ三つ

軽トラで父が迎えた過疎の駅

現在位置確かめたくて立ち泳ぎ

海が好き何でも聴いてくれるから

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

ふるさとのくらげよ今日はどこの海
宣之 余生ふわふわくらげのように雲のように 蘭 幸

富香

准一

八重子

保州

純子

彦弘

義泰

美枝子

あき子

明子

知香

眞智子

悦男

和美

幸

與一

貴美子

剛

康則

千鶴

歓声にクラゲは波にのり遅れ

何があろうと優雅に泳いでいるくらげ

ある日くらげ海抜け出して溶けました

満月へくらげは金を取ると言う

ゴメンナサイ言えてスッキリ手を握る

草刈りはシャワーそうめんビール付き

すっきりと心も整理して合掌

料理好き亡姑の分厚いレシピ本

老いてなお朝のメニユーはバンジウス

精進料理心と体洗われる

メニユーには載らぬ魔法の母の味

再起するメニユーを黙々とこなす

メニユーにはないが熱血派を自認

組のくぼみに五十年のメニユー

またお皿割れたやつ当たりではないのに

十八羽つばめ果立つて夏おわる

寝たきりの弟にひまわりの絵手紙

ふるさとの夢には何時も亡母がいる

耳慣れぬ国の名もありオリンピック

宿題と戦う一年生の夏

かぶとむしかごからでたいみたいだね

ちかのしんぞうドッキンドッキンいっている

淑子

慶子

千代美

笑子

節夫

夢香

比呂子

弘子

節生

輝恵

栄香

昭紀

白狐

敬子

歩美

厚子

初音

貞子

幸子

史子

小一さや

六歳 ちか

わかやま吟社

小谷 小雪報

徳を積み天国行きを予約する

積み上げた砂上の城を守り抜く

極限まで心静めて石を積む

娘が帰る遠慮をよそに積み野菜

百歳を目指して写経積み上げる

問題は山積みまずはティータム

少しずつ積み荷を下ろし風に乗る

目分量その日によつて違う味

性格が違うから合う友もいる

そこそこの違いは片目瞑ってる

隔てなく育てた子にも皆個性

ジョギングで走れば街は違う顔

一回り違う相手とメル友に

細い腕見た目と違う頑張り屋

かけ違いボタンのままで五十年

母ですれすが見分けている双子

そつとしておこう違いに気付くまで

ぐずぐずは猫でもすると言う息子

ぐずぐずが相手保母さん大変だ

月曜日もつとぐずぐずしたい

ぐずぐずと常習犯の子がごねる

お出掛けは男のようにいかぬ妻

ほのか

精子

晶子

悦男

ふりこ

知香

富美子

節子

よしこ

あかね

淑子

和宏

明

尚美

繁子

寿子

大輪

徑子

佳子

小雪

タカ子

秀夫

故人らがわしを待つてゐるわけなし
八茶
光

走つたら間に合うパスを見送つた
紀子
赤ん坊好きでぐずつてゐるんじゃない
日出男
ぐずぐずが思わぬ結果もたらせる
信勝
イヤだからわざとぐずぐずしています
夕胡

南大阪川柳会

松岡

篤報

一幅の絵を窓に見て外に出る
シマ子
国民のみなさまなど小さな窓
ダン吉
スーパームーン窓を大きく切りました
ばつは
借景を窓枠からの美術館
柳伸

内・外で空気の色が変わる窓
亜成

川柳は浮世窺うのぞき窓
俊雄

試されていると気づかず好きになる
ひさ乃

一升瓶だと男気試される
加代

悩むよりやつてみなければ行けるかも
篤

試されているのか尻尾踏まれてる
あや子

何事も試されて居る日の暮し
通江

合鍵をまだ試さない月明り
弘子

武器もつと試したくなる人の性
国和

神の子が澄んだ瞳で乳を飲む
よしみ

静寂に玉砂利踏んで一歩ずつ
直子

澄み切った清流に見るありがとう
弘委智

葉脈を走る命が神々し
神々の祝宴オーロラが揺れる

真綿の雪冠の気高き富士の山
デルタ株でんやわんやの日本中
果ごもりにてんやわんやが懐かしい
雨続き右往左往の高野連

三人の孫が帰省し朝の膳
夫婦喧嘩外は祭りの笛太鼓

百の病床へ二百の感染者
通夜の席声が聞こえる棺の中

猛暑にも耳を澄ませば虫の声
コロナ禍でホクホクの企業も居てる

弾力の失せた五体を持て余す
長崎の鐘はじいんと胸を打つ

ため息を吐くたび老いが加速する
筋肉痛歩けぬ辛さ思い知る

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

無二の友へ修飾語は使わない
我慢して本音隠して話聞く

世渡りは本音たてまえ使い分け
政治家の本音まったく解らない

選挙戦本音隠したマニフェスト
仲人も本音言えずに結びつく

常男

本音ならさつきとばしたシャボン玉
本音隠してやさしく老いてゆくつもり
本音かと念を押されてうろたえる
喉元の本音こらえて波立てず

敏治
満作
ルイ子
大子

建前と本音が混ざりもうおぼろ
本音だけで生きて出世に縁がない
建前よりオクターブ下げ言う本音
たてまえは平和本音は国のエゴ

蕉子

下戸の家に毎年奈良漬が届く
卒業式贈ることばに涙して

いさお

核兵器なき世孫子へ贈り物
桐の箱緊張ぎみのさくらんぼ

郁夫
昌紀
勝弘

贈り物に添えたことばが喜ばれ
肉筆がその人の香を贈りくる
結婚式贈る言葉が浮かばない

柳右子

ただだから美辞麗句だけ並べとく
何よりも孫の元気がプレゼント

志華子
楓楽
克己

手作りのチョコちよと豪華にラッピング
達者で亡祖母の言葉が懐かしい
ありがとう贈る言葉は只ひとつ

早起きに澄んだ空気の贈り物

太子報

宏造
久仁子
かつ美
大子

扶美代

ひとみ

フジ

真

洋一

一文

一文

一文

一文

一文

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

中流の夢を砕かれ庶民泣く

三樹夫

猛暑日も食べねばならぬ肉を焼く
情けない思いをさせる政治力

列島のどこかで今日も揺れている
人の目に気付くマスクの付け忘れ
カニ缶に負けぬカニカマ有り難い

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

お金では買えぬ心を肝に入れ

古里の家を空き家にホームレス
心のほつれ治せる愛というくすり

井戸の底覗く他人のあれやこれ
HB程の濃さか夫婦仲

うしろから斬られた傷は治らない
御先祖も集中盆のおもてなし

息を止め血管と針見つめ合う
これだけは今日集中しやり遂げる

集中豪雨とコロナ禍だけで終わる夏
集中がボツンと切れる時がある

ひたすらにただひたすらにかたつむり
集中力掘んだ色は金メダル

面会をICUに止められる
一点を見つめていたら火がついた

いつまでもよくよくするな天の声
他人には元氣を出せと論してる

まみ子

かつ子

雅美

週行

千代美

凱柳報

大

絃一

宏章

蛙鳴

茶人

拓治

初恵

春雄

勝

隆浩

鐘植

綴

厚子

蟹郎

八千代

重忠

善平

くよくよするな過去は誰しも手にできぬ

くよくよが去るまで飲むさアル中よ

くよくよ性に合わないケセラセラ

金がないくよくよするな成せば成る

指を折りくよくよ迷う入籍日

くよくよに良く効く薬縄のれん

くよくよが背の翼に鍵かける

飲むほどに追加の量が止まらない

飲み会が追加追加で盛り上がる

漂白剤追加も消えぬ加齢臭

脳トレに孫の宿題追加する

生命線いのちの追加などできぬ

宴席のもう一杯が止まらない

ダイエット追加料理に箸迷い

生きるため追加していく好奇心

誉め言葉添えて使いの子を返す

自分史の最後にはさむ正誤表

いざ勝負心頭滅却して挑む

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

茶子報

利昭

修

みつ子

勲章

一平

真理子

紫陽

房江

由美子

紀美江

回春子

けんご

月満

金祥

由紀女

白兔

無限

凱柳

茶子報

孔美子

茶子

実満

すみれ

哀悼の意だけ伝えた家族葬

数え歌このつとつであの世行き

ジュビジュバと圧力鍋のカニニバル

温泉タマゴ圧力鍋になる地球

古い独りゆつくり浸る湯治の湯

断ち切ったはずの未練が胸を刺す

君だけが頼りと言われ断れず

あなたなら出来ると掛けてブレッシャー

悔るな起死回生の一打あり

飼いが悔る主の手をガブリ

満面の笑顔でとうとう夢の金

田舎道お父と牛の影を踏む

ありがたいときは素直にありがとう

悔ると灯に酔った飛魚跳んで逃げ

勝負事敵の悔り見抜くこと

彼女から圧力かかり嫁にした

とうがらし知らずにガブリ息出来ず

スロウライフ圧力なんていりません

よく見れば賞味期限はとうに切れ

当分はマスクなしでは過ごせない

上からの圧力感じノイローゼ

圧力に屈しないよう芯立てる

圧力を見せる派閥の黒い影

断捨離に母の抵抗進めない

盛桜

完司

楓花

弘子

重忠

八千代

草文

孝子

照彦

ゆたか

俊幸

瑞子

宏章

蟹郎

慎一

文道

甚祿

大鯨

静恵

かおる

弘六

小鹿

ちかし

茜

面影を断えず未練の酒に酔い
コロナ禍でこれ幸いと断酒する
止められぬ糖と脂肪のマリアージュ
香港は問答無用の街と化す

恒 正昭 友真 白周

不死不老そんな不自然あるもんか
パンにバターたったそれだけの朝食
汗が噴く塗つても無駄な日焼け止め
夕焼けに塗られたビルの薄化粧
デイの日はおしやれな気分紅を塗る
出来るかな大人のぬり絵脳トレに
八十歳ひとの顔には泥塗らぬ
日焼け止め塗ってわざわざ日に晒す

横やりを入れた割には知らん顔
慕参り齢を重ねて道遠く

ひろし 菜々

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

蓮の葉に乗ったアナタを思い出す
ゴミ捨てにどこから来たかけしからん
酒の量あなたしだいが変わるかな
親友の貴女あの世へ早すぎる
喧嘩良し貴方の思いまだ残る
くさくさするな陽は東天に煌々と
カミさんの尻に敷かれてくさくさと
静いて寝ても覚めてもくさくさと
くさくさとするな凡人なんだもの
気を急かすくさくさしだす縫糸糸
くさくさと朝からこ機嫌斜めです
くさくさが溜まるばかりのコロナ潰け
句会には持ち込まぬよう不発弾
留守中と貼った親切不信心
不細工な出来映え仕方ないかな
不格好になって来たなと老いを知る
私のどこが不満か言って見な
不自然な言動認知疑われ

麦青 次男 道春 さちこ 恭子 節子 石花菜 由紀子 萩江 重忠 智恵子 龍枝 完司 雄大 玲子 風露 紀美恵 凱柳

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

正報

コロナ禍も自分だけとは云う自信
赤ちゃんをついたこの手紫蘇を揉む
信心はないが盆来る彼岸来る
送り火に合わせる手から送り物
迷うほど道を作らぬ習主席
老若はスマホ片手に生きてます
旗振り役変ると違う風になる
ワクチンを二回打つてもまだ不安
元氣なら花も咲くんだ実も結ぶ
歳忘れ子も忘れてる叔母の幸
成るようになろうとそよぐ自歩の風
死に場所をやつと見つけたあの星だ
温暖化地球まるごと燃えている
仏だんに除菌スプレー置いておく

茂夫 大鯨 祐子 美知江 醉美蓉 恵子 けいこ 照彦

城北川柳会(大阪) 近藤

正報

ささやかだけれど我が家という母港
Uターン地元土の土になる覚悟
汚染水処理地元の声の聞いてるか
三月の港を囲む鎮魂歌
誘惑のつた港の遊覧船
台風予報港の漁船数珠繋ぎ
船になりあなたの港目指します
繁栄の光と影をみる港
浮んできたい五七五風呂の中
ロスタイム妻の浮力に支えられ
ページ繰る音と軒の深夜バス
ぶつつけのバス乗り継ぎのスリル旅
波打ち際バスが疾走千里浜
バスに乗る時もよいしと声をかけ
道の駅友の出荷の桃を買う
過疎だけ地元風はあたたかい
風鈴チリン少し揺らいだ竹すだれ
どんどんと忘れてしまふ氣にしない
元絶えず緊急事態繰り返す

紀の治 美緒 雨奇 多美子 俊久 治代 宣子 久直 恵子 令位子 千代 宏之 博子 美穂

ひろし 菜々

正彦

温暖化異常熱波が人を食ひ

読みとばす心にもないメッセージ

自動開き便座のふたにお辞儀する

野球よりドロンコ遊び甲子園

まず始めバスを覚えるバスの旅

コロナなどそっちのけにし総選挙

転ばずに小走り出来る百一歳

これからは出来ぬことより出来ること

強い生きざま見る感動のバラ五輪

朝夕に届きはじめた秋の風

コロナ禍をメダルの数で押し隠す

五紙比べはんまのホンマ見極める

さりとて地球の果ての飢餓の子よ

収束まで今日一日を楽しまん

いさぎよく散つて椿はなお赤い

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦報

損得の計算拳手を鈍らせる

六桁で足りる我が家の計算機

計算に長けた奥方建てた家

人付き合い計算高い人苦手

世の中は計算通りならぬもの

今年には昭和九十六年です

なんでもなプラス思考でいきまひよか

野 鶴

実

義 明

五 月

宏 造

昌 紀

利 子

優

賢 子

満 知 子

星 雨

篤

志 華 子

万 紗 子

黒 兎

時 雄

尚 邦

蕉 子

八 千 代

廣 子

美 津 子

勝 弘

目覚めるたび積木を一つ重ねます

泰平の眠り覚ました新コロナ

目覚めたらそこは浄土という天寿

少年が恋に目覚めて知る鼓動

胎動に母の自信と喜びと

手加減をされて気付いた実力差

晩学に目覚めて学ぶ虫眼鏡

子を持ちて親の苦勞に目覚めたり

今になり亡父の言葉に目が覚める

秋彼岸一氣に目覚め曼殊沙華

犬を飼ひ責任感に目覚める子

聞こえますかと天使の顔が迫る朝

老いてなおますます燃える好奇心

ヒト科いつ目覚めるだろうか核兵器

マナーの一步上手に言えたありがとう

マナーの良さ育ちの良さを示してる

親密度増せど節度は崩さない

肅肅とマナー通りにおくりびと

腰低くひくく老舗を守る老母

掃除して帰る楽しかったキャンブ

最高のマナー対話の聞き上手

人間のマナーの悪さ泣く地球

なり振りを構わぬ母は強かった

何がなんでも彼女見つけて連れ帰る

扶美代

進

玄 也

憲

志 津 子

和 夫

瑠 美 子

敬 子

雅 明

み つ 江

満 知 子

敏 治

憲 彦

み つ こ

万 紗 子

光 雄

俣 子

朝 子

ば っ ち

ゆ み 子

ひ ろ 子

堅 坊

さ くら

舞 夢

なんばでも金はあるけど連れが無い

泣き言は勝つまで言わぬ強い意志

仲睦まじく絵画の中で鶴が舞う

長かった介護の日々を綴るメモ

いさお

正子報

和 代

政 夫

一 彌

弘 光

淳 司

克 三

靖 子

五 月

景 子

園 子

清 乃

悦 夫

少し秋穂穂の先の赤とんぼ

夏が去り秋の入り口赤トンボ

酒井 健二報

対局に勝てばこれほどまで過密

婆さんが初体験と言う豪雨

車好き社名車種言う孫二歳

満 作

宏 造

正 子

和 代

政 夫

一 彌

弘 光

淳 司

克 三

靖 子

五 月

景 子

園 子

清 乃

悦 夫

恭 子

好 文

玲 子

びつくりはすまい聞かないことにする

腰据えた独りに驚くものはない

あの時代びつくりさせた地動説

お祭りで昨日出会って今日コロリ

タリバン支配アフガンは江戸時代

懸命に働く「ルンバ」愛おしい

大正モダン横浜育ち母いとし

歪なる苦勞の十指愛おしい

読経中邪魔するヤブ蚊叩かれる

青い目の人形抱いた写真の亡母五歳

愛しき子ブルーリボンも色褪せて

真夜中に揺れるカーテン軋む床

一引く二答えをゼロにする自然

築明治座敷わらしもわが身内

行く先は鰻のみ知るミステリー

ああ不思議こんなに長く夫婦です

私がここに生きてるミステリー

大雨がふるさとの良き押し流す

手を振って歩けと影が押してくる

人生の灰汁が出て来る押し洗い

絶好のチャンスですよと風が押す

ワクチンがもつと生きろと背を押す

開くまで押し続けている子の大志

火の車押して育ててくれた母

迪修

盛夫

健二

義博

勝弘

哲子

直美

正和

真桜子

厚子

高志

哲夫

優子

英秋

ひとみ

洋次郎

良子

義徳

千賀子

光久

廣光

武彦

紀恵

化けてでも出て来て呉れと言う弔辞

加齢だと言われるうちは皆元氣

デジタルの海で溺れているお猿

物語すれば貴方も縁続き

諦めぬ事を学んだバラ五輪

切りのない欲が毎日貌を出す

無駄なこと無性にしたい時もある

シャンパンを買って待つて解除の日

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

花の種鳥が運んで四季めぐる

鷹産んで鷹東京へ行つたきり

鳥の声聞きたく赤い実を残す

音楽に合わせて音頭とるインコ

にわとりも一度飛びたい高い空

来世では君を見守る鳥になる

飛ぶ鳥を落とした夫を介護中

妻や子や家中に飛ぶ青い鳥

電線にカラスが並ぶ月曜日

乗ってしまったら機長任せの航空機

疲れました探さないでと青い鳥

運を天に任しひたすら玉の汗

一切を子等に任せて高軒

男気に惚れて全てを任せます

哲男

利子

一子

俊昭

雅尚

稠民

勝士

博

民子

俊雄

ひろ子

満作

(奥)五月

雅美

篤

はな

ゆみ子

こみつ

千代美

寿之

里子

朝子

金で済むことならボクにお任せを

任せたらそつと見守るそれでいい

任しとき諭吉がちゃんとしてくれる

面倒なことは任せてくれる上司

新任に仕事任せせるのも度量

妻が臥せ家事の重みを知らされる

寿命なら神と仏に託してる

任せなさい言つた本人雲隠れ

パニックを静めるように陽が沈む

気がつけば入れ歯忘れて食事会

古日記葉がさらになつてゐる

あずかつた孫が朝から泣き止まぬ

予約せずぶらり気ままな旅が好き

通院日を忘れる曜日のない日々

ばつくりの予約しているお賽銭

接種予約してから起こる気のゆるみ

映えだけで人気の料理予約する

婚約しても結婚すると限らない

近く予約もつて産まれてきた命

予約いらず飲み屋の隅が僕の席

夕立の後にきれいな虹予約

六甲川柳会(兵庫)

桃谷

和郎報

いさお

万紗子

進

保州

郁子

江里子

行兵衛

ふりこ

佳子

一歩

寿子

まつお

克博

眞澄

さくら

和夫

裕之

としお

ばつは

久仁雄

克己

真桜子

不意を衝く孫の帰省で酒旨く

(廣) 洋一

暑いのでパンツ一つに不意の客

勝 弘

すき焼きや不意に言い出す亭主殿

盛 夫

二・三日留守にしますと妻の乱

武 彦

呼び捨てにされて好きだと気付く仲

利 恵子

ピッチャーをコロコロ代えて目眩し

正 和

お代わりは濃い目にしてねハイボール

博

代替のお節はビザになりました

美津子

妻の代わりないからいつも低姿勢

廣 光

キュービット矢が足りません待ち多く

ひろし

見つめられわくわくしたのが知らぬ人

正 彦

わくわくと見ているだけの旅パンフ

崇 史

両手に花三日つづいて持て余す

公 輔

約束はまだ三時間先なのに

ひとみ

紆余曲折五輪感動ありがとう

義 明

抱き締めて叱られている骨粗鬆

洋次郎

折鶴にコロナ収束願ひ込め

克 美

ごめんねと折れて円満いつも僕

隆 浩

今日のどこ折れておこうか明日がある

千賀子

口惜しさは金の力に折った膝

狸 月

地蔵盆世話人だけでひっそりと

正 美

イケメンになれぬが優しくはなれる

和 郎

ちょうど良い距離感探る熟年期

次 郎

私からわたしに贈る金メダル

ヨシエ

歩かねば明日の幸せ掴めない

光 久

悔しさが次の一步の糧になる

利 子

バリ五輪セーヌ川べり遊ぶ夢

弘

閻魔さえ見舞の嘘は咎めない

哲 男

四面楚歌まだ上と下あいてる

和 宏

金メダルの笑顔マスクの中にある

美 穂

川柳ねやがわ(大阪)

龍島

恵子報

その時のために温めている右手

常 男

五百羅漢に災禍潜った父の顔

信 子

熟練ののらりくらりは値切る術

欣 之

無位無官昭和を生きたノンキャリア

千 賀

手花火の笑顔笑顔は絆の輪

寿 之

その時の玉音耳にまだ残る

彰 一

あわやの時に月光仮面来た昭和

かずお

永遠に忘れぬ八月十五日

弘 一

夢を追うその時どきの青写真

か こ

その時は新たな道を切り開く

朝 子

日頃から準備万端してまっせ

武 彦

この暑さ天罰だよと神の声

秀 雄

災難をどんと超えてく心意気

高 志

屋根に穴隕石ならば許される

かすみ

無為無策自宅療養強いられる

勝 弘

学生服値切る親父を思い出す

義 広

特売でもっと安く値切ってる

一文

素晴らしい豊富なキャリア頼り甲斐

ルイ子

媚びること無しに出世のノンキャリア

武 人

雑草という名で耐えるノンキャリア

和 織

キャリアなどないが僕には孫がいる

郁 夫

キャリアにも一言居士は怯まない

博

ノンキャリアの地味で揺るがぬ正義感

祥 昭

命より五輪大事にした政府

銀 杏

羽二重のような薄雲「明日も晴れ」

弘 子

望郷の球児に拍手八十路坂

麗

たつぷりの愛が裏目に出た非行

高 鷲

下手でいい手書きの便り心待ち

千鶴子

足腰の機嫌うかがい一万歩

弘委智

トクトクトク一升瓶から秋をつぐ

寿 子

残り火がほんのり燃える遠花火

堅 坊

明日こそきつとよくなる諦めぬ

賢 子

同病の友と明日の夢語る

あかり

薄墨の文字が無念を募らせる

仁

溜息をつく程青い青い空

壽 峰

長 柳 会(大阪)

辻村 ヒロ報

同世代阿吽の空気感じ合う

ヒロ

新緑の夫夫のおお誇らしく

おくみ

ゲリラ雨なんとかならず濡れに

たけし

コロナ危機ステイホームの長い道場の空気よめずに間合い恥をかくドタキャンを笑い飛ばした金メダル延長に延長重ねアキがくる

昨日買ったセーター今日は半額に

コマーステレビに返事それなんぼあつしたカード忘れた5倍デー

果籠りへ買つた果実は苦かつた

小細工で勝つた果実は苦かつた

定年後現役妻の紐となり

老い深し脳波の記録白紙がち

日本株米国なぞり乱高下

アーメンと懺悔も済ませ身を清め

母遺影いつも微笑み語りかけ

自信ある男は見せぬ力瘤

細く長く続けた趣味が生きる糧

趣味道に限りがないと思ひ知る

来し方に心残りが多すぎる

長らえて今振り返る幾山河

百越えて生きてみせると今日も酒

今一度見たい会いたい鬼ヤンマ

夕焼けの空に染まるや赤とんぼ

爆弾を抱いて飛び立つ赤とんぼ

目を回すもんかと耐えているトンボ

三和子 ゆき 秀子 くに お登美子

秋の夜に集く虫の音長電話
はらはらときどきさせて子は巣立ち
子育ては成功したと自画自賛

純風 ふみ 由夏

手の触れただけでビリリと初心な恋
保育器の命へ懸念な祈り
正直なコメント心にぐつと来る
コメントも甘い辛い味が付き
金撒いて票を集める未熟者
未熟だな言い訳ばかり考える
未熟さを知って黙って汗をかく
タレントが誉めたお店の列にいる
コメントを求められても言えぬわけ
知識長け倍楽しませるコメント
嘘少し混せて華やかなコメント
コメントは面倒だから「いいね」だけ
コメントの途中笑顔入れておく
感情を抑えてコメント読み上げる
いさぎよい敗者の弁に希望の灯
コメントへ嬉し涙がこぼれ落ち

敏治 朝子 理恵 洋二 喜代志 信子 康信 眞澄 優 世紀子 扶美代 万彩 香代 三成 憲彦 昌代

孝

星三つコロナに勝てず店閉じる

和 美

コメン

万彩

靖博

良心を脱がねば越せぬ山もある

楓 楽

コメン

香代

洋二

本当の涙は喪服脱いでから

ひろ子

感情を抑えてコメント読み上げる

三成

淳司

防護服脱げない僕の職場です

玄也

いさぎよい敗者の弁に希望の灯

憲彦

孝代

脱皮する度つきまとう女偏

恵子

コメントへ嬉し涙がこぼれ落ち

昌代

隆彦

働いた姿で脱いである背広

常男

コメン

昌代

千代

被った猫を脱がせたのは訛

航太郎

コメン

昌代

和子

脱皮するたびに小さくなってゆく

ふさゑ

コメン

純子

直樹

菅さんの未熟さの出る首相の座

秀夫

コメン

奈津子

幸子

伸び代をたっぷり持っている未熟

和子

コメン

正子

隆明

子ども殺し親は大人になってない

一歩

コメン

一弥

正博

答弁が未熟で野次り倒される

義泰

コメン

勝弘

正美

未熟ですがと若き語り部原爆忌

みつ江

コメン

順子

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

何年後も心の痛む親不孝

ストレスをためて心を病んでいる

コロナ禍に病む人間と居酒屋と

時時に古い過ち叱る妻

ときどきは通帳残高じつと見る

補聴器に無視されている妻の声

耳は大変メガネにマスクイヤリング

総裁選耳の大きな人が良い

川柳花の輪(大阪)

川本 信子報

安心と安全を耳にこの一年

立場変ればきつと逆のことを言う

安全を通知してくる詐欺メール

貸した金返して貰い礼を言い

遠回りしてから運が向いてくる

秋の子感今も昔も風の音

逆転無罪で還らぬ日々無念

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

軽々し市長の嘸んだ金メダル

五輪の書読めば武蔵の息づかい

日本の若い力をみた五輪

ペン肝臓が破ればぼろりと出た秘密

転がった先で根づいて花咲かす

契子

直子

黒兎

堅坊

守啓

春代

宏造

則彦

各論になると損得転げ出る

行く先に夢がいつぱい卵達

金の卵輝きを増す甲子園

卵が孵る先祖と神に背を押され

コロナ禍さえ無ければ楽し五輪・バラ

情熱をかくさぬ晶子夏帽子

ほろほろのわたしへ花のいい笑顔

輪の外に出たら自分がよく見える

心破れてほろほろと男泣き

ほろほろと仏の過去が通夜の席

時時は強がり言つてムチ打つて

ホームレス元気に伸びる爪と髪

慣れ合いの中で炎は飛び火する

転ばぬ様先行く足の跡辿る

五センチの段差で転ぶ昨日今日

風に乗り草に寝転ぶ山頭火

失敗の数だけ汚点転げ落ち

二才からずつと一緒のクマさんは

ぼろぼろの一手手前で立ち直る

マイナーな競技に光さす五輪

紆余曲折の五輪ようやく幕を明け

よく転ぶ角がとれたと自惚れる

笹舟に乗って蟻の子海めざす

ぼろぼろの原発稼働気が知れぬ

哲男

光久

廣光

和宏

りこ

美津子

いわゑ

利子

千代

紀華

千賀子

正和

恭子

(備)弘子

堅坊

武彦

野鶴

ひとみ

哲子

敦子

野薫

正彦

真桜子

勝弘

虚と実を合わせるような夏の雲

墓地整理先祖の地とは別れ告げ

転びなや今じゃ子供に諭される

溶けそうな四十度には身がもたぬ

歓声を信じアスリートの奮起

一億を賛否分断した五輪

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

とほとほと牛乳二本は重たいよ

レッテルがついてしまった嘸む市長

勤務先レッテル先に着いていた

鯨も牛もレッテルはつてハクが付く

人格者のレッテル貼られ荷が重い

頭たれ稲穂しずかに時を待つ

エルメスのバック持つ手にエコバック

腹八分二分は理性を食べている

妖精の美技に見驚れる新体操

文系と言うが理数が出来ぬだけ

美人なら手軽に誘い喫茶店

手軽にと買う弁当は愛がない

断捨離が進まぬ我家ゴミ屋敷

コレクション子に言わせれば只のゴミ

ゴミ出しは僕の領分口出すな

退任の挨拶やはり原稿か

弘委智

忠夫

新録

みよし

はな

一徳

れい香

和子

菊江

厚江

良種

初音

照代

紀恵

純

英坊

柳明

正彦

千賀子

新録

健二

(八)修平

相手してといつもの猫に凄まれる 美 籠

ライバルもとほとほと来たクラス会 (俗) 修 平

お向かいが買った新車が目に障る かずお

気がよわくアツシー君にさせられる 宏 造

そこ除けとぶつかつて来る「ルンバ」君 勝 弘

八十のレットル貼つてある背中 耕 治

川柳塔なら

大久保眞澄報

三枚目の舌もあります女です 希久子

この頃は三枚舌も居てますよ (江) 勝 弘

京言葉二枚舌とは気付かせず 敬 子

二枚舌赤木のメモで暴かれる 一 歩

二枚舌いいえ政界それ以上 もと子

言い訳の在庫あります舌の先 風 鈴

政治家の器用に使う二枚舌 ひろ子

しつこいな切つても生える二枚舌 則 彦

舌の根の乾かぬうちに法螺を吹く 満 作

二枚舌二転三転目が泳ぐ 万 紗子

酒二合飲めば好調二枚舌 武 人

政治家は息吐くように二枚舌 史 郎

二枚舌いつか我が身に裁かれる みつこ

ボスの咳一つで私語がびしゃり止み 篤

反対の意見びしゃりに拍手湧く 大 子

藤井二冠ビシヤリ強気で指す一手 崇 明

想像した通りになっている浮気 亜 成

酒飲めばあと三年と言う主治医 (平) 美智子

妻の勘びしやりと図星突いてくる 和 郎

出る杭をびしやりと叩く自己保全 行 久

詮索はさせぬ封印した秘密 恵

鞭打たれた馬の痛みが分かる馭者 保 州

戸をびしやり青い火花が散っている 純 子

一喝の濁声雑談をびしやり 欣 之

僕のを覚ました母の平手打ち 俊 八

何気なく言つた言葉が身を救う 裕 之

何気ない言葉の裏にあるヒント いさお

何気なく見せる笑顔に惚れている かずお

バンドミック何気ない日を持って行き 羅 天

何気ないふりができないこの両手 昌 代

置き場所を変えたことだけ覚えてる 恭 正

何気ない後ろ姿にでてる歳 すみ子

何気ない会話に宿る温か味 定 生

遅れ髪の前妖艶なる雅 寿 之

達人の所作は無駄なく何気ない 和 夫

川柳塔まつえ吟社(島根)相見 柳歩報

織り旗売り出し中ですのワタシ 吹 喜

白旗の裏に真つ赤なベロを描く 柳 歩

付度の旗は担がぬ蝸牛 雪 代

余り物しばらくねかす冷凍庫 知恵子

余裕ある人には見えぬ黄信号 美智子

余生などと言わぬぞ逝つた子が怒る 弘 充

余り嫌われています知ってます 芳 山

夕の膳甘い辛い今日の幸 米 估

しつとりと舌に遊ばすオリゴ糖 徳 利

人並に甘美な過去を胸の持つ 豊 仙

粉砂糖こぼれるほどのケーキ食う モナカ

考えの甘さを叱る原稿紙 桂 子

びつしりのノートにさつぱりのテスト 瑞 人

エンディングノートあちこち酒のシミ みちを

日記には甘い辛いも残しとく 邦 代

レシビ帳開けばにんにくの臭い らんまん

ノートにはバラバラ漫画執筆中 青 帆

凸凹なノート真つ直ぐ駆ける息 とも子

あかつき川柳会(大阪)磯島福貴子報

自粛しろならば補償もセツトだろ 征 之

フルセツト死力尽くした金メダル 克 己

親族を揃えてくれる母がいる 峯 二

カジノセツトは要らぬ浜っ子浪速っ子 鈍 甲

カミさんと二人セツトの五十年 蒼 水

支え合うふたりでやつとワンセツト 朝 子

コロナ禍を氣遣う母の荷が届く ゆうこ

血の濃さとセツトにされている介護
親子孫爆笑続く三世帯

この一夜月下美人は本気です
生きてるかいびき止まれば気にかかる
グレタさん怒らせそうな宇宙旅
氣象庁一年中が多忙です

幼な児の無垢な笑顔に氣をもらう
氣休めは言うまい治ったら飲もな
その意氣を集めて太くなる九条
敗戦へ不戦誓った日の本氣

靈氣が満ちる森の小径の十五分
時に満足時に不満もこれ生きがい
中ぐらいの満足が好き林檎剥く
千年を生きた填輪の満足度

今の暮し満足ですか予診票
それにしても満場一致すぎないか
ルームランナー五輪選手になりきって
決勝まで洗わなかったユニホーム

六地蔵みんな笑ってくれました
派遣切りそれから昼夜コッペパン
赤字開催掠め取ったのはパッパ
アフガンにヒト科はヒトを殺す獣

秋霖に打たれて首相くずおれる
ワクチン大国は軍事も大国

りゅうこ

高 鷲

千代美

己智子

太 郎

穴 道

楓 楽

敏 治

なすな

和 子

みつこ

章

常 男

みつ江

春 雄

保 州

良 岩

和 大

心平太

緑

里 子

黒 兎

正 治

いさお

第44回 寝屋川柳大会 (誌上大会)

題と選者 (各題2句)

「悩ましい」	高田 博泉	選
「さっぱり」	西出 楓楽	選
「天 国」	碓井 祥昭	選
「ピンク」	木本 朱夏	選
「孕 む」	菱木 誠	選
「宇 宙」	小島 蘭幸	選

投句要領 規定の用紙(コピー可)

なければ便箋可

投 句 料 1000円(切手不可)

投句締切 11月25日(木) 厳守

各 題 天位に呈賞

結果発表 1月下旬頃 発表誌送付

問合せ先 藤村亜成

TEL 072-867-4603

携帯 090-6670-6646

投 句 先 573-1104

枚方市楠葉丘1-9-13

藤村 亜成 宛

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

支持率が上告止めた黒い雨
隠し病床尾身会長出しなはれ
コロナ治療見ざるで稼ぐ医師の笑み
バラリンピック五体満足何のその
ごめんなさい悪い空想してました
よく喋るきつと何かがある女
お見舞のウソが心に引っかかる
釣銭を百円多くもらっちゃう
断りの理由に混ぜた嘘少し
故里に帰れば今も出る訛り

(河) 正
九条男
冬のト
福貴子
みつ江
ダン吉
かずお
勝 弘
大 子
ちづる

方言と地酒に旅の夜が温い
湯治湯で客の方言じつと聞く
なまり聞きすぐにわかった同郷人
瘦せた手を握り顔色ほめている
ケンカしているかと思う河内弁
おおきにと言う方言に辿りつく
河内弁仲裁に来てまたもめる
方言で話すと誰も傷つかぬ
そうじゃけんじゃけんの中の穴子飯
ほつこりと方言で道教えられ
河内っ子ガキの頃から河内弁

久仁雄
喜代子
シマ子
一 歩
扶美代
まつお
瑠美子
みつこ
ひろ子
いさお

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川柳大阪	15日(月) 事務局必着 誌上句会 もしも・光・冷える	〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西2-4-23 中原比呂志 TEL 0745-75-3655
豊 中 もくせい 川 柳 会	15日(月) 13時50分締切 指・効く・うっかり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩 5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 たちばな	19日(金) 13時45分締切 印象吟・窓(互選)・寄る・自由吟	園平コミュニティーホール 阪急「園田」駅 〒661-0953 尼崎市東園田町 3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	20日(土) 両手・反省・惜しい・コラム	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩 5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川 柳 塔 みちのく	20日(土) 17時締切 漁火・反応・鮮やか	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL 0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL 0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	21日(日) 14時締切 チャレンジ・ごそごそ・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	22日(月) 14時締切 痛い・ポイント・秘密・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
川 柳 塔 すみよし	27日(土) 14時締切 鍋・探す・馬鹿馬鹿しい事	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	27日(土) 13時15分締切 働く・柿・文化 投句締切18日	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 川 柳 会	28日(日) 14時締切 景色・許す・コップ・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	28日(日) 13時から 自由吟・ヒット・うっかり・ケーキ	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町 2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川 柳 ねやがわ	25日(木) 市民川柳大会(誌上) 悩ましい・さっぱり・天国 ピンク・孕む・宇宙	投句先 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉 投句料:1,000円 各題二句
川 柳 さ ん だ	誌上句会 5日(金)締切 やぶへび・忙しい・セーフ 注ぐ・自由吟	〒651-1545 神戸市北区鹿の子台南町4-46-5 富永恭子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

11月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な　　ら	4日(木) 日常・ベコベコ・映える 誌上	〒636-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優
城北 川柳会	6日(土)14時締切 言い訳・ガラス・遅い・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷藤弘
川柳 とんだばやし 富柳会	6日(土) 草・フリー	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉 川柳会	6日(土)14時締切 矢面・ぎょろり・うすうす・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 つ　　え ま　　社	6日(土)13時30分締切 雲・捨てる・まんが・レンズ	投句先 〒690-1233 松江市美穂関町笠浦221-1 相見柳歩
川柳塔 さ　　か　　い	8日(月)投句締切 チャンス・無邪気・剥がす 折句:つ・し・ま	投句句会へ変更
西宮北口 川柳会	8日(月)14時締切 席題・滲む・壁・まさか・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	9日(火)13時30分締切 料理・隠す・もう	豊中市立蜷池公民館 阪急・モノレール蜷池 蜷池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒鬼
川柳 あまがさき	9日(火)14時締切 当たる・密室・ひやひや・自由吟	園平コミュニティホール 阪急「園田」駅 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
六甲 川柳会	11日(木)誌上句会 普通・受ける・このこ しかし・自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川柳会	12日(金)14時締切 深い・先・迷惑	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳塔 打　　吹	13日(土)13時30分締切 トランク・忘れる・どんどん・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	14日(日)14時締切 番号・のんびり・戦い・雑詠	八尾市安中町3-5-1 渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川柳塔 わかやま 吟　　社	14日(日)14時10分締切 兼 題＝気楽・各・ロスタイム 課題吟＝紙	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪藪町東2-208-5 栗原道夫

柳界展望

加者264名。同人成績。

秀句 平井美智子

「老人性」という灰色のカルテ

秀句 古手川 光

これっぽち最後は著で摘まれる

秀句 鴨田 昭紀

袈裟懸けに国が弱者を斬り捨てる

★竹原川柳会創立65周年記念誌上大会。参加者76名。本社同人成績。

天 新家 完司

酒を飲むためにこの世へ罷り出た

天 森山 盛桜

軽い骨だったと思う竹の箸

山下凱柳著

▽出版△

★おりひめ☆ひこほし川柳会創立記念誌上大会には311名の参加者があり、本社同人成績。

天 藤澤 照代

運命を握る地球の核ポタン

天 高瀬 霜石

ご先祖の言の葉を織るこぎん刺し

天 平井美智子

喜んでくれた相手をしてくれた

天 報△

○都倉求芽さん（参与・京都市）10月3日逝去。享年93。

▽出版△

山下凱柳著

▽出版△

山下凱柳著

▽出版△

句集「愚蛙の戯言」B ていずもの一世紀

6判96頁、私家版。

▽新誌友紹介△

▽訂正とお詫び△ 広島市 森田 博之

○9月号、P39下段14行 紹介者 木本 朱夏

目 緑之助けあつていず 大阪市 船見 憲央

もの一世紀！緑之助あつ 紹介者 初代 正彦

川柳カリオンの会創立7周年記念

*新型コロナウイルス終息折念川柳誌上大会

宿題（各題2句）選者

「ムード」 岡崎 守・平井美智子 共選

「そろそろ」 坂下 清・佐藤 清泉 共選

「心残り」 新家 完司・柳岡 睦子 共選

「野暮」 重徳 光州・平田 朝子 共選

「温泉」 規定の用紙（コピー可）用紙が入

投句要領 規定の用紙（コピー可）用紙が入

投句料 1000円（切手不可・発表誌呈）

投句締切 令和4年1月15日（消印有効）

問合せ先 事務局 八甲田さゆり

電話053215518599

〒44010897

豊橋市松葉町2丁目45

豊橋松葉郵便局留

豊橋市新本町62（河合方）

川柳カリオンの会宛

句 会 部 よ り お 知 ら せ

川柳塔本社 12 月句会は、下記の要領で誌上句会と致します。
皆さまのご投句をお待ちしております。

記

『川柳塔』誌 11 月号に投句用紙を同封します。

(未読の方は川柳塔事務所にご請求ください。)

投句締切 11 月 30 日 (火) 消印有効

入選発表 『川柳塔』令和 4 年 2 月号

投 句 料 1000 円 (切手不可)

兼 題	「焦 る」	米澤 俣子	選	(大阪府)
兼 題	「ちらちら」	岸本 宏章	選	(鳥取県)
兼 題	「こりごり」	森松まつお	選	(大阪府)
兼 題	「驚 く」	句 ノ 一	選	(静岡県)
兼 題	「過 去」	小島 蘭幸	選	(広島県)
(各題 2 句出し)				

問い合わせ・送り先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-17
花野ビル201 川柳塔社
TEL 06-6779-3490

番傘フェスタ2022誌上大会

令和4年の番傘フェスタは誌上大会です
全国の皆様のご参加をお待ちしております

宿 題 (各題1句・選者は50音順)

「重ねる」 赤井 花城 選

「渦」 岡崎 守 選

「溺れる」 小島 蘭幸 選

「街」 雫石 隆子 選

「辿る」 矢沢 和女 選

「反 応」 田中 新一 選

「和 む」 森中恵美子 選

投 句 料 1000 円 (郵便小為替・切手不可)
令4年2月4日 (金) 必着

投 句 用 紙 (投句はお一人様一口に限る)

規定用紙 (コピー可) 番傘本社の

ホームページからダウンロードで

きます。

投 句 先 〒530-0047

大阪市北区西天満5-6-26 1605

番傘川柳本社 フェスタ投句係

発表・賞 各題にフェスタ賞呈

発表は番傘4月号

問合せ先 TEL 06-6361-2456

主 催 番傘川柳本社

編集後記

★柿の木と歳に西日が美しい
★お待ちせしました。六

薫風

賞発表号をお届けします。六
路郎賞・川柳塔賞選考のため八月某日事務所へ。例年なら主幹・理事長・副主幹が一堂に会するのだが、今年是一次選考委員に入られた内藤憲彦さんと二人で応募句全部をチェック。その後、大輪副主幹へ、副主幹から完司理事長へ、理事長から蘭幸主幹へと順次郵送、主幹が最終の15人を選ぶ。

★主幹が選抜した応募句をコピーして地方の選考委員に郵送。各選考委員から返送された結果を集計、という煩雑な作業を経て路郎賞・川柳塔賞が決定しました。受賞者の皆さま、おめでとうございます。惜しくも受賞を逃された方々は次の機会へと夢を育んで頂きたいと思います。

★「コロナのお陰で現在の体制のままでもう1年編集長を」と、完司理事長からお電話を頂いた時、去年も同じ言葉をお聞きしたなと思った。今年の秋は次の人にバトンを渡すはずだった。来年の秋まで引き続いて編集長を務めます。ご協力をよろしく願います。

★少女のころ、ポプラ社や小学館の少年少女世界文学全集を夢中になって読んだものだ。「小公女」「ああ無情」「アルプスの少女ハイジ」「シャロック・ホームズ」……。なぜか最近「巖窟王（モンテクリスト伯）」を読み返したくなった。新潮文庫で全7巻、約3000頁！取り寄せてはみたものの、その重量に呆然。子供のころはダイジェスト版だったが、原作がこ

んなに長編だとは思っても表記されません。よらなかった。因みにモンテクリスト伯の第1巻は1956年に第1刷、2020年第95刷発行。「見れる」は、ら抜き言葉の名作は永遠に読まれ続ける。時あたかも読書の秋、しては当然のことでしょう。モンテクリスト伯の華麗なる復讐につき合って睡らない、許さないと言明する人もおられます。

（朱夏）

○テレビのニュースの中で、街角で一般人の声があります。書いているのは、紹介されることがあります。大抵は画面に、文字

「過保護と退化」

免許返納かと悩んだ末サボカーならと安全機能たつぷりの車にした。危険を教えてくれる優秀な車だが少々煩い。ぶつかると警報音とピーピーピーと警報音がぶつかるとはまた15cmもある。4回も切返しての車庫入れで下手になった気がする運転。

もう一つの安全に「高齢者見守りシステム」も入れた。ボタンひとつで病気にも泥棒にも対処してくれるすぐれもの。

（森田 旅人）

二十四時間私に動きがなかったら駆けつけてくれる。電話コネクタをちよつと外したら「何かありましたか、出勤しなくていいですか」と電話があつた。確かに見守ってくれている。蟬の鳴き始めた日突然男性の声「熱中症の恐れがあります、水を飲んでください」驚いたが見守り機からであつた。度々で煩いので見守り機に保冷剤をあてて沈黙化。「これって？」

き言葉よりは扱いが緩いようです。

○い抜き言葉に寛大なのは、話し言葉によくある省略に近く、文法云々ではないからでしょうか。

○ら抜き言葉はどうでしょう。書ける、行ける、などの可能動詞がある限り、この誤用も市民権を得ていくかもしれません。

○短詩型で言葉命の川柳には悩ましい問題です。

（眞澄）

作品募集

1月号発表(11月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島 幸選
水煙抄 (8句)	川上 大輪選
愛染帖 (2句)	新家 完司選
檸檬抄「盛る」 (2句)	桑原 道夫共選
久保田 千代	
インスピレーションナビ (2句)	大西 泰世選
「節目」	森山 盛桜選
「アドリブ」	山本 希久子選
「器用」 (3句)	居谷 真理子担当

初歩教室「器用」は2月号発表

2月号

檸檬抄「淡い」

一路集「ずばり」「理由」

初歩教室「ほっこり」

お知らせ

第27回川柳塔まつりは新型コロナウイルス感染症拡大のため誌上大会として開催、9月30日締切りしました。発表は12月号です。

緊急事態宣言が解除されましたが、冬に向けて第六波の懸念も予測されています。今一度、基本に立ち返り、三密を避け、マスク、消毒、換気を心掛け、ご安全にお過ごしください。

本社12月句会は誌上句会です
詳細は川柳塔11月号117頁ご参照
投句締切日11月30日、発表令和4年2月号
兼題「焦る」「ちらちら」「こりこり」
「驚く」「過去」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

〒543-0052
大阪市天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)

発行人 小島 幸
編集人 木本 朱夏
印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社

電話(06)六七九一三四九〇番
振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）



0120(11)5283

橘詰農園の味好みかん

～家族で作り上げるこだわりの味～

健康なみかんの木から採れる絶品

余韻に浸れるほどの「コク」をお楽しみ下さい

〒649-0141 和歌山県海南市下津町小南 349

TEL & FAX 073-492-1692

E-mail beetrus@nifty.com

<http://www.hashizume-nouen.com>

